

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251001 スタディスキル A 1	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のによってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	建築学科1年生が半分に分かれて受講する授業の一つで、29名対象であった。授業の進め方としては、教科書を活用しながらパワーポイントによる解説を行った後、授業ごとのテーマに沿った調べ学習等を行い、授業の末に課題を示し、オンラインによる提出とし、毎回評価した。達成目標については、授業直後における内容理解や達成度は一定程度以上であったと評価できる。最終レポートの出来は昨年度以上に論理性を重視して指導・評価した。この成果が継続し、日常の学習や研究に色濃く結びつけていくことが今後の課題である。	毎回の課題の内容及び難易度について再度見直し、これまで以上に大学における学修の向上に資する授業にしていけるための工夫を継続していく。	授業評価 4.393 回答率 93.1% 科目GPA 2.45
L251002 スタディスキル A 2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のによってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	建築学科1年生が半分に分かれて受講する授業の一つで、29名対象であった。授業の進め方としては、教科書を活用しながらパワーポイントによる解説を行った後、授業ごとのテーマに沿った調べ学習等を行い、授業の末に課題を示し、オンラインによる提出とし、毎回評価した。達成目標については、授業直後における内容理解や達成度は一定程度以上であったと評価できる。最終レポートの出来は昨年度以上に論理性を重視して指導・評価した。この成果が継続し、日常の学習や研究に色濃く結びつけていくことが今後の課題である。	毎回の課題の内容及び難易度について再度見直し、これまで以上に大学における学修の向上に資する授業にしていけるための工夫を継続していく。	授業評価 4.568 回答率 86.2% 科目GPA 2.31
L251004 スタディスキル SD2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のによってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	シラバス通りに実施。目標①ノートテイキングを前期終了時に実行している学生は相変わらずずかずかしいない。目標②レポート作成については、定期試験レポートを見る限り、形式に則って作成できた者が半数程度。例年通り学生間の差がひじょうに大きい。テーマを自ら設定し、リサーチして調べたことをレポートとして構成することは、留学生も多い現在、かなり難しいものになっている。目標③リサーチ方法については、AIによる検索方法について最新事情も含めて丁寧に説明した。また従来のAND, OR, NOT, プレーズ検索等のキーワード検索も紹介した。	・設問4（達成目標の成果を得るために、適切な指導が行われましたか）の評価が3.9とひじょうに低い。毎回UNIPAで課す課題の採点とフィードバックの作業負担が大きく、3,4回まとめて行うことが常態化していた。それに対する評価かもしれない。レポート形式や情報検索方法について、繰り返し丁寧に説明を尽くし、多くの資料も提供したが、あまり効果がないようだ。 ・学んだ実感を得られるよう、自ら手を動かすワークの時間を毎回確保する。	授業評価 4.164 回答率 64.7% 科目GPA 2.29
L251005 スタディスキル B1	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のによってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業内容は、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成の5つに分けられる。このうち、本学の施設紹介は、経営の基礎Ⅰにおいても似た内容を扱うため、必要なものは両方の授業で扱い、そうでないものに対しては必要な調整を行った。また、レポートの作成は、情報リテラシーにおいても扱うが、大学の低学年のうちに身につけておくべきスキルなので両方の授業で扱った。レポート作成の授業において繰り返し説明したにもかかわらず、半数以上の受講生の前期試験レポートの文献欄に不備があった。	次年度は、レポートの文献欄の作成方法に関する授業時間内課題を出題する等の対応を考えたい。	授業評価 4.35 回答率 85.2% 科目GPA 2.96
L251006 スタディスキル B2	①効果的にノートを取り、授業で学んだ知識を後から自分で再現できるようになる。 ②レポートやプレゼンテーション用のレジュメやスライドの構成を自ら考え、形式のによってそれらを作成することができる。 ③図書館やインターネットを利用して課題に関連する情報を収集し、整理することができる。	スタディスキルの授業では、自己紹介、本学の施設紹介、ノートの取り方、文章の要約、レポートの作成について学習した。授業内容によっては、総合経営学科の他の科目（経営の基礎Ⅰ、情報リテラシーなど）と重なるところがあるが、学生が今後の学習で必要となるスキルであるので、重複して学習した。文章の要約とレポート作成の授業では動画を視聴させるなど授業内容が単調にならないよう工夫した。授業全体を通して、大部分の受講生は熱心に取り組んでいたと思われる。	ノートの取り方やレポートの作成方法などを身に着けるためには、そうしたスキルが必要となる場面が必要であり、また個別的な細やかな指導が必要であると思われる。個別的な細やかな指導を心がけていきたい。	授業評価 4.373 回答率 84.6% 科目GPA 2.27
L251007 スタディスキルB3	本授業の目標は、大学での学びを学生にとって意味あるものとして活用できるよう、基本的な学習技術（スタディスキル）を身につけさせることにある。 授業の達成目標としては、以下の力を育成する： ・効果的なノートの取り方を習得し、授業内容を自分で再現できるようになる ・レポートやプレゼンテーション用のレジュメ・スライドを自ら構成し、形式に沿って作成できる ・図書館やインターネットを活用し、課題に関連する情報を収集・整理できる	高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れることをまず、高校とノートの取り方、講義ノートのとり方、レジュメやレポート作成の方法、図書館での情報収集と活用などを大学の勉強方法がよくわかることから授業を進めてまいりました。 半年だけでは短くは感じますが、それぞれ課題を自分で調べ、自分なりの答えを出すことができた授業と思います。	経営学部3クラスのうち1クラスを担当し、昨年度と比較して授業評価・回答率・科目GPAはやや下がり傾向にあった。今後は、専門科目や教養科目の学びに繋がる基盤として、丁寧に分かりやすく、伝わる授業を心がけていきたい。 また、大学での基本的な学びの技術（スタディスキル）を身につけられるよう、授業内容を工夫するとともに、留学生にも理解しやすい言葉遣いに一層配慮していく。	授業評価 4.53 回答率 76.9% 科目GPA 2.42

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251008 情報リテラシー I	①コンピュータの原理について理解することができる。 ②インターネットについて理解することができる。 ③情報倫理を身につけることができる。 ④ビジネス文書を作成することができる。 ⑤表計算・グラフを作成することができる。	情報社会の基盤となるパソコン操作やオフィスツールの利用、ファイル管理などの基礎的スキルを、実際の操作を通じて身につけることを目的とした。一方で、基礎だけでなく、応用の説明が必要と感じた。具体的には、オフィスツール内の生成AIが進化しており、その効率的な利用が求められる状況に社会が変化してきた。そのため、最新の生成AIをオフィスツール内でも上手に利用できるように、教育の内容を更新していく必要があると考える。	次年度は、生成AIツールの安全な活用法など、最新の情報リテラシー教育にも対応したい。	授業評価 4.464 回答率 93.3% 科目GPA 2.77
L251011 情報リテラシー I B1	①コンピュータの原理について理解することができる。 ②インターネットについて理解することができる。 ③情報倫理を身につけることができる。 ④ビジネス文書を作成することができる。 ⑤表計算・グラフを作成することができる。 コンピュータの原理、ネットワークの基礎を理解しそれぞれのアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることができる。	情報リテラシー I は演習科目なのPCの不得意な学生がいてもでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。 実際にPCを操作すれば修得できる科目であるため提出物を多く取り入れた授業にした。学生は負担が多いが楽しく受講している。	実際に自分で操作してみることが大切であるためMy PC購入を勧めている。	授業評価 4.478 回答率 85.2% 科目GPA 2.30
L251012 情報リテラシー I B2	①コンピュータの原理について理解することができる。 ②インターネットについて理解することができる。 ③情報倫理を身につけることができる。 ④ビジネス文書を作成することができる。 ⑤表計算・グラフを作成することができる。 コンピュータの原理、ネットワークの基礎を理解しそれぞれのアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることができる。	情報リテラシー I は演習科目なのPCの不得意な学生がいてもでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。 実際にPCを操作すれば修得できる科目であるため提出物を多く取り入れた授業にした。学生は負担が多いが楽しく受講している。	実際に自分で操作してみることが大切であるためMy PC購入を勧めている。	授業評価 4.318 回答率 64.7% 科目GPA 1.59
L251013 情報リテラシー I B3	①コンピュータの原理について理解することができる。 ②インターネットについて理解することができる。 ③情報倫理を身につけることができる。 ④ビジネス文書を作成することができる。 ⑤表計算・グラフを作成することができる。 コンピュータの原理、ネットワークの基礎を理解しそれぞれのアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることができる。	情報リテラシー I は演習科目なのPCの不得意な学生がいてもでSA1人がいれば対応できる体制を整えた。 実際にPCを操作すれば修得できる科目であるため提出物を多く取り入れた授業にした。学生は負担が多いが楽しく受講している。	実際に自分で操作してみることが大切であるためMy PC購入を勧めている。	授業評価 4.373 回答率 60.0% 科目GPA 1.80
L251014 心理学 AD	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	比較的、過年度生の多いクラスとなった。これはカリキュラム上の問題点であると考えている。過年度生の方が年生よりも真面目な子が多く、ある意味良い影響を与えていたと思う。ただ、スマデの子たちは携帯等を操作している子たちも多く巡回中に覗いて訪ねてみると「課題」を同時に行っているようであった。講義ノートに書いてあることテキストに書いてあること以外のことを多く発信できるように心がけた。小テスト等では得点が取れなかった学生もある程度いたが、ここは、課題にあった部分を探す力を身に付けて欲しかったからである。日本語を母国語としていない学生には少し、難しかったようにも感じる。ある程度、英語で話すことも必要だったかもしれない（私には難しいが）。	学生を信じて翻訳機等が使える授業構成を考えられるとよいと感じている。一応テストではノート、テキスト持ち込み可としているが、携帯等は不可としている。合理的配慮の意味からは日本語を母国語としない学生には使わせてもよいのではないかと考えている。普段の確認テストでもネットで答えを簡単に検索してそのまま書いている子が多く見られるが、これはここでは授業で示したもので書いてねと念押ししている。それでもあえて書いてくる子らは、きっと話を聞いていないのであろう。心理学という科目を通じて社会人としてのマナーも養っていけると良いのであるが・・・。	授業評価 4.491 回答率 56.5% 科目GPA 1.7
L251014 心理学 AD	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	比較的、過年度生の多いクラスとなった。これはカリキュラム上の問題点であると考えている。過年度生の方が年生よりも真面目な子が多く、ある意味良い影響を与えていたと思う。ただ、スマデの子たちは携帯等を操作している子たちも多く巡回中に覗いて訪ねてみると「課題」を同時に行っているようであった。講義ノートに書いてあることテキストに書いてあること以外のことを多く発信できるように心がけた。小テスト等では得点が取れなかった学生もある程度いたが、ここは、課題にあった部分を探す力を身に付けて欲しかったからである。日本語を母国語としていない学生には少し、難しかったようにも感じる。ある程度、英語で話すことも必要だったかもしれない（私には難しいが）。	学生を信じて翻訳機等が使える授業構成を考えられるとよいと感じている。一応テストではノート、テキスト持ち込み可としているが、携帯等は不可としている。合理的配慮の意味からは日本語を母国語としない学生には使わせてもよいのではないかと考えている。普段の確認テストでもネットで答えを簡単に検索してそのまま書いている子が多く見られるが、これはここでは授業で示したもので書いてねと念押ししている。それでもあえて書いてくる子らは、きっと話を聞いていないのであろう。心理学という科目を通じて社会人としてのマナーも養っていけると良いのであるが・・・。	授業評価 4.491 回答率 56.5% 科目GPA 1.7

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251015 心理学 AD	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	このクラスは、過年度生1名、建築3名、外国籍スマデ1名の小クラスであり、他のクラスに比べて個人的に話すことが多かった。各自真摯に話を聞いてくれ、やりやすい環境である。ただ、日本語を母国語としていない学生にはやはり酷であった。問題の文字数が多くなると得点率が下がる。ただ、これをクリアしている外国籍の学生も他のクラスにいたので一人だけ特別視することはできなかった。次回、がんばって欲しい。	少人数クラスは話題も広げやすいし、対話的な授業進行がしやすく、進めやすかったが教養全体を見るとこの人数のクラスを起しておくのは難しいのであろう。学生がバランスよく履修できる時間割ができていくよいのであるが・・・。	授業評価 4.2 回答率 80% 科目GPA 2.4
L251015 心理学 AD	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	このクラスは、過年度生1名、建築3名、外国籍スマデ1名の小クラスであり、他のクラスに比べて個人的に話すことが多かった。各自真摯に話を聞いてくれ、やりやすい環境である。ただ、日本語を母国語としていない学生にはやはり酷であった。問題の文字数が多くなると得点率が下がる。ただ、これをクリアしている外国籍の学生も他のクラスにいたので一人だけ特別視することはできなかった。次回、がんばって欲しい。	少人数クラスは話題も広げやすいし、対話的な授業進行がしやすく、進めやすかったが教養全体を見るとこの人数のクラスを起しておくのは難しいのであろう。学生がバランスよく履修できる時間割ができていくよいのであるが・・・。	授業評価 4.2 回答率 80% 科目GPA 2.4
L251016 心理学 B	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	過年度生は少なかったが、振り返りにおいて短絡的な内容が多かったため進め方には留意した。単位取得に関しては授業外課題の提出の有無が左右した。提出物の期限を守ることが意識づけられるとよいと感じた。 心理学に初めて触れる学生も多く、その点では新鮮な気持ちで受講してくれたように感じた。 15回ではさわりしかできないがこのあたりの発信の工夫をしながら進めることができた。	素直な学生が多いグループであった。幅広い分野であるため授業内容の一つ一つへの食いつき方が違っていることが感じられた。振り返りや小チェックを入れながら持続を図ったが、少しは期待に応えてもらえたと思う。用語や名前を覚えることより身近なところに心理学が関与していること、人の心のありようが大切なことも話した。いろいろな心理学の見地よりも人としての心のあり方を身に付けてもらえればいい。	授業評価 4.486 回答率 59.3% 科目GPA 1.37
L251017 心理学 B	心理学の基礎用語を理解することができる。自分自身の日常生活の中で、心理学的視点を活用することができる。心の仕組みを追究する学問である心理学は、心を魂ではなく意識ととらえることから始まりました。 心理学は哲学から始まり科学的手法を得て今日の個人の心を捉える心理学や社会集団を考慮する社会心理学へと発展してきました。心理学的な見方を学ぶ中で、対人関係に関わる場面で相互理解をはかる方法等を考察します。そして自己の性格形成を振り返りつつ、幼少期から青年期、老年期にいたるまでの発達を学習するなかで、心理学的観点からの「自己の理解」ができることをめざします。	このクラスも過年度生が比較的多いクラスであった。過年度生の中には出席しない学生も多く、多分担任から履修の関係で教養が取れるのは心理学しかなかったからであろう。欠席しない過年度生、1年生は真面目に話を聞き、内容もよく理解しているように感じた。単位修得できない欠席者も多い中、積極的に話を聞いてくれる学生が多いと感じるクラスであった。	好意的に授業を受けてくれたため、やりやすいと感じた。心理学は取り扱われる分野が多いため広く浅くしかできないが、他のクラスも含めて「ストレス」や「うつ」に関する関心が高い印象を受けている。心理的不安を抱える若者に希望と大学生であることのメリットも併せて話していけるとよいのかなと思う。	授業評価 4.478 回答率 43.9% 科目GPA 0.9
L251018 データサイエンスのための基礎数学 SD	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。 有効数字の必要性はあまり高くないので、有効数字の説明は必要最低限にした。 履修登録した30名中、6名が不合格（D、E評価）であった。	「データサイエンスのための基礎数学」は、令和7年度カリキュラムの科目であり、今年度が第1回目の開講である。また、本科目は建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。 スマートデザイン学科用クラス的不合格者6名のうち5名が欠席過多であったので、受講生がより興味を持てる授業内容にしていきたい。	授業評価 4.18 回答率 83.3% 科目GPA 1.93
L251019 データサイエンスのための基礎数学 B	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。 有効数字の必要性はあまり高くないので、有効数字の説明は必要最低限にした。 履修登録した24名中、8名が不合格（D、E評価）であった。	「データサイエンスのための基礎数学」は、令和7年度カリキュラムの科目であり、今年度が第1回目の開講である。また、本科目は建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。 総合経営学科用クラス的不合格者8名のうち5名が再試験を受験しなかった。授業時間中に、最後まで諦めずに単位取得に向け努力するよう繰り返し話をしたい。	授業評価 4.27 回答率 75.0% 科目GPA 1.29

令和7年度前期、教養科目・共通科目・教職科目

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L251020 データサイエンスの ための基礎数学 A	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点の筆記試験である。 有効数字の必要性はあまり高くないので、有効数字の説明は必要最低限にした。 履修登録した13名中、1名が不合格（D、E評価）であった。	「データサイエンスのための基礎数学」は、令和7年度カリキュラムの科目であり、今年度が第1回目の開講である。また、本科目は建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。 建築学科用クラスの不合格率（DおよびE評価の学生数を受講者数で割った値）は7.7%であり、3クラス中最も不合格率が低かった。	授業評価 4.20 回答率 84.6% 科目GPA 2.38
L251021 英語A A1, SD1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は造形学部1年生46名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験を受験し、約7割の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	80%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、造形学部1年生46人のうち、約70%の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できるクラスを目指したい。	授業評価 4.308 回答率 84.8% 科目GPA 2.087
L251021 英語A A1, SD1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は造形学部1年生46名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験を受験し、約7割の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	80%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、造形学部1年生46人のうち、約70%の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できるクラスを目指したい。	授業評価 4.308 回答率 84.8% 科目GPA 2.087
L251022 英語A A2, SD2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生39名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験を受験し、9割以上の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	80%以上の学生が比較的高い評価をしてくれた。この科目には、造形学部1年生39人のうち、約92%以上の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できるクラスを目指したい。	授業評価 4.618 回答率 87.2% 科目GPA 2.974
L251022 英語A A2, SD2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組めるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生39名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組む、定期レポート試験を受験し、9割以上の学生がこの科目に合格した。一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	80%以上の学生が比較的高い評価をしてくれた。この科目には、造形学部1年生39人のうち、約92%以上の履修学生が合格した。今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できるクラスを目指したい。	授業評価 4.618 回答率 87.2% 科目GPA 2.974

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251023 英語A B1	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。 この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組みめるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生41名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約7割の学生がこの科目に合格した。 一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	70%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科1年生41人のうち、66%以上の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価 4.159 回答率 72.5% 科目GPA 1.756
L251024 英語A B2	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組みめるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科1年生41名であった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約7割の学生がこの科目に合格した。 一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	60%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科1年生41人のうち、約64%以上の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価 4.500 回答率 61.5% 科目GPA 1.487
L251025 英語A 再履修	①英語基礎力を確認することができる。 ②英語4技能の充実を図ることができる。 ③異文化理解や国際化理解など、幅広い内容に触れることができる。 英語コミュニケーションとは、英語を用いて表現することだけではありません。幅広い教養とさまざまな知識を駆使して表現に取り組みます。この講義では、日常的なコミュニケーションに取り組みめるよう、高等学校までの総復習をおこない、コミュニケーションB、およびコミュニケーションCで、発展的な外国語学習を可能にする知識を身につけることを目的とします。	履修者数は総合経営学科2年生から4年生までの59名の再履修クラスであった。前期は対面授業を行った。毎週、各ユニットの学習項目に従って作成したパワーポイントをスクリーンに提示し、学習を進めて行った。今年度は、演習課題（5分以内の小テストを授業終了10分前に実施する方法を採用した。その結果、小テストで高得点を取る学生が増えた。 また、毎週の学習や課題、宿題に取り組み、定期レポート試験を受験し、約6割の学生がこの科目に合格した。 一方、学習の途中で、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきた学生が数名いたので、迅速にすべての質問に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。	約半数の学生が比較的良好な評価をしてくれた。この科目には、総合経営学科2年生から4年生59人のうちで、約63%の履修学生が合格した。 今後は、できるだけ途中の脱落者を出さず、ほぼ全員が合格できクラスを目指したい。	授業評価 4.254 回答率 44.8% 科目GPA 1.288
L251027 英語コミュニケーションC B	①英語力（語彙力、文法力、聴解力、読解力）を身につけることができる。 ②情報処理能力（英語を英語のまま素早く理解する力）を身につけることができる。 ③試験対策力（時間配分や解答アプローチなど）を身につけることができる。 実用的な英語の学習（語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力）を強化し、TOEIC550点以上をめざし、幅広い総合的な英語力を身につけることができる。	履修者数は経営学部総合経営学科2年生以上の37名を担当した。前期は対面授業（一部の学生はオンライン授業）であった。毎週、テキストの各パートの学習項目に従って、学習を進めた。授業終了5分前に、確認用の演習課題（小テスト）を実施した。 また、学習が半分程度進むと課題（まとめの語彙テスト）を配布した。80%以上の学生が毎週の学習やドリルに取り組み、演習課題と定期レポート試験を受験し、約8割の学生が合格した。途中、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してきたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。学生の中には、途中で学習を諦めてしまう学生がいたが、全体として真面目に取り組んだ学生が多かったので、授業自体は進めやすかった。 しかし、本来の英語の授業は頻繁に音声教材を使って、実際に英語を使いながら学習をすることができなかったのは残念であった。全体として真面目に取り組んだ学生が多かったので、授業自体は進めやすかった。	70%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。このクラスは、履修学生37人中、78%以上の学生が合格した。クラス全体の8割以上の学生たちの学習に対する姿勢が良かったと思われる。 今後は、一人の脱落者を出さず、全員が合格できるようなクラスを目指したい。	授業評価 4.323 回答率 70.3% 科目GPA 1.676

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251028 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち4人の出身国は中国、ベトナム、スリランカ。人数が少ないだけに和気藹々とした雰囲気になりがちだったが、とすれば緊張感と集中力に欠けてしまう。筆記や対話の時間を少しでも多くして、それらを保つように心がけた。何とか成功したのではないと思う。	回答率は100%ではないが、満点の評価を得ることができた。緊張感と集中力を保つために、しっかりした授業準備を行い、学生たちの学習意欲を引き出すように努力したい。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 2.75
L251028 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち4人の出身国は中国、ベトナム、スリランカ。人数が少ないだけに和気藹々とした雰囲気になりがちだったが、とすれば緊張感と集中力に欠けてしまう。筆記や対話の時間を少しでも多くして、それらを保つように心がけた。何とか成功したのではないと思う。	回答率は100%ではないが、満点の評価を得ることができた。緊張感と集中力を保つために、しっかりした授業準備を行い、学生たちの学習意欲を引き出すように努力したい。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 2.75
L251028 日本語中級	基本的なやりとりを超える程度の日本語を運用することができる。日本語能力試験N2以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち4人の出身国は中国、ベトナム、スリランカ。人数が少ないだけに和気藹々とした雰囲気になりがちだったが、とすれば緊張感と集中力に欠けてしまう。筆記や対話の時間を少しでも多くして、それらを保つように心がけた。何とか成功したのではないと思う。	回答率は100%ではないが、満点の評価を得ることができた。緊張感と集中力を保つために、しっかりした授業準備を行い、学生たちの学習意欲を引き出すように努力したい。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 2.75
L251029 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち11人の出身国は中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、ミャンマー。和気藹々とした雰囲気の中、多国籍の効果でお互いに日本語でやりとりする光景がよく見られた。そのような場面を演出するのには成功した。ただ、おとなしいタイプの学生に対しては目が行き届かないこともあったと自覚している。	まずまずの授業評価ではある。おとなしい学生に対しても目を行き届かせ、極度の緊張感を与えて萎縮させないように心がけたいと思う。	授業評価 4.443 回答率 54.5% 科目GPA 2.36
L251029 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち11人の出身国は中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、ミャンマー。和気藹々とした雰囲気の中、多国籍の効果でお互いに日本語でやりとりする光景がよく見られた。そのような場面を演出するのには成功した。ただ、おとなしいタイプの学生に対しては目が行き届かないこともあったと自覚している。	まずまずの授業評価ではある。おとなしい学生に対しても目を行き届かせ、極度の緊張感を与えて萎縮させないように心がけたいと思う。	授業評価 4.443 回答率 54.5% 科目GPA 2.36
L251029 日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	授業の基本は、テキストにある語彙や文法項目を応用して、さまざまな話題を展開したり、例文を紹介したりすること。さらに読解や聴解演習に真摯な態度で取り組むように導くこと。学生たち11人の出身国は中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、ミャンマー。和気藹々とした雰囲気の中、多国籍の効果でお互いに日本語でやりとりする光景がよく見られた。そのような場面を演出するのには成功した。ただ、おとなしいタイプの学生に対しては目が行き届かないこともあったと自覚している。	まずまずの授業評価ではある。おとなしい学生に対しても目を行き届かせ、極度の緊張感を与えて萎縮させないように心がけたいと思う。	授業評価 4.443 回答率 54.5% 科目GPA 2.36

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L251030 スポーツA, D	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、通常出席者の達成目標は達成できたと考える。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考える。	全体的に運動能力が低く、一部学生が課題未提出、受講ノートが十分ではないなど、全体的には少し苦労した。女子学生を中心に課題、受講ノートが優秀であったため、GPAはある程度保たれた。今後も達成目標が達せできる授業プログラムを心がけたい。	授業評価 4.50 回答率 89.5% 科目GPA 2.33
L251030 スポーツA, D□	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、通常出席者の達成目標は達成できたと考える。技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。決して運動能力の高い学生ばかりではなかったが、楽しみながら学んでもらえたと考える。	全体的に運動能力が低く、一部学生が課題未提出、受講ノートが十分ではないなど、全体的には少し苦労した。女子学生を中心に課題、受講ノートが優秀であったため、GPAはある程度保たれた。今後も達成目標が達せできる授業プログラムを心がけたい。	授業評価 4.50 回答率 89.5% 科目GPA 2.33
L251032 スポーツA B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索する。	種目としてはバレーボールと卓球を実施した。卓球を担当し、履修者数は27名であり、使用する台数に対して適正な人数であった。 授業方法としては、全ての授業回を対面方式にて実施した。授業時間90分のうち実際に活動するのは60分程度で、残りの30分は本時の説明や移動等となる。 対面（実技）では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することを目指し、基本的な技術・理論を解説し、実践した。 そして、解説した内容を受講ノートとしてまとめ、毎授業時に対面にて提出することで理解を深めることを目指した。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、実技時間の配分をより増やすことが、技術の理解と実践には必要であると感じた。 ただし、高温となる時期は、屋内とはいえ、受講者の体調には注意が必要である。この点については、今期途中より空調が稼働し快適に活動することができた。	授業評価に関しては、回答率を考慮すれば、概ね達成目標を達成することができたのではないかと考える。 達成目標に対する授業評価を高めるには、実技の時間をより確保することは必要であり、状況に合わせて授業展開できるように工夫していきたいと考えている。	授業評価 4.692 回答率 74.0% 科目GPA 2.166
L251032 スポーツA B	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	達成目標では、基礎技術の習得、ルール・戦術の理解、ゲーム運営を、実際のゲームにおいて、実践・発揮することとされており、90分の対面授業で、達成目標を達成できたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、そのためには、ある程度の時間を要する。運動能力の高い学生が多かったが、授業内容を楽しみながら学んでもらえたと考える。	今年度は野球部の履修がないという希少な状況。頼りにしたバレー部は有効に機能しなかったが、一般学生の積極的な取り組みで、達成目標は十分に達成できた。 受講ノート、課題の記述能力に關しても、今年度は良好な学生が多かった。次年度も丁寧に指導していきたい。	授業評価 4.69 回答率 74% 科目GPA 2.22
L251035 デジタルデザイン表現SD	①コンピュータによる画像編集、映像編集等について複数のソフトウェアを操作することが出来る。 ②複数のソフトウェアを操作して課題制作に取り組む事が出来る。 ③リッチメディアの可能性について理解してコンテンツ制作に取り組む事が出来る。 ④授業に関する理解度を示した資料を作成し、PDF形式ファイル等のデータ提出をする事が出来る。	目標に関連する知識を解説しつつ、演習内容を積み重ねていくことによって、目標への到達度を高めることができた。 各授業回ごとに、学習内容や課題進捗の振り返り、次回までの学習計画を調整しながら学修を進めていくことができた。 リッチメディアコンテンツについて、各自ができたことや、やったことを自己チェック、自己評価できるよう工夫した。	主な履修者のスマートデザイン学科であったため、リッチメディアの応用や自動化技術に関する学習内容とマッチしていた履修者が多く、授業評価と科目GPAについては、元々の属性による偏りが大きいと解釈できる。ただし、達成目標にもある様々なソフトウェアを使い分けながら、リッチメディアコンテンツを制作していく、複雑なタスクにおいては、欠席者や公欠者については途中での挫折しやすく、復帰が困難であったと考えられる。そのため復帰できなかった学生の授業評価は反映されていない。できているタスクでできていないタスクのチェック項目と資料の連動性を高め、わかりやすく改善し、取り返ししやすい工夫を行う。	授業評価 4.5 回答率 51.4% 科目GPA 2.51

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251037 デジタルデザイン表現 B2	①コンピュータによる画像編集、映像編集等について複数のソフトウェアを操作することが出来る。 ②複数のソフトウェアを操作して課題制作に取り組む事が出来る。 ③リッチメディアの可能性について理解してコンテンツ制作に取り組む事が出来る。 ④授業に関する理解度を示した資料を作成し、PDF形式ファイル等のデータ提出をする事が出来る。	目標に関連する知識を解説しつつ、演習内容を積み重ねていくことによって、目標への到達度を高めることができた。 各授業回ごとに、学習内容や課題進捗の振り返り、次回までの学習計画を調整しながら学修を進めていくことができた。 リッチメディアコンテンツについて、各自ができたことや、やったことを自己チェック、自己評価できるよう工夫した。	主な履修者の総合経営学科であったため、リッチメディアの応用や自動化技術に関する学習内容とマッチしていなかった履修者が多く、授業評価の割に科目GPAが低い傾向については、元々の属性による影響が大きいと解釈できる。これは、達成目標にもある様々なソフトウェアを使い分けながら、リッチメディアコンテンツを制作していく、複雑なタスクにおいては、欠席者や公欠者については途中での挫折しやすく、復帰が困難であったためと考えられる。授業評価と科目GPAの乖離が見られたのは、復帰できなかった学生の授業評価は反映されていないためと考えられる。できているタスクできていないタスクのチェック項目と資料の運動性を高め、わかりやすく改善し、取り返ししやすい工夫を行う。	授業評価 4.3 回答率 48.5% 科目GPA 1.30
L251038 法学（日本国憲法）A,D	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。造形学部が対象であり、まずは法学学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて扱うようにした。単なる条文の理解や暗記ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の目的や意義の把握に努めた。具体例を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことに対してコメントをしっかりと記入している学生が多く、おおむね学習内容を理解してくれたようである。判例の検討が難しいと思われるため、ゆっくり丁寧な説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げ、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を参照しながら自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価 4.668 回答率 61.8% 科目GPA 2.51
L251038 法学（日本国憲法）A,D	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。造形学部が対象であり、まずは法学学習の基礎を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて扱うようにした。単なる条文の理解や暗記ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の目的や意義の把握に努めた。具体例を提供して、法的論点の解説にも時間を割いた。毎回学んだことに対してコメントをしっかりと記入している学生が多く、おおむね学習内容を理解してくれたようである。判例の検討が難しいと思われるため、ゆっくり丁寧な説明を心掛けた。	できるだけわかりやすい具体例を挙げ、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や判例を参照しながら自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価 4.668 回答率 61.8% 科目GPA 2.51
L251039 法学（日本国憲法）B	日本国憲法における基本的な知識について理解し、法的問題に際し適切な法的思考や解釈をすることができる。日本国憲法の基本精神を学び、条文の趣旨を正しく解釈することを目的とする。	日本国憲法を取り巻く基礎的内容を扱った。経営学部の学生が対象であり、これまで学んできた法学学習の基礎事項を確認した上で、できるだけ多くの法律と身近な話題を用いて、論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、条文の意義と問題点の把握に努めた。新聞記事など身近な話題を提供して、実際の憲法問題に触れた。毎回学んだことに対してコメントをしっかりと記入している学生が増えており、大半の学生は授業内容を理解してくれたようである。とりわけ判例の検討が難しいようであり、ある程度分析できるように方法を示した。	できるだけわかりやすい具体例を挙げ、広範な日本国憲法の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けた。日本国憲法を取り巻く論点の理解を深めるべく、資料や主要判例を用いながら検討することにより、最終的には各論点に対して自分の意見を持てるようにしていきたい。	授業評価 4.681 回答率 45.2% 科目GPA 2.55
L251040 健康・運動の科学 A,D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の学生を除き、普通に取り組んでいる学生は、それなりの評価が得られた。授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。ただ昨年度と比較すると、達成評価も、GPAも低い状況であった。	例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備してくることを含め、丁寧に指導していきたい。 欠席した場合でも、全員に補完課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価 4.43 回答率 82.4% 科目GPA 1.78
L251040 健康・運動の科学 A,D	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。一部の学生を除き、普通に取り組んでいる学生は、それなりの評価が得られた。授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。ただ昨年度と比較すると、達成評価も、GPAも低い状況であった。	例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備してくることを含め、丁寧に指導していきたい。 欠席した場合でも、全員に補完課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしてしまうと、その指導も難しい。興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価 4.43 回答率 82.4% 科目GPA 1.78

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
L251041 健康・運動の科学 B	達成目標 ①健康に関する様々な知識・考え方を理解できる。 ②自分にあった健康処方・運動処方をデザインできる。	課題は、前回授業の小テストを授業冒頭に行う形で、その内容が成果評価の筆記試験につながる形式としている。今年度は過年度生が非常に多く、多くの過年度学生など、さぼってしまう習慣のある学生にとっては、十分に対応できなかったと感じる。 逆に、授業を休まず、課題（小テスト）に取り組んだ学生は、評価点も含め、達成目標に近づけたと考える。 ある成績優秀学生には、「事前に出るところを強調してもらえたので、取り組みやすかった」と評価された。	例年、欠席が最も評価に影響することは指導している。次回授業で実施する課題（小テスト）に関して準備しておくこと含め、丁寧に指導していきたい。 欠席した場合でも、全員に補完課題で学修できるように配慮しているが、欠席をしようとする、その指導も難しい。 興味を持って受講できるよう配慮していきたい。	授業評価 4.38 回答率 82.4% 科目GPA 1.08
L251042 キャリアデザイン I	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。自分軸を形成することができる。自己に必要な知識や能力が認識できる。仕事をするときの価値観・職業観、段階的な目標設定、自分の強み・弱み、対人コミュニケーションのスタイルなどについて学びます。 さらに、個人・グループワークによる自己評価・他者評価を通して総合的にキャリアの方向性を再検討しながら、最終的なキャリアデザインを確立できるよう指導します。	授業のグループワーク以外ではパソコン操作をしたり、デッサンをしたりなどの作業を行う学生が多く授業に向かう姿勢がなかなかできなかったことが残念だった。 外部の講師の方にお越しいただいた際の聴講についても事前に話をしたが、机で寝ていたり態度が悪く企業の方への本学のイメージダウンにも繋がるのが残念だった。 設計の授業以外に対する意欲が内容に感じられ、本授業の意味を何度か説明した。 面接練習の授業でも欠席が目立ち、5回休んでもいいので・・・と平気で言ってくる学生がいたことも残念だった。 面接練習の意味について私や外部講師の先生も何度も説明をされたが、理解されなく、履歴書の書き方も説明した内容を実施する学生が少なかった事も今までにない状況だった。	建築は就職先に困らない現状があり、なんとなく就職先が決まっていくこともあり、年々授業態度や態度が悪くなっている。就職の為ではなく今後の生き方そのものに影響することだという事への理解をどのようにしたら伝えられるのかを考えて対応をしていきたい。	授業評価 3.99 回答率 48.3% 科目GPA 3.0
L251043 キャリアデザイン I SD	①自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 ②自分軸を形成することができる。 ③自己に必要な知識や能力が認識できる。	昨年同様に3人で担当。私はすべての授業回準備と運営実施、講師手配を行った。就職・進学含め卒業後の進路決定をサポートする実践的な時間となるよう各回の授業内容を組み立てた。就職情報会社の派遣講師やキャリアコンサルタントによる講義と模擬面接を含め、シラバス通りに進めた。受講者が昨年に比して少ないので、ESの文章添削等がより丁寧にできたが、それが活かされていくかは不明。ASUドリルを学習過程評価対象にして、強制的に解答を課したが、提出期限間に適当に解答した学生も多く、有効活用が十分にできなかった。	昨年よりわずかに評価が上がったが、回答率が低い。授業中に回答するようにしたい。昨年まで課題であった模擬面接を欠席する学生が多い点は、今年はかなり改善された。面接練習への要望を学生に出してもらったところ、個人に割く時間が少ないとの声が複数あったので、後期は3回すべてを個人面接に当てている。 実践的な内容となるよう、今後も外部講師による良質な講義を企画していく。	授業評価 4.44 回答率 29.7% 科目GPA 2.49
L251044 キャリアデザイン I	自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。自分軸を形成することができる。自己に必要な知識や能力が認識できる。以上3点を到達目標としている。学科の学びに関係した仕事について理解し、就職活動の準備をすることを教育効果としている。	5年目の担当ということで前年度に比べて精神的な余裕を持って授業に臨むことができた。前年度と同じく、卒業後の進路として就職以外(大学院進学や起業など)を希望している者のことも考慮するように心がけた。新しい外部講師の発掘にも力を入れ、さまざまな会社の人事担当者にご協力をいただいた。この点はよかったと思う。	前年度の授業評価は4.578だったので、さらに高い数字となった。これにとどまらず、最新のキャリア情報をキャッチするように努力し、授業運営に活かしたいと思う。	授業評価 4.626 回答率 45.3% 科目GPA 2.56
L251045 倫理学 A・D	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が様々な倫理的課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、昨年度から若干改善した。今後も改善に向けての不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.390 回答率 35.7% 科目GPA 1.14
L251045 倫理学 A・D	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が様々な倫理的課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、昨年度から若干改善した。今後も改善に向けての不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.390 回答率 35.7% 科目GPA 1.14

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L251046 倫理学B	倫理学の歴史やその思考方法を理解し、倫理的諸課題について思考し、判断し、表現できるようにする。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が様々な倫理的課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。 受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、在り方生き方を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度がかなり高いものがあり、昨年度から若干改善した。今後も改善に向けての不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価 4.719 回答率 37.0% 科目GPA 0.97
L251049 中国語A SD	中国語の発音や基本文法を学びながら、「中華料理を食べる」などの実践的な場面を通じて会話を養います。語彙力・表現力を高め、基礎的な会話能力の定着を図ります。また、中国社会や文化への理解を深めることで、学習意欲の向上と中国語の基礎固めを目指します。 ・中国語の発音構造と特徴の理解 ・基本的な挨拶や日常会話の習得 ・中国語に含まれる文化的背景の理解 ・中国社会への関心と理解の深化	造形学部対象のクラスで、履修者の約半数は経営学部所属であった。本講義は中国語初学者を対象とし、文法説明は最小限にとどめ、発音練習を中心に「聞く・話す」活動を重視した。 日常の身近なテーマや場面を取り上げ、学生が自分の意思を中国語で表現する楽しさを実感できるよう工夫した。テキストは1週につき1課ずつ進め、附録の「決まり文句」の定着にも力を入れた。 授業外では複数回の演習問題を実施し、内容の振り返りを促したほか、教科書付属の「別冊問題集」も活用した	昨年度の履修者は60名、今年度は48名となった。授業改善アンケートでは昨年度より高い評価を得たが、回答率とGPAは若干低下し、課題として残った。今後は各学部の専門性に配慮しながら、受講者全員が積極的に参加できる授業づくりに努めていきたい。	授業評価 4.731 回答率 54.2% 科目GPA 2.27
L251049 中国語A SD	中国語の発音や基本文法を学びながら、「中華料理を食べる」などの実践的な場面を通じて会話を養います。語彙力・表現力を高め、基礎的な会話能力の定着を図ります。また、中国社会や文化への理解を深めることで、学習意欲の向上と中国語の基礎固めを目指します。 ・中国語の発音構造と特徴の理解 ・基本的な挨拶や日常会話の習得 ・中国語に含まれる文化的背景の理解 ・中国社会への関心と理解の深化	造形学部対象のクラスで、履修者の約半数は経営学部所属であった。本講義は中国語初学者を対象とし、文法説明は最小限にとどめ、発音練習を中心に「聞く・話す」活動を重視した。 日常の身近なテーマや場面を取り上げ、学生が自分の意思を中国語で表現する楽しさを実感できるよう工夫した。テキストは1週につき1課ずつ進め、附録の「決まり文句」の定着にも力を入れた。 授業外では複数回の演習問題を実施し、内容の振り返りを促したほか、教科書付属の「別冊問題集」も活用した	昨年度の履修者は60名、今年度は48名となった。授業改善アンケートでは昨年度より高い評価を得たが、回答率とGPAは若干低下し、課題として残った。今後は各学部の専門性に配慮しながら、受講者全員が積極的に参加できる授業づくりに努めていきたい。	授業評価 4.731 回答率 54.2% 科目GPA 2.27
L251050 中国語B	中国語の発音や基本文法を学びながら、「中華料理を食べる」などの実践的な場面を通じて会話を養います。語彙力・表現力を高め、基礎的な会話能力の定着を図ります。また、中国社会や文化への理解を深めることで、学習意欲の向上と中国語の基礎固めを目指します。 ・中国語の発音構造と特徴の理解 ・基本的な挨拶や日常会話の習得 ・中国語に含まれる文化的背景の理解 ・中国社会への関心と理解の深化	経営学部対象のクラスで、履修登録者は81名。特別配慮希望者にも配慮し、対面授業用のPPT資料をUNIPAにて配信し、教科書および付属CDと併せて学習を進めた。 授業は中国語初学者を対象とし、文法説明は最小限にとどめ、発音練習を中心に「聞く・話す」活動を重視。 日常的なテーマを用いて、学生が自分の意思を中国語で表現する楽しさを体感できるよう工夫した。 テキストは1週につき1課ずつ進め、附録の「決まり文句」を確実に定着させた。 授業外では複数回の演習問題を実施し、内容の振り返りを促した。教科書付属の「別冊問題集」も活用した。	履修者数は昨年度の73名から今年度は81名に増加した。授業改善アンケートの評価は昨年度とほぼ同様で、回答率も変わらなかった。GPAは昨年度の1.61から2.01へと向上し、学習成果の改善が見られた。今後も、受講者全員が積極的に参加できる授業づくりに努めていきたい。	授業評価 4.45 回答率 65.4% 科目GPA 2.01
Q251002 教育行政	現行の教育システムの存在理由を、その生成の経緯を踏まえて理解し説明することができる。 教育システムの問題点を見定め、改革の方策を考え説明することができる。 自らの教育観を練り、教育システム検討の指標を持つことができる。	今期はじめて本学における通学部学生の科目を担当した。学生たちの主体性は想定以上に高く、とりわけ教職を第一志望として決めている学生たちが議論を引っ張る場面もあった。また、意見を述べることを躊躇しない学生が多かった。それは本科目受講生の素晴らしいところである。このようなことから、上記目標は一定程度達成したと思われる。	教職の授業であるため、テキストの文章を読むこと、自分の考えを書くことを重視して、比較的ゆっくり授業を進めたが、議論が成立する学生たちであることが分かったため、次期授業ではワークやディベートを今期以上に増やしたい。	授業評価 4.475 回答率 72.7% 科目GPA 2.9
Q251002 教育行政	現行の教育システムの存在理由を、その生成の経緯を踏まえて理解し説明することができる。 教育システムの問題点を見定め、改革の方策を考え説明することができる。 自らの教育観を練り、教育システム検討の指標を持つことができる。	今期はじめて本学における通学部学生の科目を担当した。学生たちの主体性は想定以上に高く、とりわけ教職を第一志望として決めている学生たちが議論を引っ張る場面もあった。また、意見を述べることを躊躇しない学生が多かった。それは本科目受講生の素晴らしいところである。このようなことから、上記目標は一定程度達成したと思われる。	教職の授業であるため、テキストの文章を読むこと、自分の考えを書くことを重視して、比較的ゆっくり授業を進めたが、議論が成立する学生たちであることが分かったため、次期授業ではワークやディベートを今期以上に増やしたい。	授業評価 4.475 回答率 72.7% 科目GPA 2.9
Q251002 教育行政	現行の教育システムの存在理由を、その生成の経緯を踏まえて理解し説明することができる。 教育システムの問題点を見定め、改革の方策を考え説明することができる。 自らの教育観を練り、教育システム検討の指標を持つことができる。	今期はじめて本学における通学部学生の科目を担当した。学生たちの主体性は想定以上に高く、とりわけ教職を第一志望として決めている学生たちが議論を引っ張る場面もあった。また、意見を述べることを躊躇しない学生が多かった。それは本科目受講生の素晴らしいところである。このようなことから、上記目標は一定程度達成したと思われる。	教職の授業であるため、テキストの文章を読むこと、自分の考えを書くことを重視して、比較的ゆっくり授業を進めたが、議論が成立する学生たちであることが分かったため、次期授業ではワークやディベートを今期以上に増やしたい。	授業評価 4.475 回答率 72.7% 科目GPA 2.9

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
Q253001 事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業や適切な生徒指導などができることを目標としています。実習生は「学ぶ生徒である立場」と「教える先生の立場」とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点におきます。 外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、挨拶など一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて実践的指導を行います。	事前事後では実際に実習に行ったとき、学生が困らないようにすると共に実習校に迷惑をかけないようにすることが大きな使命です。ほとんどの学生はこのことを十分留意しており、欠席者はいなかったのですが、一部、計画的に欠席する者もいて心配しました。幸い実習校のご配慮もあり、全員無事に教育実習を終えることができました。教職に就こうとする者、あるいは教員免許状を取得しようとする者には社会人としてのマナーも身に付けて欲しいと思っています。また、人としての柔軟性も身に付けて欲しいと思います。1名、履修辞退者が出たことは悲しいですが、趣旨からすれば仕方ないことかもしれません。各自の名前をしっかり覚えられず、間違って呼んでしまったことを反省しています。後期の教職実践演習では確実に氏名と顔が一致するようにしていきたいと思います。	教職志望者から小論文対策について個人的なやりとりがあった。昨年度もあったのであるが、こうした意欲的な学生には丁寧に対応していきたいと思った。後期もこの視点を忘れずに対応していきたいと思う。	授業評価 4.950 回答率 40% 科目GPA 3.2
Q253001 事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業や適切な生徒指導などができることを目標としています。実習生は「学ぶ生徒である立場」と「教える先生の立場」とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点におきます。 外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、挨拶など一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて実践的指導を行います。	事前事後では実際に実習に行ったとき、学生が困らないようにすると共に実習校に迷惑をかけないようにすることが大きな使命です。ほとんどの学生はこのことを十分留意しており、欠席者はいなかったのですが、一部、計画的に欠席する者もいて心配しました。幸い実習校のご配慮もあり、全員無事に教育実習を終えることができました。教職に就こうとする者、あるいは教員免許状を取得しようとする者には社会人としてのマナーも身に付けて欲しいと思っています。また、人としての柔軟性も身に付けて欲しいと思います。1名、履修辞退者が出たことは悲しいですが、趣旨からすれば仕方ないことかもしれません。各自の名前をしっかり覚えられず、間違って呼んでしまったことを反省しています。後期の教職実践演習では確実に氏名と顔が一致するようにしていきたいと思います。	教職志望者から小論文対策について個人的なやりとりがあった。昨年度もあったのであるが、こうした意欲的な学生には丁寧に対応していきたいと思った。後期もこの視点を忘れずに対応していきたいと思う。	授業評価 4.950 回答率 40% 科目GPA 3.2
Q253001 事前・事後指導	教師としてふるまい、学習指導案の作成と生徒の前で授業や適切な生徒指導などができることを目標としています。実習生は「学ぶ生徒である立場」と「教える先生の立場」とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点におきます。 外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、挨拶など一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて実践的指導を行います。	事前事後では実際に実習に行ったとき、学生が困らないようにすると共に実習校に迷惑をかけないようにすることが大きな使命です。ほとんどの学生はこのことを十分留意しており、欠席者はいなかったのですが、一部、計画的に欠席する者もいて心配しました。幸い実習校のご配慮もあり、全員無事に教育実習を終えることができました。教職に就こうとする者、あるいは教員免許状を取得しようとする者には社会人としてのマナーも身に付けて欲しいと思っています。また、人としての柔軟性も身に付けて欲しいと思います。1名、履修辞退者が出たことは悲しいですが、趣旨からすれば仕方ないことかもしれません。各自の名前をしっかり覚えられず、間違って呼んでしまったことを反省しています。後期の教職実践演習では確実に氏名と顔が一致するようにしていきたいと思います。	教職志望者から小論文対策について個人的なやりとりがあった。昨年度もあったのであるが、こうした意欲的な学生には丁寧に対応していきたいと思った。後期もこの視点を忘れずに対応していきたいと思う。	授業評価 4.950 回答率 40% 科目GPA 3.2
Q253002 教育実習	実習校で、所定の教育実習を行うことができる。	実習校が判断します。自己評価は実習校からの実習生の評価が反映されます	実習校の判断です。	授業評価 5.00 回答率 50% 科目GPA 3.1
Q253002 教育実習	実習校で、所定の教育実習を行うことができる。	実習校が判断します。自己評価は実習校からの実習生の評価が反映されます	実習校の判断です。	授業評価 5.00 回答率 50% 科目GPA 3.1
Q253002 教育実習	実習校で、所定の教育実習を行うことができる。	実習校が判断します。自己評価は実習校からの実習生の評価が反映されます	実習校の判断です。	授業評価 5.00 回答率 50% 科目GPA 3.1
U251001 コミュニケーション・ スケッチ (A)	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	スケッチを単なる描画スキルのみとして捉えるのではなく、物事のあり方、仕組みなどを把握しまとめ伝達する「コミュニケーション」の道具としてのスケッチの修得を目指し相関図、仕組みなどに取り組みさせている。後半ではより建築学科の専門性を踏まえ立体物や空間を表現する図法アイソメトリックを扱っている。最終的には三面図で表した空間をアイソメトリック図法で描き起こすことができるようになる。いずれの課題においてもシンプルな事例からスタートし基礎をしっかりと理解させてから応用へ至る道筋を、その都度学生の状況しっかりと把握しながら丁寧に指導することで概ね全員が目標に達したと考える。	授業評価4.525は全科目の中では中の上程度であるが、92.3%という回答率の高さから学生の授業への関心の高さを伺うことができる。現状、物事のあり方、仕組みなどを把握しまとめ伝達する「コミュニケーション」の道具としてのスケッチを指導しているが、「発想」の道具としてのスケッチの効力についても盛り込んでいきたいと考え授業計画に取り組んでいる。	授業評価 4.525 回答率 92.3% 科目GPA 2.62

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
U251002 コミュニケーション・ スケッチD	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。 共通科目として、共通科目の基礎、キャリアに属し、学科を問わず、最終的にインターンシップなどに結びつける。	90分の演習は順調に進み、シラバス通りに展開できた。わかりにくい演習問題に対する質問に直接答えたり指摘が出来るような環境となった。	欠席者が目立った。UNIPAでの保管資料が必要となる。	授業評価 4.313 回答率 72.7% 科目GPA 2.52
U251003 コミュニケーション・ スケッチ B1	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、おおよそ、その目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価 4.454 回答率 46.0% 科目GPA 2.12
U251004 コミュニケーション・ スケッチ B2	① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。	興味のあるなしで理解度に大きな差が出てくる。80%の学生が理解し興味を示してくれたらというのが目標だったが、おおよそ、その目標は達成できたと考えている。	受講する学生が視覚伝達に興味を持っていない事を考えると、それなりにやれた授業だったと考えられる。解説やデモンストレーションの見せ方などは来年度に向けて改善を考えている。	授業評価 4.64 回答率 47.4% 科目GPA 1.46
U251005 色彩学 A, D	達成目標 自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	デザイン技法の基本的知識の一つである色彩学は、非常に広い学問領域を含む学際的な性格をもっており、光との関係から物理学の、色覚のメカニズムとして生理学・心理学の領域から語られる。色彩と人の感情との結びつきは心理学の領域でもあるため、授業では、そうした広範な内容のなから、造形に関わる者にとって必要な基礎的知識とその活かし方を理解するテーマを中心に扱った。多様化した映像・メディア表現を含む今日のスマートデザインにも対応できるよう、デジタルカラーの概念や、色彩の文化的アプローチも紹介した。毎回、参考書の概要をわかりやすく伝えるために、パワーポイントで作成したスライド集を配信した上で対面授業にてスライドを上映しながら解説を行った。課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとり、常に、理解の定着を図るようにした。毎回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容とした。この結果、目標に対する相応の教育効果があつたと考えられる。	履修者数90名のうち58名が回答した。おおむね良好な評価を得ている。履修者数が比較的多い授業であるが、個々の受講生への課題を通してのフィードバックを行うなど、個別の細やかな対応にも配慮し、授業内での質疑応答を増やすなど、学生の主体的な学びのための工夫を行っている。今後もこのような形を継承し発展させていきたい。	授業評価 4.566 回答率 64.4% 科目GPA 2.86
U251005 色彩学 A, D	達成目標 自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	デザイン技法の基本的知識の一つである色彩学は、非常に広い学問領域を含む学際的な性格をもっており、光との関係から物理学の、色覚のメカニズムとして生理学・心理学の領域から語られる。色彩と人の感情との結びつきは心理学の領域でもあるため、授業では、そうした広範な内容のなから、造形に関わる者にとって必要な基礎的知識とその活かし方を理解するテーマを中心に扱った。多様化した映像・メディア表現を含む今日のスマートデザインにも対応できるよう、デジタルカラーの概念や、色彩の文化的アプローチも紹介した。毎回、参考書の概要をわかりやすく伝えるために、パワーポイントで作成したスライド集を配信した上で対面授業にてスライドを上映しながら解説を行った。課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとり、常に、理解の定着を図るようにした。毎回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容とした。この結果、目標に対する相応の教育効果があつたと考えられる。	履修者数90名のうち58名が回答した。おおむね良好な評価を得ている。履修者数が比較的多い授業であるが、個々の受講生への課題を通してのフィードバックを行うなど、個別の細やかな対応にも配慮し、授業内での質疑応答を増やすなど、学生の主体的な学びのための工夫を行っている。今後もこのような形を継承し発展させていきたい。	授業評価 4.566 回答率 64.4% 科目GPA 2.86

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U251006 色彩学 B	①自然科学的な色彩を成り立たせている仕組みや、人間が色彩をとらえる方法を知っている。 ②色彩がもたらす心理的な効果や社会的な効果を知っている。 ③色彩の理論を生かし、配色を計画することができる。	昨年同様に、色彩学の学習内容にまったく興味がなさそうな学生が多数おり、大半が授業最初からイヤホンを付けスマートフォンを見ている。注意しても効果は無い。座席指定しており雑音を発することもないので、真面目に聴講する学生に向けて語りかけることにしている。4301教室はプロジェクタの演色性が低いため、スライド資料を手元のスマートフォンで見る学生もいるので、必ずしもスマートフォンを見ている＝ゲームや動画閲覧とは限らないが、机間を回ると実態がよくわかる。受講ノートの採点とフィードバックは、1, 2回滞ったものの、ほぼ翌週に行えた。	昨年度は、授業評価 4.285、回答率 65.0%、科目GPA 2.45であったので評価は僅かに上がり、GPAは下がった。受講態度が身についていない、端から学ぶ意思がない(ように見える)学生の対応が難しい。これに対し、昨年度「こちらもうそうした学生を放置する姿勢を示している可能性があるので、まずはそこから改善し、楽しい話題を提供するよう努めたい」とし、実際に試みたが、関心のない学生には響かなかったものの、色彩学に関心をもつ学生からの反応はますますだった。そうした学生を大切にしていけないように思う。 課題解答に生成AIを使う学生が増えている。課題の問いをAIに投げて、出てきた解答をそのまま書き写しているため、授業では扱わなかった内容がそれらしく書かれている。この問題にも今後対策が必要だろう。	授業評価 4.325 回答率 53.3% 科目GPA 1.888
U251007 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	事前学習、インターンシップへの参加、事後学習を行った。事前学習では、ビジネスマナー、エントリーシートの書き方などに加え、企業の選定、日程調整などを行った。事後学習では、インターンシップ実習のまとめ、発表などを行った。意欲的に取り組む様子がみられた。	多くの受講生それぞれと面談を進めてゆくことから、待ち時間も多くなる傾向がある。有意義な時間となるよう工夫してゆきたい。	授業評価 5.00 回答率 75.0% 科目GPA
U251007 インターンシップ A	目標 社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。 教育効果 就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得します。ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを目的とします。	多くの企業でインターンシップが実施され、学生にとって貴重な体験を得ることができた。企業研究会では、多くの建築関係の企業に参加いただき、スムーズにインターンシップ実習先の決定ができた。	履修者に対して、企業研究会への参加を促しているが、参加者が少ないため、課題として報告書の提出を過程評価に含めるなどの対策を検討する必要がある。	授業評価 4.717 回答率 44.4% 科目GPA 2.93
U251008 インターンシップ (集中) D	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	26人受講者のうち10人(昨年同様に約4割)が単位取得諦めた。事前学習時間への出席を厳しく義務づけているため、早々に諦めた者、インターンシップを予定していたものの事故や家族の怪我で断念した者、10日間のインターンシップには参加したが、課題未提出・事後学習のプレゼン欠席で諦めた者が合わせて10人になった。事前指導(マナー指導とES添削)を3コマ+補講2コマ、実習10日間、事後指導(成果報告)2コマを滞りなく実施した。	昨年度の授業評価は4.371、回答率 25%、科目GPA 2.0。全体的いやや下がった。事前・事後指導は丁寧に実施しており、次年度も同様でよい。自己開拓でインターン先を探していく学生へのフォローができるとよいと思う。大学紹介の企業のなかには、イベントのテント撤収作業を行っただけの研修もあったようで、研修内容を事前によく確認する姿勢も必要。	授業評価 4.286 回答率 26.9% 科目GPA 1.69
U251009 インターンシップ	社会で働くことの意味を考えられるようになる。自己の職業適性を見つけることができる。将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。以上3点を到達目標としている。就業体験を通して社会の仕組みやコミュニケーション能力を取得すること、ビジネスパーソンとして必要な教養や職業倫理を身につけることを教育効果としている。	学生は4人。そのうち2人は欠席過多になってしまったので、実質的には2人だった。初めて担当した授業のため、戸惑うことが多かった。達成感を得るためにさらに努力しなければならないと自覚している。	この授業は「キャリアデザインⅠ」との関連が強い。このことを念頭に置き、学生たちに積極的な声かけをしていきたいと思う。	授業評価 3.000 回答率 25.0% 科目GPA 1.75
U251009 インターンシップ (集中) B	①社会で働くことの意味を考えられるようになる。 ②自己の職業適性を見つけることができる。 ③将来に向けての自己に必要な知識や能力が認識できる。	前年度の経験があり、特に問題なくスムーズに授業を進めることができた。ガイダンスや事前指導で、先方に迷惑や失礼のないようなインターンシップにするため、それなりに覚悟を持った学生に選択させるよう、厳しい言葉で説明した。指導者としてもインターンシップ授業は大学から推薦して各会社に学生を送るようなものであると考えることが必要と考える。	この授業は「働くことの意味」や「会社組織とは何か」が分かっていないと先方に迷惑をかけることになるだけでなく、意味も分からずに不満だけが残ることになりかねない。したがって、昨年度と同様に事前指導で「社会人としての意識」をしっかり持たせてインターンシップに臨ませた。今後このことを学生たちにしっかりと伝えながら、充実したインターンシップとしてもらえるよう工夫していきたい。	授業評価 3.000 回答率 25.0% 科目GPA 3.50
U251010 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現状と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。 受講生は10名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中1グループが異なる学科メンバーであった。 5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。 他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができた。また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.45と比較し低く、授業評価に関しては昨年度の4.76と比較し高いが、回答率が低い為、十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。 達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが重要であると考え。次年度からは共通科目ではなく学科科目となるため、授業内容は建築分野に重点を置くようにしたい。	授業評価 4.867 回答率 30% 科目GPA 1.70

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U251010 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。 受講生は10名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中1グループが異なる学科メンバーであった。 5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。 他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと考ええる。 また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.45と比較し低く、授業評価に関しては昨年度の4.76と比較し高いが、回答率が低い為、十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。 達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが重要であると考ええる。次年度からは共通科目ではなく学科科目となるため、授業内容は建築分野に重点を置くようにしたい。	授業評価 4.867 回答率 30% 科目GPA 1.70
U251010 福祉社会のクリエイション	「福祉社会の構築」という切り口で、福祉社会における現況と問題点、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習・理解し、福祉社会の実現に対する具体的な取り組みを試みることを目標とする。 福祉社会を支える都市的ハードから生活のソフトまでをどのように創造するかについて、ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインなどについて学習し、全ての人が過ごしやすい都市、生活空間を創造するための提案ができることが期待される。	課題提出は授業当日までとした。 受講生は10名で、1～10回の講義後、11～13回でグループのテーマを決定し発表資料の作成、14回で発表会を実施した。受講人数が少なく、受講学生の学科に偏りがあったため、グループのメンバー構成は学生の話し合いで決定した。5グループ中1グループが異なる学科メンバーであった。 5グループすべてが期日までに発表資料の提出がされ、すべてのグループが発表できた。 他学科学生とのグループワークから学生は様々な考え方があることを学ぶことができたと考ええる。 また、グループワークでの教員の指導が適切にできたためと思われる。	科目GPAは昨年度の2.45と比較し低く、授業評価に関しては昨年度の4.76と比較し高いが、回答率が低い為、十分に達成目標を達することができた状況と判断することは難しい。 達成目標に対する授業評価を高めるには、グループワークでの教員のかかわりが重要であると考ええる。次年度からは共通科目ではなく学科科目となるため、授業内容は建築分野に重点を置くようにしたい。	授業評価 4.867 回答率 30% 科目GPA 1.70
U251011 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用することもたちにお絵描きをしてもらい、それをもとに学生がグループワークで木のおもちゃの制作を行った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	共通科目であるが、建築学科以外の履修者が少ない。もっと他学科にも授業内容を周知する必要がある。	授業評価 4.700 回答率 66.7% 科目GPA 3.00
U251011 地域クリエイションワーク	目標 地域の活性化について、市民生活、産業育成、教育環境の活性化との関連性と重要性について理解している。 地域の活性化のためのデザイン・クリエイションおよびまちづくり・家づくり、都市マネジメントについての知識をもっている。地域の活性化に繋がるまちづくりを提案することができる。 教育効果 デザイン・ものづくりを通して、地域と繋がり、考察力、協調力、コミュニケーション能力など、社会人としての基礎力養成を目的とします。	藤川学区こどもの家を利用することもたちにお絵描きをしてもらい、それをもとに学生がグループワークで木のおもちゃの制作を行った。またワークショップを実施し、制作した木のおもちゃで子どもたちに遊んでもらった。ワークショップの参加児童も年々増加し、地域交流の場として認知されつつあり、ものづくりに対する理解も深められた。	共通科目であるが、建築学科以外の履修者が少ない。もっと他学科にも授業内容を周知する必要がある。	授業評価 4.700 回答率 66.7% 科目GPA 3.00
U251012 産業クリエイション基礎 高大連携	三河地域に関する伝統的なものづくり産業と現在の最先端技術の繋がりについて理解することができる。三河地域の伝統的なものづくりとその構造変化について理解することができる。本大学がものづくりを通して地域と密着していることを理解し、自分が地域に何で貢献できるかを探り入学後に本学を通じて実現することを目標とします。地元三河地方について学習・理解することを目的とします。	履修者数は昨年度とそう変わらなかったものの、結局1日も参加しない者や途中で脱落した者も複数出てしまった。履修生が継続的に参加し続けてくれるために必要なことを考える必要があると感じる。なお姉妹校からの参加者は減少傾向な反面、各提携校からの参加者は増加傾向にあり、提携校からの参加を更に増やしていきたいところ。	高校生対象の授業のため授業評価アンケートの数値無し。科目GPA2.39 昨年度よりも科目GPA数値は下がってしまった。レポートを苦手とする生徒が多めだった印象だが、逆に凝ったレポートを仕上げる生徒もいたので生徒によるところが大きい。また脱落者が今年度は多かった感があるので、如何に参加意欲を高めるかが課題になる。例年よりは建築志望者が多かった。	授業評価 回答率 % 科目GPA 2.39
U251013 日本の産業	日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。 日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。	各産業について経営の先生と私で授業を行った。 産業の数も多い為、自分の興味があることを見つけ、最後にはレポートへの取り組みがしっかりできていたことがよかったと感じている。 建築関係は少し専門的なことの説明をしすぎた為、建築以外の学生への興味を高めることができなかったと感じている。	各学科の学生さんの興味が合わせた対応を今後もしていきたい。	授業評価 4.51 回答率 78.1% 科目GPA 3.06

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U251013 日本の産業	日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。 日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。	各産業について経営の先生と私で授業を行った。 産業の数も多い為、自分の興味があることを見つけ、最後にはレポートへの取り組みがしっかりとできていたことがよかったと感じている。 建築関係は少し専門的なことの説明をしすぎた為、建築以外の学生への興味を高めることができなかったと感じている。	各学科の学生さんの興味に合わせた対応を今後もしていきたい。	授業評価 4.51 回答率 78.1% 科目GPA 3.06
U251013 日本の産業	日本の産業の発展過程と特徴を理解することができる。 産業と社会との関係を理解することができる。 今後のあるべき日本の産業像を考察することができる。 日本のさまざまな産業が発展してきた歴史や社会的背景の理解を通して、専門分野と産業、社会との関係における課題発見力を身につけます。また産業が今後どのように変化していくのかを考察します。	各産業について総合経営学科および建築学科の教員で授業を行った。 産業の数も多い為、自分の興味があることを見つけ、最後にはレポートへの取り組みがしっかりとできていたことがよかったと感じている。 建築関係は少し専門的なことの説明をしすぎた為、建築以外の学生への興味を高めることができなかったと感じている。	各学科の学生さんの興味に合わせた対応を今後もしていきたい。	授業評価 4.51 回答率 78.1% 科目GPA 3.06
U251014 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できます。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができます。	9人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、SNS、動画・アニメ配信、介護・見守りを取り上げ、第2回目ではフリマアプリ、料理系学習アプリ、生成AIを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負荷に偏りがあるように見受けられたので、負荷の分担がある程度平等になるように留意するようにしたい。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価 4.267 回答率 33.3% 科目GPA 3.25
U251014 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できます。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができます。	9人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、SNS、動画・アニメ配信、介護・見守りを取り上げ、第2回目ではフリマアプリ、料理系学習アプリ、生成AIを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負荷に偏りがあるように見受けられたので、負荷の分担がある程度平等になるように留意するようにしたい。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価 4.267 回答率 33.3% 科目GPA 3.25
U251014 未来産業ワーク	地域の産業における課題解決のための、ICT（情報通信技術）の新しい動きとの関連性と重要性について理解できます。地域の新しい産業形成についての知識を有し、地域の新しい産業のあり方について提案することができます。	9人が受講。インターネットのアプリケーションを対象とし、3人～5人から成るグループを作り、各グループにおいてディスカッション、調査などを行い、発表する形態をとった。第1回目のグループワークでは、SNS、動画・アニメ配信、介護・見守りを取り上げ、第2回目ではフリマアプリ、料理系学習アプリ、生成AIを取り上げた。各技術の現状、問題点、解決策を議論し、各講義の最初に、各自の調査内容を発表し、それらをもとに議論を進め、次に調査すべきことを明らかにして、分担を決めるようにしながら、進めるようにした。	グループによっては、各学生の負荷に偏りがあるように見受けられたので、負荷の分担がある程度平等になるように留意するようにしたい。また、成績にうまく反映するように工夫する必要がある。	授業評価 4.267 回答率 33.3% 科目GPA 3.25
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によってこの科目は終了となるが、必要に応じて他の専門科目に講義内容を盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によってこの科目は終了となるが、必要に応じて他の専門科目に講義内容を盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によって、今年度でこの科目は終了となる。必要に応じてこの科目で使用した講義内容を他の専門科目に盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89

令和7年度前期、教養科目・共通科目・教職科目

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によって、今年度でこの科目は終了となる。必要に応じてこの科目で使用した講義内容を他の専門科目に盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によってこの科目は終了となるが、必要に応じて他の専門科目に講義内容を盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89
U251015 都市と移動手段のデザイン	① 都市における移動手段のポジショニングを理解することができる。 ② 移動手段の未来の可能性を理解することができる。 ③ 新しい移動手段をプランニングすることができる。	毎回のテキストを作成し、それに沿って学生は演習課題を行ったが、内容が新鮮であったためか、評価は良く、大きな問題はなかった。	カリキュラムの変更によって、今年度でこの科目は終了となる。必要に応じてこの科目で使用した講義内容を他の専門科目に盛り込んでいきたい。	授業評価 4.496 回答率 75.0% 科目GPA 2.89
U251016 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。 新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。 新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。	岡崎市の地域の文化、歴史、観光資源やイベント企画の可能性をテーマとした調査と提案の具体化によって、各自が新しい価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。 プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめた。	履修者の提案では、各自の考えや主張を説明できていたものの、提案根拠や先行事例の問題や課題を分析し、各自の提案との異なる点を明確にする部分が希薄となっていた。事例調査における量的な根拠や先行事例との相違点の分析過程を強化する。	授業評価 4.17 回答率 50% 科目GPA 2.00
U251016 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。 新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。 新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。	岡崎市の地域の文化、歴史、観光資源やイベント企画の可能性をテーマとした調査と提案の具体化によって、各自が新しい価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。 プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめた。	履修者の提案では、各自の考えや主張を説明できていたものの、提案根拠や先行事例の問題や課題を分析し、各自の提案との異なる点を明確にする部分が希薄となっていた。事例調査における量的な根拠や先行事例との相違点の分析過程を強化する。	授業評価 4.17 回答率 50% 科目GPA 2.00
U251016 市場創成ワーク	消費者の課題や欲求、動向を捉えるAIやIoTの利用方法を知っている。 新しいビジネスの内容と空間・デザイン・マネジメントを提案することができる。 新しいビジネスにAIやIoTを導入した評価・改善方法を提案することができる。	岡崎市の地域の文化、歴史、観光資源やイベント企画の可能性をテーマとした調査と提案の具体化によって、各自が新しい価値の発見と、それに基づく新しい市場創成の可能性を提案することができた。 プレゼンテーション手法として、各自の提案をポスター（パネル）発表形式にまとめた。	履修者の提案では、各自の考えや主張を説明できていたものの、提案根拠や先行事例の問題や課題を分析し、各自の提案との異なる点を明確にする部分が希薄となっていた。事例調査における量的な根拠や先行事例との相違点の分析過程を強化する。	授業評価 4.17 回答率 50% 科目GPA 2.00

令和7年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D251003 人間中心デザインⅠ	3～4年生の専門領域への学びに向け、各領域のデザイン思考や手法を俯瞰的に学ぶ。特に人や社会のためのデザインについて、各教員が示す社会や人、個性を捉える視点や手法と、そこから問題解決の提案や実現まで展開していく考え方を学ぶ。	これまで学科所属教員の研究内容を概観するような講義が存在しなかったため、オムニバス形式で研究紹介を行う形式を試みたが、研究内容についての理解が進み、一定の効果があったと感じている。	教員の研究内容をオムニバス形式で紹介する講義内容とした。授業評価のスコア的には問題はないが、GPAが極端に低く、内容について来れていない学生が多いことが分かる。学生には単に聞くだけでなく、復習を促したい。	授業評価 4.64 回答率 50.0 % 科目GPA 1.23
D251003 人間中心デザインⅠ	① デザイン領域ごとのひと・もの・ことの捉え方と考え方を知っている ② デザイン領域ごとの人との関係性や問題を捉える手法と解決提案へと展開していくための方法とプロセスを知っている ③ デザイン領域ごとの問題発見、解決策、評価方法について利用者と設計者の両視点からデザインの在り方を述べることができる	本授業は、複数教員によるオムニバス形式で実施し、人間中心設計の基礎から応用まで、多角的に学ぶ構成とした。多様な専門性をもつ教員が事例を交えながら講義を行うことで、学生が幅広い視点からデザインの要素を理解する機会を提供できた点は有意義であった。一方で、担当教員が回ごとに変わるため、一度の欠席や理解の不足が、その回全体の課題の理解を完全に妨げてしまうという構造的課題が現れた。また、欠席が重なる学生は複数回のレポートが未提出となり、総合得点が著しく低くなる傾向が見られた。	次年度は、他の学生がどのように課題に取り組んでいるのかをオンライン上で共有できる仕組みを設けると良いのではないかと考える。同級生との交流で新たな刺激や学びを得られるような動機づけとなる環境をデザインすることを目標とする。	授業評価 4.640 回答率 50.0% 科目GPA 1.34
D251004 データマイニングⅠ	①自己のこれまでの経験・学びについてまとめ、伝えることができる。 ②自分軸を形成することができる。 ③自己に必要な知識や能力が認識できる。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員が担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応、そして専門教員がスライド上に作成した問題をUNIPA>小テストに問題として設定、定期試験採点、成績評価を主に担当した。以上のことは滞りなく遂行できた。TAとともに、Python演習で進め方がわからない者の対応に当たった。	昨年度は授業評価3.984、科目GPA1.40であり、評価が大幅にアップした。情報系の基礎科目として重要との意識が学生のなかに浸透してきたようで、その変化が評価にも影響したのだろう。GPAが低いので、後期は小テストのフォローのあり方を検討したい。	授業評価 4.463 回答率 57.6% 科目GPA 1.64
D251004 データマイニングⅠ	現在の情報社会においては日々膨大なデータが生み出され処理されている。そのデータ処理を支えるコンピュータや情報処理の基本技術について紹介する。また、データ処理のために必要となる数学やプログラミングの基礎についても学んだ上で実際の処理を体験し、知識の定着を図る。□	情報技術について質の高い講義が提供されているとは言えなかったこれまでのカリキュラムで教育を受けてきた学生にとっては大変難しい内容の講義に相当するが、今年は多くの学生がしっかりと授業内容について来れるようになった。昨年の状態と比べれば、大いなる改善が見られ、授業アンケートにもそれが現れている。現状のスマートデザイン学科のカリキュラムにおいては、この講義が情報処理技術の中核をなす講義となっており、この講義内容の理解が進んだことはとても喜ばしいことである。	高度な内容の講義であることに変わりはないが、提供する技術範囲を絞るとともに、学生の学力レベルに応じた講義内容へと大幅な変更を行なった。特に、基礎学力不足を補うための補習的な内容の講義回を複数設けるとともに、演習を増やし、理解を助けるようにした。また、講義内容の復習を何度も挟んで重要な内容を繰り返し紹介し、知識の定着を図った。授業評価のスコアは大いに改善している。ただし、GPAがそれにまだついて来ていない。学生に講義の予習・復習を促すしかない。	授業評価 4.46 回答率 57.6% 科目GPA 1.64
D251005 プレゼンテーション演習	①映像及びデザインオーサリングソフトさらにデスクトップファブリケーション機器の基本的な使い方を知っている。 ②①を使い表現するテーマに向けて言葉、描画、造形のオーサリング計画をたてることができる。 ③①②により課題のアピールポイントを効果的に第三者にいつ何をどのように伝えるかを構成できる。※adobe CCの操作ができる。	ほとんどの学生がプレゼンテーションを実演することができた。学生の能力はある程度陽性で来ているが、それが自覚できてなく、自信を持っていない学生が多いように見えるので、そこは改善して行きたい。	必修科目であり、学科でのプレゼンテーションの必要性が増していることから、実習の割合を増やすようにした。パワーポイントなどの視聴覚コンテンツ作成から、パフォーマンスやマルチメディアの題材も紹介するようにした。	授業評価 4.656 回答率 60.0% 科目GPA
D251007 造形デザイン基礎	達成目標 ①自己や第三者または集団、社会の様々な領域のニーズを知っている。 ②ニーズに合わせたクリエイション手法を知っている。 ③①②を統合しニーズに応える「ものづくり」を構成できる。	主担当となって3回目ともなると、各課題に要する時間や準備物の指示なども適切になってきたと思う。 履修者24人に対し出席不良Eが8人は多いと思うが、その理由は毎回結果を出さなければならない授業に慣れていないようだ。 最終作品は的を得たものが数点しかないが、各自のレベルそれぞれで体験したことは満足していたと思う。数少ない実体験のできる授業として存在は大きいのではないかと。	履修者のほとんどが制作体験のない者なので、そのレベルに対応するよう実施しているのだが、それでも早々に欠席してしまう学生にどう対応するかが問題だと思う。また出席しているのだが何もしない学生がいた。そのような制作を伴う授業を2年生からでも学習姿勢から指導が必要だと思う。	授業評価 3.643 回答率 58.3% 科目GPA 1.291
D251008 メディアデザイン基礎	①視聴覚体験を中心に据えた五感に訴えるメディア(表現媒体)を知っている。 ②メディアを用いた表現と効果を知っている。 ③①②を各種メディア(媒体)・メソッド(方法)用いて「もの」「こと」を生成・構成するための基礎には文法・デッサンなど「捉え表す根本」があることを知っている。	授業開始前より学生の様子を把握していたので、昨年より専門的な情報とディレクションを多めにした。学生はよくついてきてくれたと思っている。	メディアデザイン＝デジタルデザインスキルと考え、スキル伝授を中心に授業を構成した。網羅的に行ったので、それぞれの花王目の概要がわかるよう、適切な演習を取り入れるようにした。 最後にデジタルコンテンツを独自に設計する課題を設定した。	授業評価 4.626 回答率 67.6% 科目GPA 2.38

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D251009 共生デザイン基礎	達成目標 ①共生社会の実現に資するユニバーサルデザイン、SDGs、持続可能社会といった概念を理解している ②サイバー空間とフィジカル空間の共生や人とテクノロジーの共生を目指すスマートシティやSociety5.0の概念を理解している ③共生デザインの実践として、スマートシティやSociety5.0のアイデアをまとめるといった机上の演習を経験している	受講者は32名。対面授業形式で実施した。共生社会に関する座学を7回、デザイン思考法に基づくソーシャルデザインの演習課題を7回行った。演習課題では、日本の森林問題に焦点を当て、市場調査からアイデアの検討、プロトタイピング、プレゼンテーションまでを実施した。グループワークと個人ワークを組み合わせたアクティブラーニング形式を採用し、学生同士のブレインストーミングやプレゼンテーションを通じて、体験的な学びを促進することを重視した。	今年度で最後の授業となる。 このような演習科目における今後の改善策として、グループワークが苦手な学生にも対応できるよう、個人ワーク課題を取り入れるなど、学生が主体的に取り組めるよう、課題の提示方法にさらなる工夫を加える。	授業評価 4.629 回答率 65.6% 科目GPA 2.81
D251010 知能プロダクトプロトタイピングⅠ	①情報技術を活用したデザインのアイデアをプロトタイピングできる ②情報技術を活用したデザインについてプレゼンテーションできる ③プロトタイピングに必要な情報技術を主体的に学ぶことができる	次年度の卒業研究の準備段階としての研究テーマの探求を、先行研究の調査と分析に基づいて遂行できた。 各自が研究テーマを定めた後も、関連研究の調査を進め、手法や課題、評価方法についての議論を深めることができた。	基礎的なプログラミングの修得と履修者各自の研究テーマとの関連付けが困難であったため別課題として扱ったが、プログラミング学習の実施回が中途半端な時期であったため、唐突に別課題が差し込まれた状況となってしまった。プログラミング学習を授業回のはじめに実施しておくなどの改善を行う。	授業評価 4.7 回答率 44.4% 科目GPA 1.56
D251011 カルチャーメディアプロトタイピングⅠ	①人間中心デザイン手法により新たなカルチャーのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる。	課題の趣旨が伝わり、理解度は深まった。	特定の欠席者が目立った。継続して行うことが大切なことを伝えなければならない。	授業評価 4.440 回答率 50.0% 科目GPA 2.44
D251012 人間機械コミュニケーションプロトタイピングⅠ	人間機械系の処理を行う上で必要な情報処理の基礎技術について学ぶ。ここでは特にセンサー情報や音声情報を主な対象と想定している。また、これと並行してPythonプログラミングを習得し、応用システムのプロトタイピングを行うことで知識の定着を図る。	自主性に任せ、指導時間を十分に取れなかった面もあるが、結果的には学生たちのセンサー情報処理やプログラミングにおける理解が大いに進んだと感じている。	ガイダンス内で講義の技術レベルを事前に紹介しておいたことで、知識不足の学生がこの科目を選択することがなくなった。そのため、学生には課題に加えて、目標とヒントだけを与えることで自主的に問題解決を図るように誘導した。当初このやり方に戸惑っていた学生もいたが、最終的には皆、一定レベルの目標を達成することができた。	授業評価 4.0 回答率 33.3% 科目GPA 2.67
D251013 テラーメードサービスプロトタイピングⅠ	①人間中心デザイン手法によりサービスのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる。	学生は自らテーマを設定し、ハードウェアの試作やロボット開発を通して「つくりながら考える」プロセスを体験した。実装力・創造力ともに高い成果が見られたが、テーマ選定に苦勞する学生もいた。	次年度は、ユーザ目線での価値観や問題意識を日頃からもつよう、初回で、価値観を共有し、その後、テーマ選定に移るよう、授業計画と調整する。	授業評価 5.000 回答率 33.3% 科目GPA 2.78
D251014 エンターテイメントプロトタイピングⅠ	①人間中心デザイン手法により新たなエンターテイメントのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装を計画できる。	過年度生をふくめ27名の履修であった。学生はいくつかのグループに分かれそれぞれのグループは仲が良く、クラスの把握はうまくできたと思う。孤立する学生はその分対応が不十分であったかもしれない。グループによっては扱うテーマが一樣になるものもいたが、おおむねバラエティに富んだテーマ設定をした。学生数が多かったので個別の技術に深入りできなかった点は残念である。	て一定的な個別指導とプレゼンテーションを基軸に説明能力の醸成を目指した。	授業評価 4.564 回答率 39.3% 科目GPA 2.71
D251015 マーケットプロトタイピングⅠ	①人間中心デザイン手法により任意のプロダクトのコンセプトメイキングができる。 ②①のカスタマージャーニープランをプレゼンテーションできる。 ③②でプレゼンテーションしたプランの実装計画から得られる便益を試算できる。	担当教員がC#を基礎から教える授業で、私は出欠管理と課題提出管理等、補助的な役割のみを果たした。 授業スタイルは昨年と同様に、コンテンツを最小限に絞って一から丁寧に教えられていた。さらにハードルを低くしており、学習項目も少なく、自主性に任せているため、C#の基本の基本すら習得できずに終わった者もいたと思う。脱落者は初回から欠席のままだった1名のみであった。後半はTeamsを使用したオンラインと対面のハイブリッド形式としたため、コードが示された画面と説明をレコーディングし、繰り返し確認できるようにした。この授業スタイルはコーディングを伴う授業には有効であった。	回答率が0%で評価は不明。次年度は担当せず、しかも出席管理等補助的役割のみを担ってきた者として、改善策は特にならない。あえて言えば、C#を半期かけて学習させるならば、2コマで扱う学習項目を増やすとともに、学生が自ら操作できる土台を作れることを徹底させるとよいと感じる。自主学習時間を長時間取るのはよいが、何をしようかわからない状態の者が大半であり、そこはより丁寧な指導が必要だと思う。	授業評価 0 回答率 0% 科目GPA 3.5
D251019 オープンイノベーション論	産業・地域・生活に存在するさまざまな課題に対し、最先端の情報テクノロジーによる問題解決例を中心に紹介する。その成功の多くは技術や情報のオープン化が関係していることを知った上で、知的財産権で守られたクロズドな技術や情報と、オープンイノベーションの関係についても学ぶ。	様々な課題解決のための情報技術を俯瞰することができ、卒業研究等を進めていく上でも有効な講義となったのではないかと考える。	アンケート評価スコアは高く、特に問題は感じられないが、GPAが低い点は気になる。学生にはもっと予習・復習を促したい。	授業評価 4.57 回答率 47.4% 科目GPA 1.63
D251021 卒業研究Ⅰ	①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる。	履修者は10名で、ほとんどが2,3年から自分の授業を履修していた者たちであり、コミュニケーションに不安はなかった。 学生間に個人差が大きく、個別指導に苦慮した。	履修者の研究内容によって個別対応した。先行事例研究、テーマ立案、研究計画策定、研究進捗確認を行った。メディア専門研究ゼミナールⅠでの成果報告の準備を行った。 時間割上は1コマであったが、2グループに分け2コマで行った。 9月の中間発表会対策も兼ねて夏休み中に適宜指導を行った。	授業評価 4.720 回答率 50% 科目GPA 2.50

令和7年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D251022 卒業研究 I	第三者が欲するクリエイションを計画できる。エビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。製品デザインを計画できることを目標とし、スマートデザイン学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が教員の指導を受けてテーマを設定し、これを卒業研究としてまとめる。	各自のテーマを決定するのに時間を要した。	各々の作業の進め方を、日程表を立ててもっとしっかり計画させなければならない。	授業評価 5.0 回答率 28.6% 科目GPA 2.14
D251023 卒業研究 I	① 第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ② ①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③ ①②により製品デザインを計画できる。	「メディア研究専門ゼミナールI」と連続するように時間設定しているため、中間報告の後等は他教員から受けたアドバイスやコメントの意味を再確認し、全員で感想や疑問を交換する時間を設けた。通常は、出席者全員が一週間の進捗状況を報告し、皆でそれを聴き適宜感想を述べるスタイルとした。進んでいる学生とそうでない学生の差が大きく、欠席がちな学生もあり、夏期休暇中にZoomによる個別指導の時間を設けてフォローした。それぞれまったく異なるテーマの卒業研究7つを同時並行で指導するのは初めてのことで、苦戦している。	設問1(この授業の達成目標についての説明はありましたか)と設問2(シラバスに示されている達成目標をどの程度達成できましたか)が3.7と低い評価になっている。達成目標はデザイン学科時代に研究室共通で設定されていた過去の卒研シラバスをそのままコピーしていたこともあり、説明をしていなかった。来年度以降は実態に即した達成目標とする。	授業評価 4.267 回答率 42.9% 科目GPA 2.57
D251024 卒業研究 I	①社会や人に求められるデザインを計画できる。 ②定量的、定性的な評価と考察に基づいたプレゼンテーションができる。 ③デザインの社会実装を計画できる。	卒業研究 I では、各自で研究テーマを設定し、課題発見から仮説設定、実験計画立案までを行った。定期的な中間発表を通じて、論理的思考力とプレゼンテーション・表現力の養成を重視した。学生によって進捗差が大きく、研究計画の精度や文献調査の深さに課題が見られた。一方、自主性を持ってテーマを掘り下げる姿勢は育ちつつあった。	次年度は、研究初期段階で研究倫理教育を導入し、さらに、研究テーマの選定支援を行うことで、早期に研究テーマを決定し、研究の構造化支援を強化することで、学術的水準を高める。	授業評価 4.800 回答率 50.0% 科目GPA 4.00
D251025 卒業研究 I	これまで学んできた情報処理技術、人工知能技術を活用して社会の課題解決に取り組む。先行研究を十分に調査した上で研究手法の提案を行い、データ収集、システムの実装、性能評価、そして成果発表及び文書化までを一貫して行うことで、研究開発のプロセスを体験する。	先行研究の調査を中心に実施したが、その点では期待通りの成果を挙げた。ただ、具体的な認識モデルの開発についてはまだまだ理解が足りないようである。本人にはやる気があり、また、周囲から良い刺激を受けていることは確かであるが、対象学生（1名のみ）が留学生のため、日本語能力が低く、内容が正しく通じていないことがあり、そこには課題を感じる。	この講義の受講者は私が本学および他大学で指導中の大学院生とともにゼミに参加し、研究の進捗を紹介しあうことで自分の研究を見つめる機会を得ている。できる限りこのやり方を続けたい。	授業評価 5.0 回答率 100% 科目GPA 3.0
D251028 卒業研究 I	達成目標 ①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる。	受講者数は7名。それぞれがテーマの設定から資料収集、調査、コンセプト設定までを行った。授業時間外にはSNSやメールを活用して対応することで、限られた授業時間を効率的に活用することができた。今後も学生が主体的に研究テーマの資料収集や調査、制作を進められるよう支援していきたい。	今後の改善策として、学生の状況に柔軟に対応し、主体的に取り組めるよう指導方法を工夫する。	授業評価 4.45 回答率 57.1% 科目GPA 3
D251029 卒業研究 I	①社会や人に求められるデザインを計画できる。 ②定量的、定性的な評価と考察に基づいたプレゼンテーションができる。 ③デザインの社会実装を計画できる。	AI研究専門ゼミナール I と連動し、履修者個別に研究内容の調整や深化への対応方法を検討することができた。	進捗が遅れ気味であるため、常時履修者のタスク進捗状況を、履修者間、教員間で共有する方法を工夫する。 研究に必要となる新しい技術を、学び、取り入れることについて受動性が強いいため、主体性を誘発する工夫の必要性がある。	授業評価 4.6 回答率 50% 科目GPA 3.0
D251030 卒業研究 I	達成目標 ①本人にとって4年間の集大成として満足ができる。 ②本学科の卒業研究としてふさわしいテーマを選択する。 ③②を形にするための技法・材料の研究を行う。	物質的政策をほとんどしたことがない学生で、希望するゼミからあふれたものが私の研究室に4人も来た。ファッションやアプリの研究など指導できないので、過去の指導した卒業制作を見せ自らテーマを変更させた。表現したことのないものでレベルは低くても仕方がないと思っている。今までの経験から、結果を出すことができずにのらりくらりと進んでいる。定期試験に4人も欠席で再試験いたしたが、試験やまして卒業研究をどう思っているのか。今までの学生生活が想像できる。そんな履修者に対し丁寧にかつ確実に操業に導こうと思っている。忍耐あるのみ。	履修者の個々の能力は分かっていたが、生活習慣や卒業への取り組みから指導しなければならない。怒らず丁寧にその学生の能力でも卒業できるよう指導したい。	授業評価 4.0 回答率 50% 科目GPA 1
D251031 卒業研究 I	①第三者が欲するクリエイションを計画できる。 ②①のためのエビデンスを定量的にプレゼンテーションできる。 ③①②により製品デザインを計画できる。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしています。	特にありません。	授業評価 4.44 回答率 71.4% 科目GPA 3.28
D251032 AI研究専門ゼミナール I	①情報技術を活用したデザイン研究の方法とプロセスを理解し実践できるようになる。 ②実験と評価に基づいた課題発見と改善提案ができるようになる。 ③デザイン研究の記録や概要、成果発表ができるようになる。	履修者の卒業研究テーマについて、複数教員や他の履修者との議論を重ね、先行研究の調査、課題や提案の調整、実験計画の改善を繰り返し、中間状況として経過を発表することができた。	進捗状況の把握や、研究を進めるうえでの問題点や議論の記録などを可視化し共有する工夫によって、より効率的な指導体制に改善する。	授業評価 4.9 回答率 40% 科目GPA 2.6

令和7年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
D251032 AI研究専門ゼミナール I	最先端の情報技術を理解し、活用できるデジタル人材を育成する。各学生が主体的に先行研究を調査し、プログラミングを行なって実際にシステムを動作させることで、研究開発のための基本技術とプロセスを学ぶ。	この講義を通じ、学生には先行研究の調査の重要性と、良い研究とはどういったものかを理解させることができたのではないかと考えている。	卒業研究を実施する上で特に重要な、先行研究のサーベイを中心に行なった。学生が調べてきた論文を紹介し、それに対して教員が適宜質問とアドバイスを与えることで、良い研究と悪い研究の違いを理解させ、また、真に取り組むべき研究課題について考えさせることができた。学生の評価も高く、今後も引き続きこの方法で実施したい。	授業評価 4.9 回答率 40% 科目GPA 2.6
D251034 デザインビジネス研究 専門ゼミナール I	①デザインビジネス事例調査分析を行い、社会実装の背景を理解する。 ②社会実装に必要な動向を踏まえて、将来普及するデザインビジネスの可能性を自身の言葉で語るができる。	欠席者は多かったが、ゼミナールとして、順調に研究テーマが進められた。	ゼミナールとしての研究の進め方が受身的であるので、もっと積極的になるように改善する。	授業評価 4.520 回答率 31.3% 科目GPA 2.69
D251035 メディア研究専門ゼミナール I	①最新のメディアコンテンツ制作におけるトピックを知っている。 ②①のトピックをメディアに取り込み、コンテンツを設計することができる。 ③②で設計したコンテンツを実現するための方策を調査・立案することができる。	5人で担当する授業であり、私は初めてこの領域の専門ゼミナールに組み込まれた。授業内容は、5人のうち4人の教員がそれぞれ指導する卒業研究の進捗状況を、2回の中間報告会によって把握することが中心であった。専門領域の異なる教員が複数の眼で研究内容についてコメントするので、学生にとっても有益な時間になっている。私自身も他のゼミ生の研究に対し、積極的に発言するよう努めた。	・設問2（シラバスに示されている達成目標をどの程度達成できましたか）の評価が4.1と他項目に比して低い。この授業はそれぞれの卒業研究の延長になっているので、この授業固有の達成目標とは齟齬が生じている。とはいえ、振り返ると達成感が低いと感じた学生が多かったということだろう。中間発表2回以外は自主学習時間であり、教員に個別指導を受けるための準備をしていない学生にとっては無為の時間となっている。その点を少しでも改善できるとよい。まずはそうした意識を担当者が共有することが必要か。	授業評価 4.413 回答率 53.6% 科目GPA 1.964
D251035 メディア研究専門ゼミナール I	①最新のメディアコンテンツ制作におけるトピックを知っている。 ②①のトピックをメディアに取り込み、コンテンツを設計することができる。 ③②で設計したコンテンツを実現するための方策を調査・立案することができる。	ほとんどの学生はプロトタイプ作成を目標とし、そのための事前準備を行った。卒業研究とは違い、プレゼンテーションについて集中的に取り組んだ。所属研究室以外の教員による評価も積極的にフィードバックした。一部研究テーマ決定に手こずった学生がいた。	卒業研究の進捗確認と参加者間の情報共有、時間外での成果発表を実施した。9月の中間発表を視野にプレゼンテーションコンピテンスの醸成を図った。	授業評価 4.413 回答率 53.6% 科目GPA 1.79
D251037 ユーザーインターフェイス論	① 阿吽・相槌・間などコミュニケーションに不可欠なインタラクションを知っている。 ② アフォーダンス（シグニファイア）を知っている。 ③ ①②を理解した上で、人間と機械のインターフェースをデザインする視点を持てる。	本授業では、ユーザインタフェース（UI）の基礎理論から、設計・評価までを体系的に学ぶことを目的とし、学生自身が理解の段階を示す3回のプレゼンテーションを実施した。発表を通じて、自ら調べ、整理し、説明する力を育成する狙いであったが、結果として、上位層の学生は深い考察と具体的提案を行えた一方で、多くの学生は基礎的理解にとどまり、リテラシーレベルの知識整理に終始する傾向が見られた。特に、他者の発表を踏まえて自らの理解を深める姿勢が十分に育っていなかった点が課題である。	次年度は、単なる発表の場ではなく、学びを共有し合う「デザインレビュー型」授業へと再構成する。各発表の前後に、ピアコメントや質疑応答を体系的に導入し、学生同士が相互に刺激を受けながら、より良いデザイン思考を育む環境を整える。また、発表テーマも「知識説明型」から「提案型・比較型」へ移行し、エラー防止UIの改善提案や、既存アプリのUI分析など、実例に基づいた発表とする。これにより、学生の主体性と批判的思考を引き出し、授業全体の水準を底上げしていく。	授業評価 4.320 回答率 45.5% 科目GPA 2.45
D251038 スマートモビリティ論	①モビリティに必要な要件を知っている。 ②自動運転・自律走行・ドローンの制御技術を知っている。 ③新輸送方法を用いた産業アイデアを提案するためのプロタイピングができる。	4年生は特に中盤の授業で欠席者が多く、講義内容がうまく連結できなかった点が惜しまれる。	オムニバス形式を強め、欠席者用にUNIPAへのテキスト添付を強化していく。	授業評価 4.655 回答率 57.9% 科目GPA 2.84
D251039 スマートデザイン概論	スマートデザインがカバーする研究や教育の全体像を明らかにし、今後の履修や研究フィールドの選択に活かしてもらったことがこの講義の目標である。	これまで学科所属教員の研究内容を概観するような講義が存在しなかったため、オムニバス形式で研究紹介を行う形式を試みたが、研究内容についての理解が進み、一定の効果があったと感じている。	スマートデザインがカバーする研究分野をオムニバス形式で紹介する講義内容であり、授業評価のスコアの的には問題はないが、GPAが極端に低い。専門分野の内容について来れない学生が多いことが分かる。学生には単に聞くだけでなく、復習を促すとともに、教員側も学生の知識レベルを意識した講義内容にUpdateしてゆく必要がある。	授業評価 4.1 回答率 71.0% 科目GPA 1.32
D251040 情報処理基礎 I	情報処理機器の基本的な原理、構造、動作を理解することができる。	本授業では、コンピュータの構造やデータ処理の基本を理解し、アルゴリズムや命令実行の原理を体験的に学ぶことを目指した。バイナリ計算、スタック構造、レジスタ操作などを、理論の説明だけでなく、演習と組み合わせ、手を動かしながら学習させた。しかし、抽象概念の理解には個人差が見られた。	次年度は、CPUシミュレータを活用し、視覚的に示す教材を拡充する。理解の定着を確認するため、学生同士で説明しあうペア学習も導入し、学習の機会向上・効率化を図る。	授業評価 4.283 回答率 72.7% 科目GPA 1.48
D251041 デザイン基礎 I	①デザインの思考におけるプロセスを体系的に理解することができる。 ②最初から正解を求めるのではなく、試行錯誤や反復的なプロセスを通じて解決策を洗練させていくことの重要性を理解できる。 ③ユーザーの視点から問題を捉え、ニーズや行動を理解することが効果的な解決方法を生み出すための基盤であることを理解できる。	講義、課題の内容は適切で学生に伝達できた。	特定の欠席者が目立った。授業開始時間なども関係したようであるが、継続して行うことが大切なことを伝えなければならない。	授業評価 4.374 回答率 71.9% 科目GPA 2.50

令和7年度前期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D251042 地域共同デザインⅠ	①地域課題の発見と解決策におけるデザインのプロセスを知っている ②フィールドワークとコミュニケーションによる解決策を模索する方法を知っている ③地域のニーズに応じたデザインアプローチを発見し、具現化する方法を知っている	授業は3人で担当。私は授業責任者として授業計画表の作成、授業資料配信、授業進行、外部講師招聘手続きと授業前後の連絡等々を行い、授業運営を滞りなく進めることができた。地域共同プロジェクトとして、岡崎ジャズストリートの次年度ポスター&チラシデザインと、岡崎果樹振興会のぶどうジャム・ラベルデザインの2つを掲げ、授業コンテンツとして、これらプロジェクトに即したリサーチとプレゼン、Adobe Illustratorの基礎演習等を行い、メリハリのある構成となった。達成目標のために取り組む課題として、岡崎ジャズストリート実行委員会による実際のリアルなオファーは高い効果が期待される。	他学科、上級学年の履修者と一部の受講生は、おそらく単位取得が主目的でデザインプロジェクトへの参加は消極的である。レポートやプレゼン課題への取り組みも概していい加減であり、かといって厳しい点を付けて不合格にするわけにもいかず、やや緩んだ雰囲気になってしまった。積極的にプロジェクトに関わる1,2名が上手く全体を引っ張っていくような空気ができるとよい。期限のあるプロジェクト遂行と、授業としての教育効果を同時に求めるのは難しいが、前者でよい結果を出すことが次年度授業の質を高めることに繋がるので成功させたい。	授業評価 4.2 回答率 60% 科目GPA 1.6

令和7年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
A251002 建築概論	建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要です。そこで、建築学科の教員による輪講とし、各分野の内容や仕組みについて幅広く知ってもらい、これから建築の勉強を続けていく上でのステップとすることを目的としています。	建築学の入門的な位置付けの講義において、興味を持ちやすい内容や表現を心がけた。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。 講義室3101のプロジェクターのルーメンが低いので、写真や映像が非常に見づらい点は、施設整備で改善していただきたい。	授業評価 4.468 回答率 93.0% 科目GPA 3.56
A251002 建築概論	現行授業の目標 建築で学ぶ科目のつながりを理解できる。 建築学でのそれぞれの領域の科目構成を理解できる。 本学での建築学と、建築士資格での領域の構成対応について理解できる。 教育効果 多岐に渡る建築のさまざまな分野についてその内容や、それらの分野が互いにどのような関わりをもつのか、この科目を通して建築学の基礎を理解してもらいます。 建築は、多岐の要素が結びついているため、幅広い知識を身に付ける必要があります。大学教育において「建築学」を学ぶためには、入学した初期の段階で、その多岐に渡った要素についてよく理解し、将来を見据えていくことが重要となります。	教員2名で、半数回ずつ担当した。 建築学全体の科目間のつながりや、その中で学ぶ内容について、初めて建築を学ぶ学生にとって、理解できやすいように工夫した。 建築学では何を学んでいくのか、また、建築家とその建築家が設計した建築を、学べるようにしている。 授業を通して、学生たちの学ぼうとする姿勢がよく伝わってきた。	授業評価は高かった。 毎回の受講ノートはよく書かれており、建築界で活躍している建築家の作品紹介の回では、建築家の意図や作品の特徴について、写真や図を多く使うように心がけ、見てもわかりやすいように工夫した。 今後は、質問や、興味のある内容について、学生からのコメントが出せるように課題プリントに記載できる欄を設けて対応したい。	授業評価 4.46 回答率 92.98% 科目GPA 3.56
A251003 住宅のつくり	目標 住宅建築の工法や構造などの専門用語を理解することができる。 建築物のありようを理解し、建築構法の作図をすることができる。 教育効果 戸建て住宅や集合住宅で用いられる各種の構法や建築的な特性を含めた概略を知り、建築物がどのようにつくられるかを理解することを目的とします。	建築物の各種構造（鋼構造・鉄筋コンクリート造構造・その他の構造）の特徴や各部の名称などについて、図・写真などを用いて具体的にわかりやすく解説を行った。また授業の後半には、世界の名作住宅を紹介し、住宅建築についての理解を深めることができた。	1年前期の講義であるため、知識だけでなく、住宅建築の見どころや楽しさを伝えるように心掛けていきたい。	授業評価 4.498 回答率 91.4% 科目GPA 2.29
A251004 基礎製図 I	達成目標 木造住宅の基本的な特性を習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく知り、記述ができ、平面図・立面図・断面図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 教育効果 建築図面の表現方法および木造住宅の特性とプランニングの基礎を理解・習得することが目的です。	エスキースを基本として建築製図の基礎を学ぶ授業であるが、入学前に建築関係の学習経験がある学生はアドバンスコースを選択し、未経験学生はベーシックコースとなる。ベーシックコースを担当し、基礎的な製図の書き方や道具の使い方を、個々の能力に合わせて指導を行った。	ベーシックコースにおいては、個々の能力の差は大きいと感じる。授業が進むにつれ、進度に個人差が生じることから、個別の指導が重要である。エスキースゆえに、単に見本を描きうつす作業になると製図の力には結びつかないが、一定数の学生についてはその傾向が認められる。単なる作業とならない応用課題も追加することが必要である。図面が持つ意味を説明しながら、一つ一つの箇所を説明し、個別かつ課題別に指導することが必要である。	授業評価 4.535 回答率 94.8% 科目GPA 2.40
A251004 基礎製図 I	木造住宅の基本的な特性の習得を目標とします。そのために段階的に、図面の記号を正しく図の製図を行うことができ、基本的な住宅建築の製図を行うことができることを目指します。 学生の大半は初めて製図を行うので「ベーシックコース」という「線の描き方」から始めるのだが、工業高校などの高校で建築設計製図の授業に関わってきた学生だけは既にそれが出来るため、その学生たちだけを集めた「アドヴァンスコース」というグループを作り、一戸建ての自由設計を指導した。	建築系工業高校の出身学生（図面が描け、模型も作れる）を対象にした自由設計課題を作成して設計してもらった。岡崎市内の実際の住宅地の敷地を設定し、一戸建てを設計するという課題だが、全員が手書き図面・模型ともにしっかり達成できた。	学校から歩いてはいけな距離の敷地だったので、googleのストリートビューや航空写真を見ながら敷地調査を行ってもらった。全員が高校で設計をして来ただけあり、なかなか良いクオリティになったと感じる。コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。	授業評価 4.535 回答率 94.8% 科目GPA 2.40
A251005 建築の歴史	達成目標 1. 建築の歴史的な流れを理解できる。 2. 建築様式の違いを理解できる。 3. 日本や海外の建築家と建築作品の組み合わせを正しく理解できる。 教育効果 建築史学は建築学の創立以来、歴史上のあらゆる様式を理解する上で必須の学問とされています。そこでまず、そうした学問的背景と現代社会における役割を理解することが大切となります。	写真や図面、映像などを多めに取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫した。配布する授業資料も資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直した。 学生も授業を通じて建築での歴史とは何かを学ぼうとするためか、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきた。	授業評価は高かった。 授業資料でも内容が見た目でも、理解しやすくなるように少し手入れをした。 また、授業中の建築の写真や図面や映像などを取り入れ、学生が建築に少しでも興味を持つように授業内容も工夫した。	授業評価 4.44 回答率 92.98% 科目GPA 3.14

令和7年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A251006 建築計画Ⅰ	建築の計画・設計に必要なさまざまな知識を深め、基本的な用語、プロセス、方法、目的、種類、機能、条件などを理解できるようになることを授業の目的とします。 関心の幅を広げ、建築計画と生活環境に興味を抱、問題の解決に必要な調査・研究がイメージできるようにすること、建築作品の多面的評価への関心を高めることも期待します。	建築学の入門的な学問で、手を動かしながら学ぶことのできる内容・表現を心がけた。 昨年同様に、受講ノート、学外課題の負荷の程度については、適切であった。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。 前年度に比べて、集中して受講する学生が多かった。	授業評価 4.508 回答率 91.2 % 科目GPA 2.44
A251007 建築入門ゼミ	建築に関する基礎的な知識と技術を学び始めるにあたり、大学での学修生活に関する各種の課題発見から問題解決に取り組むことが出来る。	講義にもとづく演習を中心に構成される授業で、演習テーマにもとづき複数回の演習を進めながら学びます。 課題の状況を見ると、受講生の能力向上に十分寄与したと言える。	課題の一つとして、大学祭への出店計画を実施した。課題としては有用であったと考えられるが、実際に大学祭への出店状況が低かった。 次年度は、計画と実践の差異も検討できるように工夫する必要がある。	授業評価 4.48 回答率 96.4% 科目GPA 3.00
A251008 建築計画Ⅱ	商業施設・大型店舗の立地性と施設構成・業種構成が理解され、モデルの構築と商業施設計画への応用が出来るまでを達成目標とします。	さまざまな学生が興味を持ちやすく、わかりやすく伝えるために、視覚的に把握しやすい資料を用意した。また、定期的に授業で使用した教科書の内容を問題化して出題することで、理解を深めに定着しやすいようにした。 図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。	カリキュラム・ポリシーに基づいて建築計画での専門性をより高めることを目標とした。 授業内では毎回、ファンズワース邸、サヴォア邸、落水荘、サグラダファミリア、シーグラムビル、フィッシャー邸など世界の名建築を取り上げ、その建築の設計意図をいくつかクイズ形式で質問し、全学生に回答を書かせ、授業内で答えを解説していくという内容にしてみた。学生にとっては教科書を読むよりも頭を使うので面白いようだ。 教員にとっても非常に勉強になるので、名建築の質疑回答のパターンを増やしていきたい。	授業評価 4.521 回答率 81.5% 科目GPA 2.42
A251009 環境デザインⅠ	快適な居住間をつくるための方法やポイントについて理解できる。熱の伝わりについて基礎的な事柄を理解できる。光環境の基礎的な事柄を理解できる。 快適で過ごしやすく、省エネを実現できる建築が求められている。これを実現するためには、光、熱、風、音などヒトが感覚的に捉えている要素を量的に把握して、快適性や環境の改善に役立てる必要がある。この講義では建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など環境形成の基礎について学習する。	建築における暑さ寒さや熱の伝わり方、光の定量的表現や計算方法など、パワーポイントや部分的に動画をを用いるなどわかりやすい説明を心がけた。照度計を用いた、照度計測の体験なども行った。計算問題などは、回答時間を確保するとともに、丁寧な解説を行った。	省エネに関する知識、計算は、実務でも求められることから、多くの学生の理解が得られるよう対応したい。作業など手を動かして取り組める内容を工夫してゆきたい。	授業評価 4.37 回答率 74.6% 科目GPA 1.58
A251010 建築設計演習Ⅰ	目標 建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。 教育効果 「建築」・「空間」・「家族」の関係について考察し、設計に反映できることを目的とします。	池のほとりに祖母と夫婦、子供が暮らす二世帯住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。自然環境と住まい、人と人との関係性について考えることができた。	エスキースにおいて、一方向の指導ではなく、学生同士がディスカッションし、楽しみながら作品のクオリティを高めていく環境づくりをしていきたい。	授業評価 4.587 回答率 74.2% 科目GPA 2.20
A251010 建築設計演習Ⅰ	建築設計製図の基礎知識と表現技術の習得により、コンセプトワークから計画・設計までの業務に反映できることを授業の達成目標とします。	案を決めるにあたって、通常は最も自身が気に入った1案を煮詰めていくのが一般的な方法だが、実際の実務設計では自分の気に入った案が施主に受け入れられることばかりではなく、自身の考え方を変えなければならない場面もたくさんある。そのため、本授業では[簡単な配置平面スケッチ+断面スケッチ]を3案考えさせ、その中のどれをなぜ選択して進めるのか、を各学生と打合せしながら設計を進めていった。 1つの課題に対して、なるべくようなアイデアが思いついた方が素晴らしいので、学生にとって良い訓練になったのではないかと考えている。	手描きで図面を仕上げる規定だったので、CAD・Photoshop・イラレ・3DなどのPC作業はできなかったのだが、コンセプトを表す図版の表現方法の指導にもっと時間を使えるようにしていきたい。 また、模型表現をもっと細かく指導できるように、共通事項を決められないかが今後の課題だと思っている。	授業評価 4.588 回答率 74.2% 科目GPA 2.27
A251011 建築CADⅠ	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は32名、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考ええる。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2024年度の2.00と比較し低かった。授業評価に関しては、昨年度の4.267より高く、回収率を考慮すれば十分に達成目標を達することができた状況といえる。 もう1つのクラスと比較すると、授業評価が高く、科目GPAが約0.9程度低いという結果となった。 CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価 4.627 回答率 66.7% 科目GPA 1.36

令和7年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
A251012 建築材料	1. 建築物の材料に要求される事柄を整理する 2. 建築材料の評価法について理解する 3. 建築材料の使い方について理解する 建築材料に求められる特性を理解するとともに、各種建築材料の製造法と特性について学びます。授業で取り上げる、無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、特に良い建築を設計するために、正しく建築材料の特性の理解することが必要となります。	昨年度に比べ、実例や社会での問題点、新商品の紹介も行いながらの授業を行うようにした。 学生の内容への理解も昨年度より高く、安心している。 材料を作成している企業様にもお越しいただき話をしていただいたことも関心度が高かったようだ。	実践的な内容、新しい情報を入れながら興味を持って授業に取り組んでいただける工夫をしていきたい。	授業評価 4.55 回答率 71.0% 科目GPA 2.77
A251013 インテリアデザインⅠ	「生活」と「もの」、「人」と「空間」の関係についての基礎を学び、住空間の機能、デザインスタイル、色彩、基本寸法などの住空間におけるインテリアデザインを理解することを本講義の目的とします。	住空間をベースにインテリアデザインを理解する入門的な内容である。 教科書指定のある科目だが、適宜実例を紹介しながら、具体的に理解できるように内容・表現となるように務めた。	インテリアに興味を持たない学生の集中力が継続しないように感じた。 内容は過不足ないものになっていると考えているが、必修科目のため、そのような学生が主体的に学ぶ姿勢になるように、その表現・伝達方法を検討する。	授業評価 4.469 回答率 74.2 % 科目GPA 1.55
A251014 建築構造力学	断面の特性や不静定構造物の応力、変形を計算することができる。 多種多様な構造物（建築物）の力の流れを理解できる。	対面式の講義を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を毎回行った。 UNIPAによる授業資料配信により解説を行い、演習時間を十分に確保することができた。	授業課題や定期試験を含めてこの点を見直した結果、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベル間の乖離が緩和された。	授業評価 4.52 回答率 57.1% 科目GPA 1.83
A251015 建築設備	建築設備の構成について基本的な事柄を理解できる。 電気設備、給排水衛生設備などの専門用語を理解することができる。 設備計画を行う上でのポイントを理解できる。 建築に求められる性能として居住性や機能性、安全で衛生的であることなどがあげられます。これらを実現するためには給排水設備、空調設備、防災設備などが不可欠です。照明についての知識はインテリアデザインにおいても重要です。改修工事においても設備改修が占める割合は大きく、また省エネを実現するためにも総合的な設備の知識が求められます。本講義においてこれら設備計画の基礎知識を習得します。	実践に近い形でと考え、照明であればデザイナーさんの紹介をしたり、実例の設備紹介を行ったりした。 設備への興味がある学生が本年度は少なく、授業中にCADやデッサンをする学生が多く気になった。 またそれを注意することでますます授業を聞かなくなり、対応に試行錯誤を繰り返した。 対策として授業最後には計算問題などに取り組みいただき、回答ができた方から終わるようにして授業を聞いていただけるように対応したが、興味が高まったわけではなく残念だった。	手を動かさずに授業に対する関心や態度が悪い為、授業内での作業性を高めて行きたいと考えている。	授業評価 3.988 回答率 52.4% 科目GPA 1.92
A251016 複合構造	鉄筋コンクリート構造などの材料的複合構造の特徴・特質と部材の設計方法の概略を理解できる。 部材の構造計算方法を理解し、計算することができる。 複数の構造システムを用いた複合構造の構造設計を理解できる。	対面式の授業を実施した。スライドおよびプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。 UNIPAを用いて授業資料の解説を実施し、学生との質疑応答を授業で実施することにより学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	授業運営方法を工夫した結果、期待した効果が得られた。 次年度は更なる工夫を継続的に実施して行く。	授業評価 4.46 回答率 50.8% 科目GPA 2.27
A251017 建築設計演習Ⅲ	立地環境や建物の構造を理解して、設計図面（配置図、平面図、立面図、断面図）作成でき 手法と、伝えることを習得することを目指します。	「川辺に建つメディアテーク(図書館)」。敷地は、東岡崎駅から歩いてすぐの、岡崎市が街歩き戦略で掲げる「Quruwa」戦略の経路上に位置し、乙川と国道1号に挟まれた場所。第2回目で現地調査に行った。 外で授業を行うと、人通りや車通りの大小、音の大きさ、匂い、風、太陽の日差し、影、距離感、周辺の建物の高さや色や素材や古さなど、リアルな体験として敷地周辺を感じることができるので、今後も続けられたらと考えている。	今年も第1回は大学で資料配布を行い、第2回目以降で印刷物を持参させて現地調査を行うこととした。また、2年前のように「1コマ目の出席でいたはずの学生が2コマ目の出席で数人いなくなっていて事故などに合っていたら困る」と感じたことを改善し、2コマ分の出席で必ず返事することを徹底させた。来年も現地調査を行う場合はそのようにしたい。	授業評価 4.350 回答率 46.2% 科目GPA 2.69
A251018 建築生産 【工教選】	建築生産、住宅産業などについての基礎的知識を理解することができる。 建築生産および管理にかかわる社会的環境と産業構造、歴史、関係業界と職能、生産プロセス、管理の領域と内容、ファシリティマネジメント（FM）などについて理解することができる。 講義で養った知識を建築の建築計画や建築生産に取り入れられるようにすることができる。	住宅のつくり、建築施工など先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらい的な内容を進めるかに試行錯誤した。Power Pointをつかった事例の解説・説明は、受講しやすいように穴埋め式のプリントを導入することで、集中力の持続は若干向上できたものとする。3年前期科目のため、質的な内容を含む講義を熱心に聴講できる学生もわずかながら存在するので、その層へ向けたアプローチも改善も引き続き要する。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、学生が意識を持続させられるようさらに授業資料、課題内容を再編していきたい。ひきつづき8、14週にこれまでの内容の振り返りを実施して学習内容の定着度を再確認できるようにする。また、仮に大半の学生が聞けていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価 3.27 回答率 49.2% 科目GPA 1.82

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A251019 木造設計演習	木造建築の設計方法の基礎を理解できる。軸組みの考え方を理解することができる。部材の役割について理解することができる。 木造住宅に用いられる仕口模型の制作を行い、仕組みや部材名称、部材寸法等を立体的、体感的に理解します。さらに木構造における木組み、納まりなどについて講述し、各図面のトレースを行いながら理解を深めます。	木造の軸組を作成する課題に取り組んだ。モデリングスタジオにて、木組みを制作するものであり、難しい部分、手間のかかる部分もあるが、積極的に取り組む様子が目えられた。時間外で行ってもらった作業もあったが、ほとんどの学生が完成に至ることができた。	進度に個人差があることから、フォローをしながら、丁寧な指導を心がけてゆきたい。前半でのんびりし、期末で慌ただしく作業する傾向がみられることから、バランスのよい時間配分となるよう指導をしたい。	授業評価 4.60 回答率 35.7% 科目GPA 2.75
A251021 建築体感演習	目標 歴史的評価の高い日本建築の様式、構造、材料、構法、スケール、装飾、使われ方、近代・現代の建築デザインなどについて、現地での観察や事前の解説を通じて、今後の建築を考えていく具体的で多様な視点を獲得することを目標とします。 教育効果 日本の伝統的な建築や、近代・現代の建築、建築家の作品について、体験型学習などを通じて、建築への理解を深めることを目的とします。	5月に日帰りで博物館 明治村へ、9月には4泊5日で東京へ行き、近代・現代的な建築や街並みなどの見学をし、学生にとって貴重な体験を得ることができた。また今年度は、9月後半に日程をずらしたため、体力的な負担が軽減できた。	宿泊代が高騰しているため、履修しづらい状況になっている。見学する場所や日程を検討する必要がある。	授業評価 5.000 回答率 25.0% 科目GPA 3.25
A251022 エクステリアデザイン	建築（主に住宅建築）のエクステリアデザインに関する専門用語を理解することができる。 エクステリアデザインがどのようになされているか理解することができる。 外構計画のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	住宅プランニング、建築計画Ⅰなど先行する学習内容を踏まえつつ、さらに発展的な内容を学習する科目ながら、既習科目に対する学生の理解度にばらつきがあり、どの程度のレベルからおさらいの内容を進めるかに試行錯誤している。Power Pointをつかった事例の解説・説明は、大半の学生が意識を集中することができないため、本年度から教科書を変更し、手を動かすワークを大幅に導入したが、こちらの不慣れもありさらなる充実が求められる。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、授業内容の整序を行い、ちゃんと学生が意識を持続させられるよう授業資料、課題内容を再編していきたい。あたらしく指定した教科書をさらに読み込み、参考事例等の紹介も交えながら授業改善を行ってきたい。	授業評価 4.27 回答率 56.6% 科目GPA 2.81
A251023 インテリア設計演習Ⅰ	住宅のインテリア設計に必要な間取りや動線などの計画について学び、各部屋の仕上材や家具、設備といったインテリアエレメントについても習得します。家族が住まうインテリアの設計やコーディネートのための基礎力を養うことを学習の目的とします。	インテリアやリノベーションといった近年注目の集まっている領域の演習科目である。履修学生にとっては、これらの領域を学ぶ初めての機会となるため、基礎的な内容を含みつつ実用的な設計手法を指導した。 設計に興味があり熱意を持って取り組んだ学生は、非常に良い成果を達成した。	選択科目であるため、設計に興味を持つ学生が履修しているため、それらの学生に対して適度な負荷となるよう課題設計をした。しかし、昨年同様に、設計に興味の薄い学生も一定数履修していたため、選択科目としてはミスマッチが起きていたと感じる。初回の課題説明時などを通して、履修者が適切に授業の目的を理解できるよう検討する。	授業評価 3.914 回答率 30.0 % 科目GPA 1.25
A251024 卒業研究Ⅰ	達成目標 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。 そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	個々の情報収集の能力や、まとめる力を判断しながら、テーマをより深めるために、 どのような手段や方法を与えるのが良いか、工夫しながら進めた。	授業評価は高かった。 学生が自己のテーマに行き詰ったり、疑問点が出たときは、適切なアドバイスを与えるように心がけた。今後も、適切なアドバイスを与えられるようにしながら、自分で成長を実感できるように工夫したい。	授業評価 5 回答率 44.44% 科目GPA 3.13
A251025 卒業研究Ⅰ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生それぞれの興味や取り組みたい事例をプレゼンしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査、制作などを行った。	学生個々での進度や取り組み状況に差が生じることから、それぞれの状況に応じてしっかりと取り組みができるよう配慮したい。全体に進みでのんびりとしていることから、前半での積極的な作業を行うよう指導したい。	授業評価 5.00 回答率 33.3% 科目GPA 3.33
A251027 卒業研究Ⅰ	・生活・地域・産業などに興味・関心をもち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 それぞれの研究課題（テーマ）に応じて、調査、実験、制作、見学などを行い、とりまとめを行います。 教員や学生と連携したグループワークなど、研究室としての活動も行います。 提出された成果物について講評を行います。	本年度は「なごや建築まつり」への参加を研究室で行うことになり、進め方などを話し合いまとめた。 学生ごとの温度差もあり理解していただくことに時間がかかったが、前期最後にはまとめることができた。 テーマが最後まで決まらない学生がいた事、ゆっくりペースに人が多く提出前に修正が多く出たことで学生も私も負担が大きかった。 後期はスケジュールを立ててすすめるように指導したい。 結果は1人を除き、自主的にすすめることができたと感じていることが良かった。	学生ごとのペースが異なり、まとまった説明が行いにくかった。 学生同士の交流ができる人と出来ない人の差があり、対応を分ける必要があり、スケジュール調整が難しかった。 1日おきに質問を送ってきたり研究室に来る学生に対して距離感をとることが難しかったが、自主的に行うことができるように指導をしていきたいと考えている。	授業評価 回答率 0% 科目GPA 3.33
A251028 卒業研究Ⅰ	目標 ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 教育効果 学生自身が研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養い、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。	卒業設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、資料収集、事例調査を行った。テーマの設定では、他学生の研究について発言する機会をできるだけ設け、自分の意見が言えるように促した。	自分の意見を伝えられるようになってきたが、議論には至っていない。学生自らが主体的に考え、学生同士でも積極的にディスカッションできる環境を整えていきたい。	授業評価 4.750 回答率 57.1% 科目GPA 3.29

令和7年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
A251029 卒業研究 I	・生活・地域・産業などに興味・関心を持ち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。	授業の性格上、個別指導となる。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	一部の研究テーマにおいて少し遅れが生じた。研究指導方法を再検討する必要がある。	授業評価 4.8 回答率 83.3% 科目GPA ※受講人数の関係上非公開
A251030 卒業研究 I	授業の中にディスカッションを行うことを通して、意見を相手に伝えられるようになることと、自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることを目標とする。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定し、これを研究成果としてまとめるようにする授業である。テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力や、他の人に伝える力を養うことが期待される。	履修者数6名。履修者は概ね積極的に取り組んでくれた。 履修者により研究の進捗状況が異なるため、毎回やるべき内容について打ち合わせを行い、各自のペースでできるような環境を整えた。また、研究の進捗状況を全履修生と教員で共有し、各自のペースや現時点での課題なども共有する。 研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	科目GPAは昨年度の1.50と比較すると高く。授業評価は昨年度の4.350から比較すると高くなっている。昨年度は回収率が50.0%であったが、今年は33.3%になったためであると思われる。 研究論文が不得意な学生もいるため、進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価 4.90 回答率 33.3% 科目GPA 2.667
A251031 卒業研究 I	・建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 ・調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 ・研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。	専門書など具体的な事例を提示しながら、学生と対話し進めた。 一定の研究成果を達成した。 卒業設計の学生は、コンペティションへの応募を通して、発案→設計→表現の一連のトレーニングができた。 卒業論文の学生は、既往論文レビューからデータの収集と整理の成果を得た。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。	授業評価 5.00 回答率 16.7 % 科目GPA 3.17
A251032 卒業研究 I	達成目標 ①授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。 ②建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定します。そして、これを卒業研究としてまとめます。 ③所属する各研究室において、研究や課題となるテーマを見出し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながらまとめる力を養っていくこととなります。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を養うことが目的となります。今年度は卒業設計を選択する学生が6人全員となった。みんな優秀な学生のため期待が持てる。	前期の卒業研究 I では、後期では卒業設計を選択したい学生にも能力向上を考えて全員に卒業論文形式でA4×2枚にまとめて提出してもらった。初期は敷地をどの町にするのか考えてもらい、その後はその都市の役所ホームページを解説・発表してもらい、課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。	例年、4年生ということもあり登校の日はこの授業しかない学生が多く欠席する学生がいて進み具合がバラバラになったりするのだが、今年は1回も休まない学生が何名かいたり足並みを揃えて進めることができた点は良かった。欠席せず他の学生の進み具合を知りながら進めることが相乗効果を生むことを経験できた。	授業評価 4.700 回答率 66.7 % 科目GPA 3.50
A251033 卒業研究 I	・生活・地域・産業などに興味・関心を持ち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。	学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともにに行い、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開している。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが状況が昨年同様につづいている。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。	上記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していきたい。また、授業時間外学習の成果が現状ほとんどのぞめない状況のため、授業内・外での課題内容を差別化し、授業外では課題内容もアウトプット、提出期限もより明確になるような取り組みとしたい。	授業評価 4.93 回答率 37.5% 科目GPA 2.00
A251034 卒業研究 I	達成目標 ・生活・地域・産業などに興味・関心を持ち、調査・実践・体験などを通して問題発見をすることができる。 ・論理的に物事を考え、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・研究課題の絞り込みや目的の明確化をすることができる。 教育効果 ・建築に関わる社会的課題、先進技術、歴史と文化などについての理解を深める。 ・調査、体験、グループワークなどを通して良好なコミュニケーションや気づきを得る。 ・研究や創作のプロセスについて理解し、自らの問題意識を踏まえた課題設定を行う。	対面式の講義を実施し、学生それぞれの興味や取り組みたい事柄をプレゼンをしてもらいながら、卒業研究のテーマを定めていった。設定した研究や課題のテーマに関する資料収集、調査を行ない、後期の制作につなげるための指導を学生個々の能力や目的にあわせて行なった。	極力学生自らが考え研究を進めるように指導を心掛けたが、授業外学習や研究の成果は乏しい場面も多かった。後期へのモチベーションに繋がるよう、個々の自主性を重視したが具体的な課題や調査内容を提示する必要も感じる。	授業評価 4.600 回答率 80.0 % 科目GPA 2.60

令和7年度前期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A251036 不動産プロデュース	土地及び建物に関連する権利関係・法令上の制限（特に民法、宅地建物取引業、建築基準法）を理解し、不動産管理について理解することができる。	宅地建物取引業関連の内容とあわせて、不動産プロデュースに関する学習内容を加味してスタートした新カリキュラムながら、本年度も不動産分野に興味関心がある学生の履修は限定的で、卒業単位不足による履修が大半を占めた。4年次開講であると同時に、入学時からの単位大盤振る舞いが影響しているものと思われる。本講義で扱う内容は、今後ますます建築業界でも重要となることから、改善を重ねながら、より学びやすい講義内容にバージョンアップしていく必要性を痛感した。	本年度から導入した事例紹介や、宅地建物取引業関連のシロクロがつきやすいワークをさらに充実させ、実りのある学習時間となるよう改善を試みる。ひきつづき授業進行を3つに分け、①前週復習ドリル、②今週の学習内容解説、③教科書をもとにしたワークとすることで集中力をなるべく持続させ、かつ、学習内容の定着を図る。	授業評価 4.87 回答率 37.5% 科目GPA 1.80
A251037 住宅産業論 【工教選】	住宅産業に関連した専門用語やトピックスを理解することができる。 ハウスメーカーによる住宅がどのように生み出されているのか理解することができる。 これからの住宅産業の展望と課題について自分の意見を述べるすることができる。	本学科学生の多くが選択する進路先として住宅産業がある。そのため、本講義内容は就職先は大に関わりつつも、実際には就職後には学ぶことが少ない内容を取り扱う科目として、重要な位置を占められると思われる。しかしながら、4年次開講であることもあって、受講学生の大半は、卒業単位不足による履修となっている。この状況はなかなか変わらないので、受講者の二極化を踏まえつつ質的な話題を抑制して、手を動かして学習する講義内容に変更した。とはいえ、まだまだ不十分な点もみられる。	前年度の反省を踏まえた改善方針をさらに徹底し、より教科書に準拠した内容とし、予習・復習がしやすいようにするとともに、前週振りかえりや今週の要点まとめなどの課題を授業内にドリル・ワーク化することで、一定の集中力維持と学習内容定着を図ることができた。次年度ではここでの成果をもとに、さらに内容の改善をすすめたい。	授業評価 4.70 回答率 37.90% 科目GPA 1.48
A251038 建築CAD I	具体例に沿いながら、CADの基本的操作方法を習得するとともに、より効果的な図面作成とプレゼンテーションの能力を身につけることを目標とする。 CADシステムを用いて建築設計図面の作図方法を学習し、図面の精度、表現力を高める授業である。具体的に住宅や事務所等の建築について2次元CADによる平・立・断面図等を作成し、さらに作成したデータの加工・編集、プレゼンテーションまでの学習することが期待される。	教員1名で2クラスを受け持ち同様の授業を実施している。必修科目のため受講人数は29名、履修生は積極的に取り組んでくれた。 当初は画面で逐次作業手順を説明し、作業に慣れた時期から、授業開始時に課題及び進め方の説明をし、各自が作業を行う方法をとした。 学生からの質問や不明点については、全員で問題を共有し、逐次説明を行い素早く解消できたと考える。 毎回の提出物のチェックも行い、間違いを指摘し修正するという作業を繰り返すことで、学生の正確なCAD技術や知識の向上に寄与できた。	科目GPAは2024年度の2.86と比較し低く、授業評価は4.357と比較し高かった。授業評価に関しては回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。 CADが不得意な学生にはSAに集中的にフォローさせるなどの方法をとったが、昨年度より授業評価が下がった。操作手順などを適切なタイミングで説明できるように心がけるようにしたい。	授業評価 4.564 回答率 75.9% 科目GPA 2.21

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251001 経営の基礎 I	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	他ゼミとの共同授業が多く設定されたことで、学生にとって良い刺激が得られた。学生たちにはまず授業を欠席しないこと、レポートを必ず提出すること、規則正しい生活を送ることなどを指示した。最終的に退学者が1名出たことは残念であったが、その他は概ね良好であった。個人面談を全員に1回ずつ行い、授業欠席が続いた者には、適宜面談を行ったことで、学生の把握ができたことはよかった。	個人面談は効果があり、学生の把握ができたが、もう少し突っ込んだ内容の把握が必要である。毎年、後半になって気が緩む傾向が出てくるが、欠席が続いた学生にその都度呼び出して面談をしたことはその後の欠席が減少したことを見ると効果があったように思う。	授業評価 4.66 回答率 91.7% 科目GPA 2.83
S251002 経営の基礎 I	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。今年度も、多くの授業で1年生全員を大教室で実施した。 全員が同じ課題に取り組めるのは利点であるが、聴講姿勢に問題があったり、個別の指導が及ばない点はマイナスであった。	個別の対応をしていくには、大教室、全体で実施する授業比率を下げて、少数で指導する必要性を感じた。 また、一部欠席の多い学生が評価を下げる要因となっていた。欠席をしないような指導は大変であるが、単位をしっかりと取ることの重要性を伝えていきたい またチームスのチャットを利用した細かい連絡で意識付けも行っているが、登録してあってもみてくれない学生もいるため、前段階の意識付けが必要である。	授業評価 4.66 回答率 84.6% 科目GPA 2.33
S251003 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。今年度の1年生には、他の学生と全く話をしない学生は少ない。	提出された課題に、授業が楽しくなるようなコメントを書くようにしたい。	授業評価 4.70 回答率 85.7% 科目GPA 3.57
S251004 経営の基礎 I	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 高校生から（本学）経営学部学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、経営学部学生としてのスチューデント・スキルを身につけます。	履修者数は経営学部総合経営学科1年の日本人学生（再履修者1名を含む）15名であった。前期は対面授業であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。課題等の提出状況は、授業の当日提出すべき課題を全学生が提出した。ほとんど学生が毎週の学習に取り組み、課題、および定期レポート試験を直接、手渡しで提出し、ほとんどの学生がこの科目に合格した。途中、学習意欲が減退し、出席しなくなる学生が1人出た。 また、担当教員に授業Q&Aを活用して、いろいろな質問をメールで送信してくる学生がいたので、すべて丁寧に回答し、最後まで粘り強く学習が続けられるよう援助した。 全体として真面目に取り組んだ学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	50%以上の学生が比較的良好な評価をしてくれた。このクラスは、履修学生15人のうち、1名の欠席者を除けば、残り全員が合格した。 また、科目GPAは3.000と平均以上で、全体として見ると、学生たちの学習に対する姿勢は良かったと言える。	授業評価 4.500 回答率 53.3% 科目GPA 3.000
S251005 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	本学の施設等の案内などからなる“大学生入門”から初めて、外部講師によるキャリア形成に関する授業および経営学の入門の授業を行った。種々の分野の講師が授業を行うことで、いわゆる経営学だけではなく、様々な側面から学習することができた。大人数での授業であったため、個々の学生に十分に対応することができなかったように思われる。	次年度は、授業内容や授業の進め方を工夫し、個々の学生に十分に対応する時間を確保するとともに、他者とのコミュニケーションをとる機会を増やしていきたい。	授業評価 4.400 回答率 64.3% 科目GPA 2.86
S251006 経営の基礎 I	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上の3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生たちは中国、ベトナム各出身者から構成されていた。総合経営学科1年の全留学生が集まる授業でもあり、伝達事項の時間を必ず設けた。遅刻や欠席の多い学生たちを指導する機会でもあり、その点を念頭に置いて授業に臨んだ。その点はよかったと思う。	まずまずの授業評価ではある。回答率がやや低いのが気にはなる。遅刻や欠席を少しでも減らせるよう、達成感や充実感を感じるような授業展開を心がけたいと思う。	授業評価 4.333 回答率 37.5% 科目GPA 2.63
S251007 現代生活と会計 商教必	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	授業内課題の提出率が低く、授業外課題も提出率がさらに低かった。そこで、終了時間の少し前に問題を解く時間を与え、未提出率を減少させたため、授業評価の改善につながった。コロナでの欠席が多くなり、課題提出についても回収が困難だった。大半の学生が理解できたと思われるが、翌年になると忘れていていることが多いので繰り返し、復習ができるようにしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。 さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。オンデマンド授業で動画を作成し、いつでも閲覧できるように工夫した。	授業評価 4.6 回答率 59.6% 科目GPA 2.7
S251008 現代生活と会計	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。	簿記の経験者も多く、そうした受講生には少し物足りない授業になるが、他方で留学生や簿記の初学者も多いので、言葉でできる限りはつきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、大人数授業の中で、十分な演習時間を取ることに難しさを感じた。	簿記は、勘定科目を言語として用いている。勘定科目を理解すれば、ほぼ全てのことが理解できる。勘定科目は、漢字を見れば、およそその意味はわかるものであるが、近年は、非漢字圏の留学生が増えているため、理解が難しくなる。用語の意味の説明等に時間がかかり、やはり演習問題や、時間の確保が難しいが、できる限り、時間の確保に努めていきたい。	授業評価 4.584 回答率 65.8% 科目GPA 1.26
S251009 現代生活と会計 再履修	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。 企業は、お金に関する記帳をしています。これが簿記です。この簿記は、複式簿記と呼ばれ、財産やもうけを把握します。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることを目的とします。	最後まで出席した学生は何とか単位取得できたが、欠席した学生をいかに登校されるのが課題である。	再履修クラスのため、欠席者以外でも嫌いになった学生がいるので計算問題に時間をかけていきたい。授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。オンデマンド授業で動画を作成し、いつでも閲覧できるように工夫した。	授業評価 4.4 回答率 66.7% 科目GPA 2.33

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251010 経営と情報	ITの技術的基礎について、ITパスポート試験の問題が解ける程度に理解出来ている。経営を行う上でITをどのように使っていくべきかを理解している。	84人が受講。各講義後にレポート課題を課し、その次の講義で解答して理解度を確認するように進めた。また、定期試験では、レポート課題の中から重要な問題を取り上げたが、全体的な理解度は高くなかった。さらに、休講の代わりに、初めてオンデマンドによる講義を第6回、第14回、第16回に行った。第7回の講義において、オンデマンドによる講義についてどう思うかを確認したところ、補講を実施するよりは評判が良かった。	各講義において行う演習量を増やすことによって、理解度を高める工夫を実施する予定である。また、選択科目ではあるが、ほとんど全員の学生が受講するように、その重要性を伝えるようにしたい。今後、オンデマンドによる講義と対面による講義のどちらが理解度が高いかを比較し、それほど変わらないようであれば、オンデマンドによる講義の割合を増やして行く予定である。	授業評価 4.468 回答率 52.4% 科目GPA 1.202
S251011 異文化理解	国際ビジネスの素養として、自国の文化とは異なる諸文化についての理解を深めることができる。様々な国・地域の文化の共通点・相違点を把握し、諸文化を尊重する態度を養うことができる。以上2点を到達目標としている。上記の目標に沿うべく、様々な国・地域の文化について学ぶことを教育効果としている。	学生たちの出身国はネパール、ベトナム、中国。1年生だけではなく、2年生と4年生もいた。そのため緊張感を持って授業をすることができた。今年度は言語に重点を置いた授業を行った。さまざまな言語の挨拶言葉を暗唱させたことも緊張感の保持につながったと思う。	まずまずの授業評価ではある。さまざまな言語の挨拶言葉を暗唱させたことについては抵抗を感じる者もいたのではないかな。少しでも興味が持てるような工夫を心がけたいと思う。	授業評価 4.550 回答率 40.0% 科目GPA 2.70
S251012 スポーツ科学概論	達成目標 スポーツに関わる者として必要であるスポーツ科学および周辺知識を習得できる。 スポーツ科学全般に加えスポーツ振興政策と社会体育論、スポーツに関する法的知識、スポーツ心理学、スポーツ組織論についても理解できる。 対象者の年齢に合わせたスポーツ指導の方法を理解できる。	概論ということで、スポーツ科学のあらゆる分野の授業を、1回、ないしは2回で、ある程度、その分野の知識、雰囲気を理解してもらうことに主眼を置いている。 90分の対面授業中に授業課題を行う形式で、欠席しなければ、単位の取得は難しくはないはずであるが、1年生科目にしては、欠席する学生が多く、低いGPAとなった。	成績上位者が少なかった。 B、Cとなった学生が、単純に、ノートテイキングができない、課題を記述する上にあたって、文章が書けない、課題を記述する上にあたって、文章が書けないのいずれかであった。前年度と同じ反省になるが、1年前期の科目であり、授業内容はもとより、授業の受け方、課題の記述の仕方等を丁寧に指導して、今後に繋げていくことが肝要である。	授業評価 4.54 回答率 67.5% 科目GPA 1.08
S251013 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	経営上の様々な問題を考えるために必要となる金融経済的な基礎知識を身につけられるよう、自著である『はじめての金融リテラシー』をつかって、テーマごとに担当者を決めて、発表と討論を行った。 基本的な金融経済知識に乏しい学生が多く、この授業を通じて多くの知識を身につけることができたのではないかと考える。	学生のプレゼン能力がより高まるよう工夫していきたい。	授業評価 4.422 回答率 81.8% 科目GPA 2.00
S251014 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	資格取得の学習をしているか学生の学習意欲が今一つ感じられない。ゼミの学習を通じて、問題意識を持つこと、及び情報収集能力・論理的思考力・プレゼンテーション能力を各自が主体的に養っていけばいい。	授業は「飴と鞭の世界」である。鞭ばかりでなく、学生に飴を与えなければならない。飴が何に相当するかが問題である。	授業評価 4.000 回答率 50.0% 科目GPA 1.00
S251015 専門ゼミナールⅠ	達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケースの選択にあたって、誰でも知っている身近で親しみやすい商品や企業を取り上げた。 各自で行ったケーススタディの結果をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。	テーマに対して自主的、能動的に調べる姿勢を身につけながら、経営全般に対する関心を高めていく。 また発表の機会を増やしてプレゼンテーション能力の向上を目指したい。	授業評価 4.87 回答率 100% 科目GPA 4.0
S251016 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	コスト管理を理解するために原価計算検定初級に挑戦してもらった。計算するにあたって考えすぎる学生が多く、自信がないように思えた。そこで多くの問題をこなして自信をつけさせ挑戦してもらった。予想より合格者が多く安心した。次年度も同様の対応をしていきたい。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価 4.9 回答率 70.0% 科目GPA 3.90
S251017 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	2年生の演習であり、質問があればできるだけ積極的にしてもらうようにした。前半は、身近な法律の論点を全員で検討し、発言するように指導した。後半は、公務員試験問題などを利用して、政治の基礎問題を学習した。とりわけ国語の読解問題では、様々なレベルを用意し、学修スキルを高めることができた。論述課題については文を要約する技術を習得させ、論文作成力を身に付けさせた。与えた課題は、最終的にはそれぞれの学習到達度を把握することができた。	学習の進捗を確認して、個別にアドバイスすることができた。法律問題は比較的身近な話題を取り上げ、丁寧に解説することを心がけた。公務員試験対策では、主に過去問を通じて実力を身に付けたい。プレゼンテーションの効果的な方法は扱ったが、発表する機会が少なかったので興味のある話題を設定して発表機会を設けていきたい。	授業評価 4.760 回答率 45.5% 科目GPA 4.00
S251018 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てます。	今年度の担当ゼミ生は11名と昨年度よりかなり増加した。うち留学生が半数以上を占め、概して真面目に参加しているものの、中には日本語能力に難がありそうな者もいる。日本人学生の中には出席日数ギリギリという者もあり、管理上では苦慮させられるようになってしまった。ゼミの各課題は各自真面目に取り組んでいるように感じられる。	授業評価は達成度に関する項目の②③が昨年度よりかなり低下してしまった。留学生が増加したことが関係しているのかも知れないが、成績評価上は日本人と遜色ないレベルで科目GPA数値はむしろ昨年度より向上している。ただ課題の提示・説明の仕方に不十分な点があったかも知れず、これまで以上に丁寧に説明や対応を心掛けていきたい。	授業評価 4.244 回答率 81.8% 科目GPA 2.91
S251019 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回について対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価 4.760 回答率 90.9% 科目GPA 2.82

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251020 専門ゼミナールⅠ	経営上の様々な事象に自ら問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	再履修者を含む12名のゼミ生を対象に、それぞれの関心や経営への興味、理解度を確認しながら指導を行う予定であった。公欠申請による遠隔授業受講者には、使いやすいSNSツールを活用してコミュニケーションを図った。個別指導にも対応し、退学意向のある学生も含め、全員が前期の学習を終えられた点は評価したい。	12名のゼミ生のうち、3名が未回答であったが、昨年度と比較して回答率・評価ともに向上した。専門分野の学習を始める初期ゼミとして、丁寧に個々の学生に対応することを心がけている。今後も、きめ細やかな個別指導を継続するとともに、授業内ではゼミ生全員が疑問を共有し、互いに考え、教え合える環境づくりを進めていく。遠隔授業希望者にも対応できるよう、工夫を重ねていきたい。	授業評価 4.867 回答率 75% 科目GPA 2.75
S251021 経営管理論	経営管理論の理論的發展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理、組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるようにするための管理者の仕事・役割について学習する。	昨年度より履修者が増加し100名近くの履修となったことで、昨年度よりは若干手間がかかるようになった感はあるものの、概ね問題なく講義を進められた。ただ普段から騒ぎがちな学生の集団がいたので注意する回数も増えた。	昨年度より評価値が若干下がってしまったが、それ以上に回答率が昨年度の70%台より激減してしまったことが気掛かりである。科目GPAは昨年度より上昇したので、教育的効果はそれなりに出ていると考えられる。回数によっては密度が薄めな授業回もあるかと感じるようになってきたので、そのあたりの強化を今後図っていきたい。	授業評価 4.418 回答率 55.6% 科目GPA 2.25
S251022 マーケティング論	達成目標 マーケティングの基礎理論について理解することができる。 授業で学んだキーワードを活用して、企業のマーケティング戦略が分析できるようになる。 マーケティングに関する基本的な理論と実態の理解を通して、企業や社会における課題発見力を身につけ、マーケティングを実践的に活用できることを目的とする。	事例と理論を組み合わせ、日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明して理解を促した。 極力具体的で身近なケースを提示して、イメージしやすいように工夫をした。授業を通して身に着けたマーケティングの基本的理論によって、顧客志向や社会志向の知識が身についたと考える。	マーケティングの理論と商品やサービスのトピックスを結び付けて理解の促進を図ってきたい。商品の現物の提示や動画による事例紹介をより多く取り入れ、学生が関心を持てるように努めていきたい。	授業評価 4.48 回答率 64.1% 科目GPA 2.76
S251023 簿記Ⅱ	会計専門用語や仕訳を理解することができる。 貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書等を作成することができる。	日商簿記検定2級の商業簿記レベルの修得を目標とする科目で、1年科目の「現代生活と会計」や「簿記Ⅰ」とは、難易度に各段の差がある。日商簿記検定試験を受験するつもりで受講している学生と1年次の簿記学習が嫌いではないから受講している学生とで2極化が生じているが、学習内容量も多く、個別に対応することが難しい。解説するテーマを絞って、できる限り丁寧な説明を心掛けた。	簿記の習得には、数多くの問題を解くことが必要であるが、多くの学生は、板書を写すことに専念しているようである。学生が自分で問題を解く時間を確保できるよう、工夫をしていきたい。	授業評価 4.317 回答率 85.7% 科目GPA 2.43
S251024 IoT社会	IoTの発展の経緯や仕組みを理解し、説明することができる。 マネジメントに必要なIoTの知識を身に付けるとともに、実践経営に活用できるようになります。	学生には少々難しいが、実践的な課題を実施しているので、就職してから非常に役に立つと思われる。	毎回、受講者が多いので大きい教室を割り当ててほしい。	授業評価 3.960 回答率 54.5% 科目GPA 1.00
S251026 地域産業論 留学生科目	いわゆる地場産業の姿について理解することができる。 地場産業の実践例を通じて、地域の産業振興に必要なことを理解することができる。 他地域の地域産業の振興策を学ぶことを目的とする。	昨年は遠隔授業であったので対面での授業は初めてであった。留学生は、コロナ前にいろんな地域を観光しているのさまざまな地域で日本の地域活性化施策が講じられていることを伝え、母国に帰っても対応できるように伝えた。動画を見せる時間を作った。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、留学生のため動画を見せるという時間は必要であり、工夫したい。その都度地域の動画を見せながら解説をした。それが良かったと思われる。	授業評価 4.7 回答率 80.0% 科目GPA 3.33
S251028 企業法	企業法の中核をなす民法、商法と会社法の基礎知識を活用して、企業における法的トラブルの際には、企業の仕組みや規制を踏まえて正しく行動、対処することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	主に民法、商法及び会社法の分野につき、企業にかかわる法律関係を扱った。できるだけ身近な話題を提供し、基礎内容の把握から判例の紹介とともに論点の検討を行うようにした。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、意義を踏まえて法規制を把握した。ニュースや新聞記事の紹介に加え、主要判例の検討は具体例として効果的であった。授業は、おおむね満足して受講してくれたようである。ただし、専門用語を難しいと感じる学生も多いので、丁寧に何度も確認してきたい。	主に2年生が対象の科目であり、昨年度の法学概論とあわせて法の基礎事項を学ぶ授業である。とりわけ企業にかかわる法分野を扱っており、経営学部の学生としてしっかり理解すべき授業であるため、難解にならないように心掛けた。企業法を取り巻く広範な論点について、できるだけ多くの事例や判例を紹介しながら、実務を把握することも継続してきたい。	授業評価 4.421 回答率 51.6% 科目GPA 2.73
S251029 スポーツ指導論	①スポーツ指導者の立場や役割を理解できる。 ②スポーツ指導者に必要なスポーツ科学の知識を習得できる。 ③スポーツ指導の過程を理解し、その実践方法を習得できる。	可能な限り分かりやすくかみ砕いて説明をしたつもりだが、今年も学生たちは集中が長続きせず、着座した状態で休憩を入れながら授業を進めた。特にスポーツ指導の現場で実際に起きた事故やけがなどの発生経緯を経験に基づいて説明したことは、学生の心に響くものがあつたようで、真剣に聞いてくれた。定期試験では各自の意見を盛り込んだでの回答を求めたが、それなりに工夫が見られ、効果はあったと思われる。	授業の中で意識して多くの発問を行うようにしたところ、多少緊張感のある授業になったのではないかなと思う。しかし、何らかの工夫がないと内容が学生に浸透せず、指導効果は上がらない。ミーティングも試みたが、それだけではモチベーションが保たれず、引き続き自ら学ぶ姿勢を保たせるため、より興味を持てる内容を工夫していきたい。	授業評価 4.42 回答率 63.5% 科目GPA 1.86
S251030 スポーツビジネスとマーケティング	スポーツビジネスへの対応を念頭においたマーケティングのあり方を理解できる。 実際に行われているマーケティング活動に対して関心をもち、自分自身でスポーツマーケティング戦略を考えることができる。 スポーツ事業を企画・提供する基本的な内容を理解し、実践することができる。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、ビジネスおよびマーケティングにおける基礎的な内容をスポーツに照らし合わせて内容を構成した。1年次における経営に関する基礎知識を踏まえた内容となるが、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。それまでの他の科目でも取り上げられた内容をスポーツ関連のもので考えることで、一般的な経営とスポーツの経営の共通する点や異なる点など、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるように工夫した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、深まったと感じている。	授業方法として、全ての回を対面とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、内容および資料の量を適切に保つことを意識した。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の講義内容の量と質が必要だと考える。今後は対面授業の内容を工夫し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価 4.392 回答率 57.6% 科目GPA 2.04
S251031 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	各自の設定した課題テーマを発表し、討論を行った。学生の調べた内容、解釈レベルには限界があるものの、自ら調査し、考える力を養うことがある程度できたと考える。さらに、各自のプレゼン技術もそれなりに改善することができた。	今後は、4年生からの卒業研究に向けて、自分の興味のあるテーマの設定と展開について個別に指導してきたい。	授業評価 5.000 回答率 71.4% 科目GPA 4.00

令和7年度前期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251032 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目的とする。	各自で行ったケーススタディの要約をメンバーで共有し、人の意見を参考にしながら思考する探求力を身につけるように心掛けた。またグループワークによって他のメンバーとの協働やディスカッションにより成果を出すことで新たな気づきや協調性が身につくように運営した。	各自が取り組んだケーススタディに加え、他の学生の発表や意見からも刺激を受け、新たなテーマに自主的に取り組むように指導を行う。その結果として、広い視野で研究にアプローチできる力が身につくことを目指したい。またプレゼンテーション能力に加え、グループディスカッションによってコミュニケーション能力の向上も図りたい。	授業評価 4.33 回答率 85.7% 科目GPA 4.0
S251033 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度は1名のみの受講生であったが、欠席もなく、課題に対してそれぞれに取り組めた。研究テーマが、卒業研究に繋げるためには大きすぎるテーマであるため、とりあえず、レポートとして完結できるように指導した。	1名のみの受講生でマンツーマンの指導であったため、他の学生の進捗状況や内容を知る機会がなく、自分基準で進めるしかなかった。最後のプレゼンテーションも同様であった。卒業研究の進め方の中で、同じゼミ生とのコミュニケーションやグループワークは大切な過程であり、それに関しては不十分な結果となった。	授業評価 4.60 回答率 100% 科目GPA 2.0
S251034 専門ゼミナールⅢ	ITを活用した経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	8人が受講。力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステム、知の拠点密度重点研究プロジェクト「多感覚ICTを用いたフレイル予防・回復支援システムの研究開発」で試作した、仮想書道システム、メタパースによる歩行支援システムの3つのシステムを扱い、それらのシステムの立ち上げ方法と、操作方法を学習した。特に、後者の2システムについては、システムの組み立て・分解も可能とし、それらの説明もできるようにした。今後は、その研究の背景、問題点、解決手法、効果、未解決の課題などを勉強し、卒研につなげられるようにする予定である。	各講義において、すべての学生がそろうことが少ないため、一度説明したことも、何度も繰り返して説明しないと、聞いていないなどと答えるので、効率が極めて悪い。学生は5回までは休んで良いと考えているため、ゼミや卒研ではこれまでの講義と異なり、受け身ではなく、積極的に自らが学ぶ姿勢を身に付けることが必要であるので、卒研に向け、考え方を変えて行くように指導したい。	授業評価 3.100 回答率 25.0% 科目GPA 2.25
S251035 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度は、仮説検定について理解するために必要な統計学の基本事項について、受講生自身が調べ、調べた内容を発表するという形式の授業を行った。正規分布の確率密度関数の導出過程について調べる授業内課題を出したが、期待した解答は得られなかった。	次年度は、授業時間のはじめに、その日調べる統計学の基本事項の概要を説明するようにしたい。	授業評価 4.50 回答率 50.0% 科目GPA 3.50
S251036 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	MOS試験のエクセルを受験対策をした。学生は自主的に検定試験を受験して合格したという報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものとする。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価 5.0 回答率 50.0% 科目GPA 3.9
S251037 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科3年生6名（全員、日本人）であった。前期は対面授業（一部の学生はオンライン授業）であったので、毎週の学習内容に従って授業を進めた。また、演習課題、および宿題等の提出状況は、きちんと提出できた学生がほとんどであった。その結果、ゼミ生全員がこの科目に合格した。全体として真面目に取り組んだ学生が多かったため、授業自体は進めやすかった。	履修者6名のうちで、3名しか回答していないので、授業全体像があまりはっきりしない。また、科目GPAは2.833であったので、ゼミの成績評価としては良かったと言える。このクラスは、履修学生が日本人学生であったので、できれば留学生と一緒に授業を進めることができるメリットを認識することができた。	授業評価 4.667 回答率 50.0% 科目GPA 2.833
S251038 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	課題内容については、毎回全員にコメントしてもらったようにした。前半は、法律の論点を全員で検討し、コメントするスキルを身につけるようにした。後半は、公務員試験問題などを利用して、法律の基礎問題を学習した。公務員対策では効果的な面接対策も盛り込んだ。また、頻出のテーマを利用した論文対策によって、レポート作成スキルを高めることができた。プレゼンテーションに関するレポート作成課題を与え、効果的な発表方法を学んでもらった。発表する機会は多くなかったが、毎回必ずコメントを求めることで積極的に発言することができるようになった。	進め方については、おおむね満足していたようである。毎回、学習の進捗を確認して進めることができた。法律の争点を扱う際、判例など具体例を用いて丁寧に解説するように心がけた。公務員試験対策では、解答のみならず、すべての選択肢を分析することで実力がついた。補習も効果的に行うことができた。個人発表する機会は増やしていきたい。	授業評価 4.943 回答率 87.5% 科目GPA 4.00
S251039 専門ゼミナールⅢ	経営管理論の理論的発展過程について体系的に理解できる。 管理者の仕事・役割について理解し、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）を活用し、管理・組織化する方法について総合的に判断できる。 経営学の基本であるヒト、モノ、カネ、情報に関する知識を主体的に学ぶことを通して、企業や会社で実際にマネジメントできるようになるための管理者の仕事・役割について学習する。	今年度は例年よりも少なめな7名であるが、うち1名は結局特別配慮制度を申請する程体調・精神面に不安がある学生で、残りは学生によって真面目不真面目の度合いが異なる。ただ各課題への取り組み具合は昨年度のゼミ生よりも各自概して真面目で、指導面では安心できるようになった。	授業評価の数値は昨年度よりも低下したが、回答率は上がっており、より正直に答えた結果かもしれない。科目GPA数値は上昇しており、不真面目なゼミ生が多かった昨年度よりはかなり改善した形である。実際昨年度よりは指導のしがいがあると感じている。	授業評価 4.520 回答率 71.4% 科目GPA 2.86
S251040 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	上場企業の決算書を読むのに必要な会計知識を補うよう、輪読を行った。また、実際の企業データを用いて、簡単な分析を行った。学生のプレゼンテーションをもとに、補足説明を行い、理解を深められるよう努めた。	ゼミナールのメンバーの関心事にあわせて、授業の進め方を工夫していきたい。	授業評価 4.533 回答率 100.0% 科目GPA 4.00

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251041 専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営学について多角的な観点から学習し、より専門的な経営学的思考能力を身に付けます。ビジネスパーソンに必要なスキルと知識を理解していく。	教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。主に、読む、書く、まとめる、といった学修スキルに加え、PC等を用いたレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択し、卒業論文執筆へと繋がるように課題を設定した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もあるが、今後は、これらの課題の成果を活かし、卒業論文執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価 4.667 回答率 42.9% 科目GPA 3.00
S251042 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	毎回の授業内容への理解を深めるため、各自が感想を持つテーマについて主体的に調べさせ、考えてきたことを学生同士使いやすいうSNSツールを使って、ゼミ以外の時間もゼミ生とのコミュニケーションを取りながら、一人一人が学習面で困っていることに応え、学生生活を少しでも楽しく学習を続けるための意欲を持ってもらえるように、学生に寄り添うことに努めた。	7名のゼミ生のうち、2名が未回答であった。現在は、3年後期に向けて卒論テーマを明確にする重要な時期であり、丁寧に個々の学生に対応することを心がけている。授業評価は4.96と高評価を得たが、全員が満足しているわけではないことも踏まえ、今後も一人ひとりの状況に寄り添いながら、授業改善に努めていきたい。	授業評価 4.96 回答率 71.4% 科目GPA 2.71
S251043 専門ゼミナールⅢ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は4人。2人は日本人学生でおとなしい印象を与える。2人は留学生で中国出身者、そのうち1人は編入生。彼らは決して活発に交流したわけではないが、プレゼンテーションの時間はそつなくこなしていた。なるべくほめて伸ばすことを心がけて授業を運営した。	回答率は100%ではないが、満点の評価を得ることができた。少しでもやる気ができるように、さまざまなテーマ設定をして授業に臨みたいと思う。	授業評価 5.000 回答率 75.0% 科目GPA 2.25
S251044 現代マネジメント講義Ⅰ	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができる。 講義の内容を理解し、講義内容の要点をノートに的確にまとめることができる。 実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とします。	昨年度の受講者よりは受講態度がマンナ傾向も感じられたが、再三の注意にも相変わらず課題が未提出のままの履修学生が多く、全体の成績という意味では下がり気味になってしまった。	各数値的には昨年度より上昇しているものの、回答率は下がっているのどれだけ正確なのかは確信が持てないところである。失格者は昨年度よりも減少しているが、体感的には昨年度よりもC評価が増加しているという認識で、課題提出率が下がり気味という傾向も感じる。如何に課題提出率を上げていくかが課題である。	授業評価 4.637 回答率 46.3% 科目GPA 2.02
S251045 戦略思考Ⅰ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる	スポーツ指導を戦略的な観点から総合的に論じ、思考していく授業を行った。特に「指導下での暴力やハラスメント、ルールとマナー、コーチングであるべき姿とは」など個々で考える設問を多く取り入れて授業を進めた。指導現場で使えるわかりやすい題材を取り入れて進めたことで、活発な議論ができたと思う。	熱心に授業に取り組む学生もいるが、どうしても一部にモチベーションを落とす学生も見られ、納得する授業にはまだまだ及んでいない。なれ合いのディスカッションにならぬよう、都度変化のあるグループ分けや題材の選択にも少し工夫をしてより活発に意見発表ができるよう取り組んでいきたい。	授業評価 4.65 回答率 93.8% 科目GPA 1.74
S251046 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	前期は、MOS試験のエクセル対策を実施した。就職した後にでも役立ち、実力を発揮できるようにするためである。 7月から徐々に学生が試験に挑戦し、合格したと報告を受けている。	授業評価に関しては、回収率を考慮すれば、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度、個別指導の時間は必要であり、工夫したい。オンデマンド授業で動画を作成し、いつでも閲覧できるように工夫した。	授業評価 4.60 回答率 72.7% 科目GPA 3.73
S251047 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。 担当教員ごとの専門科目において必要な戦略思考能力を身につけ、総合的な視点から判断できる能力を培う。	本科目を担当するようになってから、初めて欠席過多含め失格者が一人も出なかった。グループによって雰囲気の良い悪いはあったものの、例年よりも真剣に課題に臨む学生が多かったということだろうか。時にふざけ気味なグループもあったが、その事も含めて楽しく授業を過ごせた学生が多いという印象があった。	回答率が著しく低いのは気になるが、失格者が一人も出なかったことでGPA数値はかなり上昇した。今年度の受講学生は楽しい雰囲気に参加した者が例年以上に多かった感がある。本科目はグループでプランを考えるという趣旨で進めており、その点メンバーに恵まれたとも言えるが、楽しい雰囲気づくりが何より重要ということを認識させられた。	授業評価 4.756 回答率 37.5% 科目GPA 2.96
S251048 戦略思考Ⅰ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	テキストをもとに、企業の決算書から、その企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。 学生が関心をもち、理解が進むよう、学生が日頃利用している企業や認知度の高い企業を選択し、分析を行った。 問いかけを行い、自分なりの意見を提示するよう促すことができたが、他者とコミュニケーションを取りながら課題解決に取り組むことはできなかった。	企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。次年度は、学生同士が自然とコミュニケーションが取れるような場を設けていきたい。	授業評価 4.000 回答率 60.0% 科目GPA 2.30
S251050 経営とソーシャルメディア	ソーシャルメディアの基本を学び、各メディアの特性を知り、企業経営にどのように取り入れていくかを理解することができる。 理解を定着するため、実際にソーシャルメディアの作成及び分析方法も学び社会で役立ちます。	多くの学生がSNSを使っているが、企業として(店)売り上げにつなげることを知っていない。この授業で企業としてのSNSの使用方法が理解でき実践すれば幸いである。	本講義は、ソーシャルメディアが企業と消費者をどう変えるのかを考える、 ↔ 双方向の授業なのでもう少し活発な意見が欲しい。	授業評価 4.213 回答率 50.0% 科目GPA 1.23

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251051 金融リテラシー【開放】	金融経済に関する基礎的な知識を身に付け、生活に必要なお金に関する情報を正しく理解し、判断することができる。 生涯を通じて「お金を自分の味方につけられる」ようにするために必要な金融リテラシーの習得を目的とする。	金融リテラシーの習得を基本目標として、自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2022年）を教科書として、講義形式を基本としながら、学生に問いかけながらわかり易い授業を進めた。 毎授業の感想を出席票に記入させたところ、「授業内容がとてもわかり易い」、「将来ためになる内容」といった記述が多くみられた。	使用した教科書は本学の学生に適合させた自著であり、狙い通り授業ができたと考えている。今後は、よりその時の話題を取り入れることで、学生の興味や知識を増やす工夫を続けていきたい。	授業評価 4.716 回答率 59.4% 科目GPA 3.06
S251052 貿易論	貿易の基礎理論、最低限の専門用語や手続きが理解できるレベルを習得すると同時に、最新の話題や事例を用いて中国をはじめとする新興国市場との貿易活動への理解を深めること。貿易・サービス・資本取引の発展によって国際経済の相互依存の度合いはどのように深化し変化しているのかを考察し、その貿易の発生するメカニズムを把握する。	本授業は、経営学部3年生を対象とした専門科目であり、これまで学習してきた経営の基礎科目を踏まえ、より深く世界およびアジアの経済を理解することを目的とする。 「貿易とは何か」「なぜ貿易が行われるのか」「日本の国際経済における相互依存の深化と変化」などの問いを軸に、貿易の基礎理論、政策、制度的側面を学ぶ。中国を中心とした事例を取り上げながら、海外との商品取引の実態と決済方法の基礎についても理解を深める。授業ではディスカッションを取り入れ、知識の定着と理解を促進した。	昨年度は授業評価・回答率・科目GPAともに高い結果となった。今年度は、経済ニュースで頻繁に取り上げられた話題をトピックとして取り入れたことで、学生の関心を引きやすくなった。今後は、貿易の基礎的な内容の講義回数を増やし、現実の事例を交えながら、理解を深められる授業づくりを工夫していきたい。 貿易は身近な分野である一方で、「難しい」と感じる学生もいるため、授業内での質問や対話を通じて理解度を把握し、わからない点を丁寧に説明することで、より分かりやすい授業を目指していく。	授業評価 4.6 回答率 70% 科目GPA 2.88
S251054 行政法	行政に関連する諸法律に共通する原理や仕組みについて理解し、住民として適切な法的行動をすることができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	行政法にかかわる法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ資料を活用して、論点を絞って検討した。単なる条文の理解ではなく、立法趣旨を確認しながら、民間と行政との違いを明確にして法制度の全体像と意義の把握に努めた。少しでも興味を持ってもらうべく新聞記事など身近な話題を提供して、法律関係の理解に努めた。論点が多岐にわたるため、各分野の基礎内容をその都度確認してから説明するようにした。	理解しやすい具体例を挙げて、広範かつ難解な行政法の分野につき、丁寧に解説を心掛けた。行政法を取り巻く論点の理解を深めるべく、今後でもできるだけ最新の話題や具体例を提供しながら、何度も繰り返し解説をしていきたい。身近な話題を持ち出して理解を深めたい。	授業評価 4.789 回答率 36.7% 科目GPA 2.35
S251055 国際金融論 公教必	国際金融の基礎理論を理解し、為替レートの変動など国際金融に関する新聞記事やニュースを理解できるようになる。 国際金融を体系的に理解できるようになることを目標に、歴史・理論・現実をバランスよく扱う。	自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）を用いて、国際金融を理解するための基本知識をおさえたうえで、『国際金融論をつかむ』（小川英治 有斐閣 2019年）を用いた教材によって、国際収支、外国為替のしくみ、為替決定理論、世界金融危機、世界経済の変化などを扱った。 具体的な事例をとりあげながら、わかり易い授業を心がけたため、毎回の出席票の記述からも、授業内容がよく理解できたとの感想が多くみられた。	授業内容は受講生のレベルに適合した内容であったが、今後はよりその時々話題にあった内容を多く取り入れることで、より学生の興味をひきつけるよう、改善を続けたい。	授業評価 4.729 回答率 50.9% 科目GPA 2.91
S251056 トレーニング演習	①体力の診断と問題解決の方策を助言できる能力を身につけることができる。 ②身体状況と体力的特性に応じて適切な運動プログラムを作成できる。 ③安全で効果的な運動プログラムの実践に必要な知識と技能を身につけることができる。	「スポーツ科学概論」において習得した知識をベースに、エクササイズや、プログラミングの実践を通して、フィットネス・エクササイズの指導者として必要な技能の習得を目標とした。しかし、基礎的な部分は理解されたものの、実践的にはまだまだ経験が必要である。知識と実践のバランスの比率を考えると実践をより多くしていく必要があると考える。	運動部の学生が多く、トレーニングに関しては興味をもって受講していた。演習としてはこれまで実際に体を動かす場面でなかなか乗ってこなかったことがあり、健康志向より腹筋のパンプアップなど美的な面を強調して授業を進めた。しかし、まだまだ充実した授業には追いついておらず、内容をより工夫し、興味・関心を持てるような内容で取り組む必要があると考える。	授業評価 4.81 回答率 71.8% 科目GPA 2.10
S251057 卒業研究Ⅰ	ICT（情報通信技術）を活用した経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身に付けることができる。	9人が受講。力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステム、知の拠点あいち重点研究プロジェクト「多感覚ICTを用いたプレイル予防・回復支援システムの研究開発」で試作した、仮想書道システム、メタパスによる歩行支援システムの3つのシステムを扱い、その研究の背景、問題点、解決手法、効果、未解決の課題などを学習し、卒業論文の書き方を学んだ。後期の卒業研究Ⅱでは、各機能の効果などを定量的に明らかにする実験を行えるようにする。	各講義において、卒業論文を徐々に仕上げていく形でレポート提出してもらい、それにコメントする形式で指導を行った。お互いの研究内容は相互に密接に関係するが、自分以外へのコメントはほとんど聞いていない状態であるので、ちゃんと聞くように指導したい。また、レポートの提出率が低く、自らが進んで研究を進めようという意識が低いので、受け身の姿勢からの脱却できるように指導する必要がある。さらに、定期的なレポート提出だけでなく、いつでも必要なときは、メールなどでも相談に応じると伝えており、時間的に余裕を持って進められるようにすることも重要である。	授業評価 4.000 回答率 44.4% 科目GPA 3.11
S251058 卒業研究Ⅰ	自分で設定したテーマについての研究成果を卒業論文にすることができる。 専門ゼミナール入門、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修したことを卒業論文にまとめるように準備する。	各自が設定したテーマについて個別指導を行った。 また、途中経過について、各自で発表させ、問題点をお互いに指摘するよう促し、改善点について指導した。	今後は、各自のテーマ設定と調査開始がより計画的に進むようスケジュール管理を徹底させていきたい。	授業評価 4.967 回答率 54.5% 科目GPA 3.26
S251059 卒業研究Ⅰ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身に付けることができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力が身につく。	学生は、卒論のタイトル決めもなかなか進まず、就活に力を入れているようだ。3年の後期から卒業研究を実施すべきである。	3年の後期から卒業研究を実施すれば今のままでよい。	授業評価 5.000 回答率 33.3% 科目GPA 2.33
S251060 卒業研究Ⅰ	達成目標 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身に付けることができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営戦略的思考と職業的倫理観を身につけ、社会に出てから活躍できる能力を養うことを目的とする。	事例や先行研究にあたりながら卒論のテーマを絞っていき、各自の報告とフィードバックをメンバー全員で共有した。 その結果として、相互に影響を与え合い、問題意識を高めることができたと考ええる。	卒論執筆の準備段階として、テーマの選定や研究目的、研究方法の絞り方や選定方法について指導を行う。 その上で、卒論テーマに応じて個別に参考文献の紹介や調査方法を提示し、研究倫理と共にテクニカルな指導を段階的に加えるようにしたい。	授業評価 4.87 回答率 90% 科目GPA 3.6

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251061 卒業研究Ⅰ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	今年度の卒業研究は、一昨年度の専門ゼミナールⅢⅣでほとんど課題をこなさず、昨年の専門ゼミナールⅢⅣを再履修で合格した1名の学生のみであった。 幸い、ようやくやる気を出し、それなりに課題に取り組んでくれたため、卒業研究も順調に進めることができた。 1名の受講生であったため、指導にも時間を十分にかけることもできた。	元々は能力的に厳しい学生であったが、卒業の道筋が見え、積極的に取り組んだため、十分な評価を与えることができた。 ただ1名のみの受講生でマンツーマンの指導であったため、他の学生の進捗状況や内容を知る機会がなく、自分基準で進めるしかなかった。最後のプレゼンテーションも同様であった。 卒業研究の進め方の中で、同じゼミ生とのコミュニケーションやグループワークは大切な過程であり、それに関しては不十分な結果となった。	授業評価 5.0 回答率 100% 科目GPA 3.0
S251062 卒業研究Ⅰ	経営学に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営学に関する専門知識を身につけることができることを到達目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を養うことを教育効果としている。	日本人学生3人と留学生2人、留学生の出身国はネパールと中国。多様な個性の持ち主たちだが、卒業研究のテーマを決めようと活発に情報交換を行っている光景をよく目にすることができた。自分もその輪の中に入った。フランクな態度を持って学生たちと接したのがよかったと思う。	回答率は100%にはほど遠いものの、満点の評価を得ることができた。コミュニケーション重視をモットーに学生たちと接するように心がけたいと思う。	授業評価 5.000 回答率 20.0% 科目GPA 2.60
S251063 卒業研究Ⅰ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	昨年度に続き今年度も、4年次前期から卒業論文の作成を開始した。具体的には、卒業論文に含めることが必要な事項を提示し、それに沿って毎週原稿を書き進めるという形式の授業を行った。その成果を前期試験レポートとして提出させたが、今年度も受講生により完成度に大きなばらつきがあった。	次年度も、4年次前期から卒業論文の作成を開始する予定である。卒業論文作成の進捗状況に応じた指示を適宜行う予定である。	授業評価 4.93 回答率 33.3% 科目GPA 2.89
S251064 卒業研究Ⅰ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。財務会計に関する会計基準や会計の役割、業績評価を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルの活用を目的とします。	経営分析に関する論文を作成することに問題提起ができない状態で作成したため、完成しなかった。よって、次年度は、もう少し早めの対策を講じていきたい。	次年度は、定期試験前までに中身を完成するよう徹底指導していきたい。達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価 4.6 回答率 50.0% 科目GPA 4
S251065 卒業研究Ⅰ	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	履修者数は経営学部総合経営学科4年生6名（全員、日本人）であった。前期は、すべて対面授業であったので、毎週の学習内容に従って進めることができた。ゼミ生の中に欠席がちな学生がいたが、毎回の授業をスムーズに進めることができた。また、課題等の提出状況は、締め切り日前に提出する学生が多かった。その結果、6名の学生全員が毎週の学習に取り組み、課題と宿題、および定期レポート試験をウェブ上で提出し、この科目に合格することができた。	6人の履修学生のうち半数の3人しか回答していないので、授業評価はあまりはっきりしないが、このクラスは、履修学生全員が合格した。また、科目GPAが3.167と高かったことは、学生たちの学習に対する姿勢が良かったと言える。一人の脱落者を出さず、全員が高成績で合格したクラスであった。全体として真面目に取り組んだ学生が多かったので、授業自体は大変進めやすかった。	授業評価 4.667 回答率 50.0% 科目GPA 3.167
S251066 卒業研究Ⅰ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	卒業論文の進み具合を、毎回それぞれ確認しながら指導した。ゼミの前半は、全員に共通する労働法の分野の新聞記事や判例を検討し、後半は個別指導を中心とした。とりわけ最新の判例の調べ方や資料収集方法や論文の書き方を指導した。書式は何度も繰り返し確認した。次第に、自分のテーマにつき問題点を把握できるようになったようである。テーマとともに、おおよそ卒業論文の構成は確定してもらった。卒業生の卒業論文を紹介することで、実際の書き方の理解につながった。進捗状況の発表で、完成に向けての進め方を効果的に指導することができたが、進度が遅い学生もいる。	それぞれのテーマにつき、まずは自分のテーマを理解することから始めた。わからないことや疑問に思ったことを気軽に発言あるいは質問させるようにした。その結果、比較的スムーズに卒業論文を実際に書き始めることができることができた。卒業論文の完成に向け、補習を含めて適宜指導していきたい。有益と思われる文献や資料については、随時情報提供を進めていきたい。	授業評価 4.700 回答率 54.5% 科目GPA 3.91
S251067 卒業研究Ⅰ	□ 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 経営学関連の学習の成果として、経営学絡みの分野の範囲内で各自卒論テーマを制定し、卒論作成への準備を進めることを目的とします。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらいます。	3年次の時からそうであったが、今年度は体育会系のゼミ生が多いからか？不真面目な者が多く、このメンバーを相手に卒業論文の指導をしなければならないことを考えるとかなり不安の方が先に立つことが多い。落第者は出なかったものの、ギリギリ合格という者もいたので余談を許さない状況である。	授業評価の数値自体は昨年度より上がっているものの、回答率がかなり下がっているので余り参考にならないと考える。一方で科目GPA数値は昨年度より下がっており、ギリギリで合格した者が数名出たことが影響してしまった。昨年度より不真面目なゼミ生が多いので、如何に卒論に真剣に取り組ませるか、終始尻を叩きながら取り組ませることが後期は必然になりそうである。	授業評価 4.733 回答率 60.0% 科目GPA 2.50
S251068 卒業研究Ⅰ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し説明していくことによって、経営能力を身につけることができる。 財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解すること、また近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解し、マネジメントに必要な専門的スキルを身につけることを目的とします。	ウェブ上の資料の切り貼りで論文を作成しようとするので、論文のストーリーの立て方や、資料収集、文献読解について、丁寧な指導を心がけた。学生のプレゼンテーションをもとに、補足説明を行い、理解を深められるよう努めた。 発表担当者が当日欠席したり、準備していなかったりで、予定通りに学習を進めることができなかった。会計に関心がないにもかかわらず、当ゼミナールに所属したことが原因であろうが、そうした学生の学習意欲を向上させることの難しさを感じた。	ユニバ等を効果的に利用して、添削指導、フィードバック等、きめ細かな指導を図っていききたい。	授業評価 4.800 回答率 80.0% 科目GPA 3.80

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S251069 卒業研究Ⅰ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。	前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と資料分析を行った。そして、収集した資料についてまとめ、発表するための資料作成を行った。後半は、収集した資料をもとに、卒業論文のアウトラインを作成し、執筆を開始した。また、定期的に卒論指導や就職活動の状況確認を行った。 資料収集に苦労する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上していると感じている。	全ての回において対面でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くするように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価 5.000 回答率 40.0% 科目GPA 2.60
S251070 卒業研究Ⅰ	本ゼミは3年次からの2年間を通じて、日中間の文化的差異を深く理解し、中国社会への理解を深める方法を身につけることを目的とする。学生は、自ら選択したテーマについて調査・考察を行い、卒業論文作成に向けた準備を進める。また、ビジネス場面におけるプレゼンテーションに備え、効果的な事前準備の方法を習得する。	卒業論文の作成準備を中心に、学生一人ひとりに対して個別指導を行った。各ゼミ生には、これまでの学習を踏まえて自身の関心に沿ったテーマを選定・設定させ、進捗状況の報告と提出を促した。ゼミ指導以外の時間には、LINEグループ通話を活用してディスカッションを行い、研究を継続できる環境を整えた。ゼミ生一人ひとりに寄り添った、きめ細やかな指導に努めた。	履修者は10名で、うち1名が未回答だった。授業評価は5.00と高い評価を得ており、回答率・科目GPAともに昨年度と比較して向上した。授業では、ゼミ生それぞれの卒業研究の進捗状況や就職活動に合わせた指導を心がけたが、今後はさらに一人ひとりの要望に応えられるよう、より柔軟で丁寧な授業運営に努めていきたい。	授業評価 5.00 回答率 88.9% 科目GPA 2.89
S251071 行政政策	行政権について理解し、国や地方自治体が行う公共政策のうちこれまでの社会政策について正しく認識し、どうあるべきかを判断することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	社会政策の分野を中心に、政策を踏まえた法分野の基礎的内容を扱った。できるだけ、身近な話題から論点を検討できるように工夫した。法については単なる条文の紹介ではなく、立法趣旨を確認しながら、法制度の意義の把握を中心とした。ニュースや新聞記事が身近な話題を活用して、実際の法的問題点にも時間を割いた。4年生対象の授業であり、法学を中心に経済学や経営学との学際的視点も踏まえ、多角的な視野に立つ学習として問題点に対する解決法を検討した。	資料を活用して、空欄を補充しながら進めていく形式にしたところ集中して取り組んでいた。今後も資料を基にわかりやすい具体例を挙げて、広範な行政政策の分野につき論点を絞って丁寧な解説を心掛けていきたい。複雑な社会政策を取り巻く問題について、学習しやすいようにレジュメ及び授業資料を効果的に活用していきたい。	授業評価 4.663 回答率 38.8% 科目GPA 2.67
S251073 国際経済論	貿易について理解し、貿易を通じて世界的な相互依存関係がさらに強まっていること、アジア太平洋地域との一体感がさらに進むことが理解できる。 経営学の基本である経営資源（人、モノ、金、情報）が国際経済の中でどのように活用されているのかを学ぶことで、企業で実際にマネジメントできるようになる。	自著である『はじめての金融リテラシー』（昭和堂 2018年）によって基本的な国際経済の知識をおさえたうえで、『貿易論』（小峰隆夫 日経文庫）を使って、国際貿易がどのような流れで行われており、何が問題となっているのかを授業で取り扱った。具体的な事例をあげてわかりやすく説明することにより、学生の理解はほぼ目標通り進んだと考えている。	扱っている内容が比較的難しいにもかかわらず、学生の評価は高いと考える。今後は、その時々話題をできるだけとりあげることで、学生がより具体的に国際経済を理解し、自分の国政経済観を形成できるように務めていきたいと考える。	授業評価 4.600 回答率 34.8% 科目GPA 2.22

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
G251001 造形理論A	現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。	大学院1年生の選択科目である本授業の内容・方法は、主に衣食住にまつわる生活造形としてのモノを対象に、それら日本の伝統的な生活造形の色、形、素材、使われ方等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、生活造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーション等によって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。毎回、パワーポイントで作成したスライド集を配信し、対面授業でのスライドに基づく説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等はUNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に、理解の定着を図るようにした。授業後の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。	履修者数は32名であり、回答者数は28名となった。回答率は、同学年同学期の「日本の造形A」が一昨年度33.3%(履修者21名)、昨年度61.4%(履修者44名)と比較して、高くなり、改善傾向にある。大学院においては、比較的多い履修者数となったが、スライドによる画像と文字資料を充実させ、常に授業内で履修者の反応を見ながら、留学生に向けては口頭での説明を丁寧に行い、理解の定着を図るようにしたため、評価はおおむね良好であった。基本的には今年度の授業方法の方針を継続していきたい。	授業評価 4.871 回答率 87.5% 科目GPA 3.66
G251004 造形倫理学	「造形行為」のもつ本来的かつ実際の意義を認識し、設計から使用するまでのすべてのプロセスにおいて起こり得るアクシデントや配慮すべき事柄を理解することを目標とする。	大学院2年生の選択科目である本授業は、造形活動を社会の中で遂行する際に起こり得る倫理的諸問題の性質、原因、解決、防止の手立てについて理解し、造形行為において不可欠な2つの倫理的視点である生命倫理および環境倫理の観点から論じ、さらにデザイナーや建築家の職業倫理や研究倫理の考察を通じて、人間の本质につながる造形行為の倫理的問題を究明する内容とする。毎回、パワーポイントで作成した授業資料を配信し、オンデマンド授業でスライドに基づき説明を行った上で課題に取り組み、疑問点等は授業内、UNIPAのQ&Aにて対応する方法をとることで、常に、理解の定着を図るようにした。複数回の課題では、授業内容のまとめや発展的な学習となる内容を心がけ、自らの専門領域に引き寄せて考察できるように工夫した。これらにより、目標に対する相応の教育効果があったと考えられる。	履修者数32名のうち回答者数20名であった。評価は良好であり、学生による授業評価アンケートにおいて、全体においても高評価授業となった。今年度の授業内容および運営方法を継続し、受講生とのコミュニケーションをしっかりと行い、主体的な学びとなるよう充実させていきたい。	授業評価 4.950 回答率 62.5% 科目GPA 3.75
G251006 マネジメント学特別講義	企業が提供するサービスの品質マネジメントについて、とくに通信・ネットワークのユーザが感じる品質、すなわちユーザ体感品質(QoE: Quality of Experience)を取り上げ、その実態と評価方法を学び、具体的な問題について解決するための方策を提案することができるようになります。	11人が受講。オンデマンド講義であり、講義では、マルチメディア通信のサービス品質(QoS: Quality of Service)が複数の階層から構成され、その最上位に最終的なサービスの受け手である人がおり、そのQoSをQoEと呼ぶことを説明した。QoEを高く維持するには、扱うメディアの要求条件を満足するように各階層においてQoS制御を行う必要があることを解説した。毎回の講義内容に関するレポートを提出してもらい、理解度の確認を行いながら講義を進めた。また、定期試験では、講義内容に関する、ジャーナル論文または国際会議論文を読んで、その研究の背景、解決すべき問題点、目的、オリジナリティ、有効性、残された課題などをレポート提出してもらった。これらのレポートの内容から、大学院の講義として、ある程度満足のゆくものができたと考えている。	今回は通信・ネットワークのユーザが感じる品質である、ユーザ体感品質を取り上げたが、今後はもっと幅広い品質マネジメントを扱うようにしていく予定である。	授業評価 4.750 回答率 72.7% 科目GPA 3.36
G251007 マーケティング論 ハイブリッド授業(対面)	達成目標は以下の通り。 1. 競争戦略の基礎理論を理解できる。 2. マーケティングのフレームを事例に適用して理解できる。 3. 企業戦略や事業戦略における課題を理解できる。 理論と実践の両面からマネジメントにアプローチし、経営課題の分析力を身につけることを目的とする。	企業をはじめとする組織がどのように経営を行っているのかについて、マーケティングの枠組みから考察するようにした。企業戦略、事業戦略や競争戦略、企業の社会的責任やサステナビリティについてもアプローチした。	教科書を1章ずつまとめる課題を課し、発表するようにしたが、履修者が全員留学生であり、質疑応答を通して理解促進を図りたい。	授業評価 4.63 回答率 100% 科目GPA 3.5
G251009 インターンシップ	理論的研究ないし知識獲得の成果を社会の要求に対応させること、あるいは実務現場の体験を通して学修成果の会得を確実にすることを目的とします。実務経験を通して、学修成果を社会の現実に関連させる方途を確実に把握することができる。	1名が受講した。公共施設のデザインコンペへの参加、企業での実務現場の体験(インターンシップ)に取り組んだ。いずれも精力的に、熱心な取り組みがみられた。	大学院らしい、実務現場の体験(インターンシップ)のあり方などを検討してゆきたい。	授業評価 5.00 回答率 75.0% 科目GPA
GA25101 設計演習A	省エネや環境負荷低減に配慮した建築や住まいの設計に求められる理論について講述し、これを理解するとともに、ディスカッションや演習を通して実践力を高めることを目的とします。環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができる。	省エネや環境負荷低減に配慮した建築について、各回で異なる小テーマについて調べてもらい、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。学生それぞれが、対象地域や建築用途を定め、省エネ建築の提案を行うことができた。	各回での調べ学習に取り組みやすいよう、テンポのよい展開を工夫してゆきたい。	授業評価 4.8 回収率 30.8% 科目GPA 3.25

GA25103 建築時事	達成目標 1. 日本国内の建築時事はもちろんのこと、海外の建築の動向も含め、近年に話題となっている建築や都市関連の事象における知識を広げること。 2. プレゼンテーションでのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと。 教育効果 情報収集の能力向上を高め、また情報の処理能力を磨くことが求められます。さらに、単に情報を持ち得るだけでなく、その情報を活用し、人に伝える手法を向上させるものとなります。	資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように作り直した。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築の近年の事象に興味を持つように授業内容を工夫した。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わった。	特に授業内容や運絵に問題はないようであった。今後は、さらに適切なアドバイスを与えながら、自分で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価 5 回答率 83.3% 科目GPA 4
GA25104 建築デザイン論	諸理論、事例、実務の実際等についての知識を踏まえ、具体的な計画・設計の指針をいかに導出・適用すればよいか判断する力、つまり計画、設計における主体的、行動的、実践的な探求力、分析力、思考力を育てることを目指す。 建築造形行為の中核となる建築設計の様々な課題と理論を最新の動向・成果の提示を通じて概括し、空間を具体的に計画・設計するための方法の検討を行う。空間的魅力の条件、集客の手法などを含め各種の理論、実務の実際と評価等が主たる関心であり、文献講読や事例の検討も行いながら、21世紀の建築設計論のあり方を展望し、建築家の社会的役割と責任など、建築、都市、社会の関係に関わる諸問題についても論究する。	履修者数12名であった。空間における人の行動から建築設計を考える講義・演習とした。定期試験レポートは、学習した内容から1つのテーマを選択し、調査報告するもの及び建築作品について考える内容とした。テーマ設定から調査方法、報告について指導した。	科目GPAは2024年度の2.880と比較し低かった。授業評価に関しては、昨年度の4.700より低い。これは、昨年度と比較し、回収率は1.5倍増、受講生が1.5倍増になったためであると思われる。レポートのまとめ方・進め方については、より適切なアドバイスを与えながら、テーマに向かって資料収集や調査を行いながら、まとめる力をつけさせるよう工夫したい。	授業評価 4.655 回答率 91.7% 科目GPA 2.750
GA25111 建築学ゼミナールA	建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	専門書など具体的な事例を提示しながら、学生と対話し進めた。 一定の研究成果を達成した。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。	授業評価 5.000 回答率 66.7% 科目GPA 3.33
GA25112 建築学ゼミナールA	目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得する。	修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、研究計画の作成を行った。情報収集と分析を行い、テーマを設定することができた。	日本語が得意でない留学生もいるため、コミュニケーションをとりながら、日本語能力を高め、ディスカッションできる環境を整えていきたい。	授業評価 4.600 回答率 75.0% 科目GPA 3.25
GA25119 建築学ゼミナールC	達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案することができる。	受講生が1人のため、マンツーマンでじっくり指導できた。疑問や研究方法など、しっかりと理解してもらうことができた。	受講生が1人のため、しっかりと理解させながら、問題点を解決してもらえるように指導を行なっていた。	授業評価 5 回答率 100% 科目GPA 4
GA25121 建築学ゼミナールC	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	1名が受講している。テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。	学生の作業ペースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。	授業評価 5.00 回答率 50.0% 科目GPA
GA25124 建築学ゼミナールC	建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	専門書など具体的な事例を提示しながら、学生と対話し進めた。 一定の研究成果を達成した。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。 最終年度のため、次年度は学生の作業スケジュールにより注意を払って進める。	授業評価 5.000 回答率 50.0% 科目GPA 3.00

GA25125 建築学ゼミナールC	目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得する。	早い段階で計画地の設定が決定できたため、スムーズに修士設計が進められた。	今後もスケジュールを前倒して進めるように促していきたい。	授業評価 5.000 回答率 50.0% 科目GPA 3.50
GA25132 建築学ゼミナールD	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	受講生が1人のため、マンツーマンでじっくり指導できた。疑問や研究方法など、しっかり理解してもらうことができた。	受講生が1人のため、しっかりと理解させながら、問題点を解決してもらえるように指導を行なっていきたい。	授業評価 5 回答率 100% 科目GPA 4
GA25137 建築学ゼミナールD	建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	専門書など具体的な事例を提示しながら、学生と対話し進めた。 一定の研究成果を達成した。	授業評価は概ね良いため、内容・表現については大きな変更の必要はないと考える。 最終年度のため、次年度は学生の作業スケジュールにより注意を払って進める。	授業評価 5.000 回答率 50.0% 科目GPA 3.00
GA25138 建築学ゼミナールD	目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得する。	早い段階で計画地の設定が決定できたため、スムーズに修士設計が進められた。	今後もスケジュールを前倒して進めるように促していきたい。	授業評価 5.000 回答率 25.0% 科目GPA 3.50
GA25145 建築学ゼミナールA	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	1名が受講している。テーマに基づき調査研究を行った。資料収集や分析などの作業を丹念に行うことができた。	学生の作業ベースに配慮しながら、研究内容をより深められるようにすすめていきたい。	授業評価 5.00 回答率 50.0% 科目GPA
GD25101 デザイン演習A ブレンド授業（集中）	達成目標 領域の実践的デザイン能力の向上を図りつつ、 ①基本的テーマを迅速・確実に提案する、 ②このために基本的知識・技法を再学習する、 ③より高度な提案に結びつけることができることを達成目標とします。	履修者20名で日本人は1名。各自に自己紹介、研究テーマ、進行状況を発表させたが、日本語の指導が中心になるのは仕方がない。この大学に馴染み、各自の目標に向かった第一歩を踏み出すにあたり本学の大学院が楽しいところであることを感じさせようとした。少しは伝わったと思う。	本学、そして大学院への導入でもあるので、学習習慣（制作、研究）をつけさせたい。	授業評価 4.911 回答率 90 % 科目GPA 2.55
GD25104 視覚デザイン論	様々な視覚デザイン表現を学習します。	中国の大学でも一通り勉強をしてきているが、大学院ということにより深い理解をしてもらうために授業を行なった。	来年度の受講生に合わせて考えていく。	授業評価 4.81 回答率 84.2 % 科目GPA 3.05
GD25105 製品デザイン論	身近な生活の中にこそ重要なデザインテーマがあることを体験的に理解し、ユーザーの生活に基づく新たなデザイン提案能力の向上が目標である。学部では学ばなかったであろう事項を積極的に取り上げ、より専門知識を高めていく。	受講生は中国からの留学生が多かったが、意欲的に課題に取り組み、一定の成果が上がった。完成の喜びを体験することが出来た。出席率も高かった。	留学生に課題違反が多かったので、言葉や板書の伝達手段を見直す。	授業評価 4.957 回答率 77.8% 科目GPA 3.50
GD25106 情報システムデザイン論	情報処理技術を活用する上での基礎知識の獲得	本授業では、学生が自ら考え、手を動かしながら理解を深める構成的学習を重視した。講義では、実際にコンピュータのアプリケーションを操作したり、ソフトウェアをプログラミングする演習を組み合わせ、知識と体験を結びつける構成とした。また、AIやロボット技術の事例を積極的に紹介し、学生が情報技術の社会的意義を実感できるように工夫した。一方、学習に個人差があり、進行のペースを個別に柔軟に対応できるよう、調整する必要がある今後解決すべき課題であると感じた。	授業を欠席した学生へのフォローや、課題を途中までしか解けなかった学生へのフォローなど、個別に進捗を確認する頻度を多くして対応する。	授業評価 4.967 回答率 85.7% 科目GPA 2.43
GD25107 デザイン学ゼミナールA	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自恃の獲得を目標とする。 また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて充分に理解することが目的である。	積極的に学生が調査研究をしたため、レポートは順調に完成した。	受講生は多かったが、積極的なゼミ生であったために順調に進んだ。留学生が多いため、日本語力を向上させる。	授業評価 5.0 回答率 80.0% 科目GPA 3.20

GD25108 デザイン学ゼミナールA	基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	2名履修で、うち1名はなかなかテーマが決まらず苦労した。学部からの進学者でじっくり話し合ってテーマを決定した。もう1名は大変興味深いテーマであったが病気がちであり、指導については物足りなさも感じている。	集中講義であったが、毎週対面で授業を行った。出席率はやや低いと思う。授業資料を豊富に用意した。	授業評価 5.0 回答率 100.0 % 科目GPA 3.0
GD25109 デザイン学ゼミナールA（集中）遠隔授業可能	達成目標 基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	他大学に来ることが楽しくなるよう気を配った。 日本のことをたくさん教えた。 誰かに聞かれたら、ぜひこのゼミへと言いたくなるようになったと思う。	M1の前期は調査や事例研究だと思っているようだ。もっとそのやり方を教えるべきだったと思う。	授業評価 5.000 回答率 87.5 % 科目GPA 3.5
GD25112 デザイン学ゼミナールA集中	基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしています。	特にありません。	授業評価 回答率 0 % 科目GPA 4.0
GD25113 デザイン学ゼミナールA	達成目標 基礎的作業の進め方を学び、研究テーマに関する知識を深め、自らの研究を遂行する意欲と自持を得ることを目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	受講者3名。各自の研究テーマについて進捗状況を報告し、検討を行った。学生同士や教員との意見交換を通じて、モチベーションの向上を図ることを目指した。全員が留学生であるため、途中から中国語で会話する場面が多く見られたが、日本語での会話を促進するよう指導を行なった。研究がスムーズに行えるよう、さらなる指導の強化を図っていきたい。	今後の改善策として、学生が日本語能力を向上できるよう、積極的にコミュニケーションを図る。 また学生が主体的に取り組めるよう、引き続き適切なサポートを提供する。	授業評価 5 回答率 66.7 % 科目GPA 4
GD25123 デザイン時事【教職必修】	達成目標 1. 過去・現在様々なデザインの時事の背景やポイントとなる問題点を理解すること。 2. 自分の意見を交えながらプレゼンテーションでできること。 3. プレゼンテーションを通じて、デザインアイデアを考える手がかりやプロセスを発見すること。	この授業を担当するのも4年目なので、導入実施の方法もコツをつかんだと思う。最初は個人的思い入れだけの発表もあったが徐々に的を得た発見と発表ができるようになってきた。 日本語検定N2で入学した学生は、入学後私としか日本語を話す機会がない。本授業の発表と討論が、最終審査での発表につながっていると思う。	本授業「デザイン事実」は今回で無くなるので改善方法等を記入することは無意味と考える。	授業評価 5.000 回答率 42.9 % 科目GPA 4.000
GD25124 デザイン学ゼミナールC	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握する。	一人一人テーマが異なるが、各々の学生の積極性を引き出すことができた。	特に問題はないが、もう少し日本語力を向上させたい。	授業評価 5.0 回答率 37.5 % 科目GPA 3.80
GD25125 デザイン学ゼミナールC	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	M1の時よりまじめな学生たちだったが、そのままの状態を維持することができた。3人の履修者であり、研究内容がまったく違っていたが、仲良く効率的に授業運営することができたと思う。	集中講義であったが、毎週対面で授業を行った。出席率は高かった。	授業評価 5.0 回答率 100.0 % 科目GPA 4.0
GD25126 デザイン学ゼミナールC（集中）遠隔授業可能	達成目標 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	早々に本制作に取り掛かっていたのだが、調査やアイデア出しで止まっている。また、中国人情報により金山駅周辺に住むものが多く通学に時間がかかるのと夜更かしで遅刻や欠席が目立つ。明確な起源や細かな達成目標を指示すべきだったかもしれない。この授業は主に作品の指導としているので、その進捗状況を可視化すればよかった。	制作の進行状況の可視化	授業評価 5.000 回答率 42.9 % 科目GPA 3.143
GD25129 デザイン学ゼミナールC集中	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしています。	特にありません。	授業評価 5.0 回答率 28.6 % 科目GPA 4.0
GD25130 デザイン学ゼミナールC	達成目標 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	受講者数6名。この授業は、毎回学生が主体的に自分の研究テーマについて発表する形式で実施している。学生同士の討論を通じて、新たな気づきや発見が得られる。また、研究内容をシェアすることで、モチベーションの向上にもつながる。進捗が思わしくない時もあるが、なぜ進まなかったのか、どこに行き詰まっているのかをリアルに話し合うことで、次のステップに進むことができる。	今後の改善策として、指示した内容が正しく理解されていない場合があるため、コミュニケーションの方法に注意を払う必要がある。 また、学生が主体的に取り組めるよう、引き続き適切なサポートを提供する。	授業評価 4.9 回答率 100 % 科目GPA 3.5
GD25142 デザイン学ゼミナールD（集中）遠隔授業可能	達成目標 研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	この授業では主に資料集制作を指導している。定期試験の提出物としているのだが、制作が進まないで資料が出てこないで進行は遅い。また最終審査が遠いせいもありのんびりしていた。年間スケジュールを明確にし、レベルアップにつなげる工夫が必要と感じた。	年間スケジュールを明確にすること。	授業評価 5.000 回答率 42.9 % 科目GPA 3.143
GD25145 デザイン学ゼミナールD集中	研究テーマに基づくデザイン提案を具体的成果に導くためのプロセスの理解とデザイン創出の基盤となる成果を得ることを目標とします。そして、その過程と成果を二次研究報告書にまとめて充分に把握します。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしています。	特にありません。	授業評価 5.0 回答率 28.6 % 科目GPA 4.0

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03108 造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。造形に対する考察は抽象度が高く何がともすると正解が不明瞭になりがちな分野である。これを補うため評点のための評価シートを作成し評価項目ごとに丁寧にコメントを記すことで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。	本科目では学習内容をより効果的に理解し、学習成果を高めるために考察対象の作例を選択することがポイントとなります。ポイントをまとめた授業資料作成の必要を感じています。
03151 デッサン基礎	作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業ではなく、建築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業です。対象再現的な表現ではなく、造形物を構想するためのデッサンと建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。また透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としており、その有効性については受講生からの満足度が得られていると考えます。対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03152 立体造形基礎	・素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 ・発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようにになる。 ・テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 ・今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 ・自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についての指導方法について検討してきました。学習内容は立体構成における造形発想の手法が中心となります。多くの学生はこれまで考えたことも学んだこともない発想法を体験しその活用の仕方を知得することで造形活動に対し前向きに取り組んでいます。	昨年度より毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにしています。学生からはレポートの制作が学習の上でも有意義である、という意見を聞くことができました。これを受けレポート項目をよりきめ細かく設定することで、学生からはレポート作成を通じ日々の学びを整理し理解し、気づきを得られるようにしました。学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03153 デザイン基礎	・素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 ・発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようにになる。 ・テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 ・今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 ・自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。多くの学生ははじめて学ぶ発想法の有効性を実感していると考えます。毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにした。学生からも、文章化することによってその1日の学びを整理し、身につけることができるので良い、という意見を聞くことができました。対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03281 環境造形基礎A	デッサンを学習する目的を理解する。デッサンで使用する用具を理解する。線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。	デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初學者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い。学生の大部分はデッサンの未経験者。自宅に取り組む中で自身の到達度や欠点、不十分な点など理解するのが難しいです。まず基礎課題を提出し学習の理解度や修正ポイントなど指導する。基礎課題に合格した後応用課題に取り組むというように課題提出を二段階に設定して丁寧に指導している。	添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行なっていきたいと考えます。造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。

03282 環境造形基礎B	美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことができる。	デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のままで担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を制作させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具の使い方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じていることについて昨年度述べたが、本年度まだ改訂ができていない状態です。	造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え方や、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。
03283 環境色彩学	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	実際に様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのと同時に作品を鑑賞したり参考にしたたりする場面にも資する有効な学習体験を与えていると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。 評価についても評価項目を細かく設定し評点と同時に教員からの具体的なフィードバックコメントを記載、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン（UNIPA）の使用ルールではそれが自由に行えないため、別の方策を考えざるをえない状況です。ひとつの答えがある学習ではないため多くの事例に触れさせ多様な考え方を身につけさせたいと考えています。
03284 サイン・グラフィックデザイン概論	空間や建築デザインの中でサイン・グラフィックデザインが果たす役割について認識し、グラフィックデザインの基礎知識を習得することを目標とする。中でもフォントやロゴデザインについて理解を深め、ピクトグラムやサインとして、視覚的な情報を効果的に伝える方法について学習する。	レポートの題材として取り上げられるサインデザインやロゴタイプに多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通してサイン・グラフィックデザインへの興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	デザインを論理的に分析することができていない提出物が多いので、取り上げているサインデザインや学生の制作物について、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03287 リサーチ演習	世界遺産や重要文化財に指定されている建築や町を題材に、インターネットでの検索だけでなく、地図や図面などの資料や、地元の図書館などでの文献史料を活用しながら、実際にその建築を訪れ、よく全体の姿から各部位にいたるまで観察し、建物のスケッチや撮影をして、その形態的な特徴や歴史的な変遷を明らかにすることを目標とします。また、その建築に携わる人々からの聞き取りや、簡単な実測が可能であれば、よりリサーチの内容や精度を高めることになります。課題の対象とする建物や、その建物に関連する周囲の環境やディテールについて、調査や観察することで建物を見る目が養われ、さらには建築やデザインへの興味や関心が高まってくれることを期待します。	比較的秀逸なレポートが多かった。出題意図を深く読み解き、丁寧なレポートになっており、第2課題のスケッチも観察眼を養うに十分な描き込みのあるものが多かった。質問対応も十分に行ったためと考えている。	シラバスをしっかりと読まない学生に対しての指導が難しい面もあった。追加の教材の検討を行なっている。
03289 リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。 量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けることができる。 目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	比較的よくできたレポートが多かった。難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指南することができた。	専門性の高い内容となっている為かよくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。補助教材が必要としていたので動画教材を作成し公開した。
03344 卒業研究Ⅰ	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。	授業評価：施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。
03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03344 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中の学びを活かして、その集大成として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	全国で繋いで同時開催する方式にするために発表を動画であらかじめ作成して貰い、当日はその動画を流す方式に変更しているが、受講生との質疑応答がなくなってしまっているため検討の必要性を感じている

03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。図面の表現の仕方、プレゼンの仕方、質疑応答など、最後までこだわるように指導しました。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。オープン教室などの機会を活用してゼミを行なっていますが、遠方の学生もいるため、遠隔ビデオシステム（zoom）などを活用するなどして、学習の機会を提供しました。
03344 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	授業評価：丁寧な指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。ミーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	論文の学生が増えてきており、審査や発表などの方法について今後再検討が必要になってきていると感じる
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。図面の表現の仕方、プレゼンの仕方、質疑応答など、最後までこだわるように指導しました。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。オープン教室などの機会を活用してゼミを行なっていますが、遠方の学生もいるため、遠隔ビデオシステム（zoom）などを活用するなどして、学習の機会を提供しました。
03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	丁寧なヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めております。	学生が造形のアイデアの勘所を理解できるよう、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みます。

03351 建築造形A（面接）	「住まうための空間」をプログラムし、それに基づいて設計を行い、プレゼンテーションでできることの習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。対面授業の学生が減ってきている。	少人数になると指導は行き届くが、他の学生の作品を見ることができなくなることがデメリットとしてある。過去の作品をあまり見せすぎるとそれに影響を受けてしまうため、あまり好ましくないが受講生の数が少ないことを考えると過去の参考作品は見たほうが良いと感じている
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能を果たす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	設計系科目やCAD系科目に入る前の導入として位置付けられているため、建築のデザインや設計に興味を持つように、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。「かたち」がどのようにしてつくられているか、鳥の目線や人の目線など様々な角度から建築を見て感じる楽しさを伝えられるように努めています。2次元のスケッチから入る学生が多く、模型をつくりながら立体で考えるように指導しました。	美しい「かたち」をつくることに難しさを感じる学生も多く、ラフな模型のつくり方を教えて、模型をつくりながら「かたち」を考えるように指導しています。その上で、スケール（縮尺）感も大切な要素であるため、人や動物などの基準になる模型も制作させて、模型を通して実感できるように心掛けています。初期の段階では、たくさんアイディアを出すように促しています。
03354 建築設計Ⅰ-a	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能を果たす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザ	一人一人に丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらうように努めている。受講生に不合格者が居ない。	授業評価：製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの掲示、アイディアを導くディスカッションの増加に努める
03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧に指導を心掛けております。	建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導します。
03354 建築設計Ⅰ-a（面接）	課題を読み解き、空間や造形を模型で表現し、デザインの趣旨をまとめ発表する能力の習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。	小人数の授業だったために1人1人じっくり時間を割いて指導ができた。発表や講評もじっくり行うことができた。学生同士もコミュニケーションをとれており、良い授業ができていた
03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	設計系科目の1つ目であることもあり、設計のプロセスを実感してもらうよう心掛けています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイディアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。設計系の初期段階の科目であるので、図面の表現についてとくに指導しています。	イメージした建築物を具体化するための図面を描く力を身につけてほしいので、設計図の基礎的な作図・表現方法など、伝わる図面の描き方、模型のつくり方を指導しています。図面タイトル、方位や縮尺、室名などの記入を忘れる学生が多く、図面の表現についてはとくに細かく何度も指導しました。

03356 建築設計Ⅱーa	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。 高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をととして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に出向いて指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。	授業評価： 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する
03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	建築を3次元的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CADを用いた検討方法を指導します。
03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	設計系の2つ目の科目であるため、施設の複合化も含めた機能面、構造や設備といった技術面についても理解できるように、身近な施設に置き換えより具体的にイメージできるように指導しています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れていきます。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。複合施設の設計であるため、複合の仕方についての指導をとくに心掛けました。	街中の環境に立地することもあり、周辺景観に調和した建築を考えられるように、エスキス段階からスケッチ、模型、CADなど、多様なツールを活用して検討できるように指導しています。別々の機能をどう複合させるかに悩む学生が多く、複合の仕方や共有空間の作り方にとくに細かく指導しました。
03358 建築設計Ⅲーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	最終成果物には、着色すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。	授業評価： 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。
03358 建築設計Ⅲーa	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱー1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導します。
03363 建築マネジメント概論B	地域の中で建築が果たす役割を理解し、地域の環境を維持形成していくマネジメントを習得することを目標としています。建築物は環境の中に立地し、地域の生活の場や仕事の拠点となります。地域と建築との関係を考え、建築が地域社会の形成や運営に果たす役割に着目し、住環境マネジメント、エリアマネジメントを中心に学習します。	住環境マネジメントやニュータウン（団地）再生をテーマにしたレポート課題では、取り上げる事例が多岐にわたり、建築マネジメントに対する興味関心を喚起できていると感じています。身近な住環境へ目を向けて、地域活動などのソフトも意識できるように、また、「ものづくり」だけでなく、「ことづくり」の視点へも広げることができていると評価しています。	文章だけでなくまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。ニュータウン（団地）再生は様々なところで実践されており、その情報を蓄積するように心掛けました。
03364 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。Zoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。

03365 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。コロナ禍によりZoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数の会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。
03367 構造力学Ⅰ 演習	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 「構造力学Ⅰ」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。	構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。対面授業後は復習用のオンデマンドコンテンツが視聴できるように設定を行っている。対面授業と復習用のオンデマンドコンテンツの両方で学生が理解しやすい授業を今後も工夫していきたい。	授業がとても分かりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるよう復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定している。オンデマンドコンテンツを今後も活かしながら、コンテンツの改善や新規コンテンツ作成も行っていきたい。また質問等は通信科目と同様に通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで丁寧に対応していく。
03371 建築計画Ⅱ	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみで反映し、地域の生活や文化との関りの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価しています。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03376 構造力学Ⅰ	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類を理解から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形についても理解する。	面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03377 構造力学Ⅱ	実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目指す。 不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。	構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03379 設備計画学	到達目標 給排水衛生・防災設備、空調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる	レポートの評価以外に、建築士試験の出題問題を力試しに解けるようにコメントのほうに記載した。	全体的には良くできているので大きな問題はみられないが、まとめずに長いレポートを提出している学生が数名見られた。書籍を読む必要性についてどこかで説明することを検討したい。

03384 建築法規	建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。 わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律に関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。	学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03386 建築デザイン論	近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。	授業評価: レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03388 CAD I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視さ、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03388 CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	近代巨匠の1人の代表的な作品を題材とし、学生が興味を持って取り組めるよう工夫をした。 事前学習として、ペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	市販のテキストは使用せず独自のものを作成している。Eラーニングにて基本操作等が学べるようにしている。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。オンデマンドの際の模型の提出方法を今後3Dスキャンデータにすることで教員のチェックがやりやすくなるので今後提案していきたい。
03388 CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。 事前学習として、お越し給図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	テキストを独自のものを作成しEラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望めます。
03389 CAD II	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03389 CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行き高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で他の学生が提出したレポートを紹介し、情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をEラーニングに用意した。	オンデマンド授業において、2回のエスキスチェックと最終提出の動画のプレゼンでは指導教員の割り振りをこれまでとは変えて学生も指導をうけやすく、非常勤講師も指導しやすいよう変更した。

03389 C A D II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。 事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。 また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。 予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 CAD III	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 C A D III (面接)	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、BIMの操作を学ぶスタイルにより、効率的にBIMの学習に取り組むことができている。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でBIM操作を習得でき、授業後もBIMを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 C A D III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。 与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。 事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。 またCAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD II を受講できずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りも触れていながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03395 防災と建築	建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行えていると評価する。	授業評価：レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	調べたことなどのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03399 都市計画学	おもに20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解することを目標としています。日本および欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習します。	レポート課題では、自分が居住している都市あるいは取り上げたい都市(市、町、区レベル)を選び、都市計画マスタープランなどを参照して、その都市の抱える課題や将来都市像、都市計画制度などについて学習しています。身近な都市を扱うことで、建築を規定する大きな枠組み(都市計画制度)への興味関心が喚起でき、都市計画制度についての理解も深まっていると評価しています。	文章だけでなくまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。学生にとっての身近な都市を扱っているため、昨年度はこちらの情報量が不足しているところもありましたが、1年間を通して蓄積したことで、より詳細なコメントをできるようになりました。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L252001 文章作成法A	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.45 回答率 54.5% 科目GPA 1.45
L252002 文章作成法SD	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価5.00 回答率 40.0% 科目GPA 1.27
L252003 文章作成法B1	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.80 回答率 33.3% 科目GPA 1.50
L252004 文章作成法B2	文章の主旨を的確に読み取り、自分の言葉で要約するとともに、自らの考えを文章表現する力を身に付ける。	授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が課題文を読解し、内容を100字で要約するとともに、さまざまな文や文章の添削に取り組む。教授者は次時までに修正すべき点を朱書きし、返却した上で解説する形で展開した。 これまであまり経験していない文章の要約や文章の添削を通して、文章表現に対する抵抗感の緩和と言葉に対する感受性の醸成に一定程度の影響を与えることが出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.64 回答率 53.3% 科目GPA 1.15
L252006 情報リテラシーⅡ	達成目標 ①データ分析やAIによる社会の変化、データ分析・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを適切に活用することの価値を説明することができる。 ②データを読み解き、他者に説明・表現し、また、データを適切に集計、加工することができる。 ③データ・AIを活用、保有する上で、知っておくべきモラル、倫理、リスク、脅威について理解することができる。	この科目は、本年度から新たに開講された科目である。例年の受講者数が不明な中でのスタートであったが、実際には想定を上回る学生が受講した。授業では、グループワークを多く取り入れた設計としたが、活動を苦手とする学生も見受けられたため、途中から意見交換はオンライン上で行える仕組みを導入するなど、学生の状況に応じた対応を行った。また、知識の定着を促すため、毎回確認テストを実施した。さらに、AIに関する最新の話題や社会的な活用事例も積極的に授業へ取り入れ、学生が身近な問題として理解できるよう工夫した。 授業後の反応からは、AIの仕組みや、今後社会で必要となる知識について「初めて知った」「理解が深まった」といった声も多く見られ、本科目として一定の役割を果たすことができたと感じている。	アンケートでは「どちらとも言えない」と回答する受講生も一定数見られたが、「概ね目標を達成できた」と回答した受講生の方が多かった。次年度は、今年度の授業運営を基盤としつつ、説明方法や資料提示の工夫を行い、よりわかりやすい授業となるよう改善に努めたい。	授業評価4.231 回答率 69.3% 科目GPA 3.177
L252015 情報処理のための基礎数学 A	達成目標 ①線形代数の行列と行列式を理解することができる ②コンピュータを使って、行列計算を解くことができる	本科目は、本年度から新設された科目である。受講者数が事前には予測しにくかったが、想定通りであった。受講生の興味・関心や知識レベルにも幅が見られたため、日常的な話題との関連性を取り入れながら、親しみやすく理解しやすい授業となるよう工夫を行った。 また、毎回確認テストを実施し、受講生の理解度や反応の把握に努めた。全体としては概ね理解が得られていたと考えられる。一方で、応用課題については難易度が高い傾向が見られたため、今後は例題を段階的に解きながら、より丁寧な解説を行うことが有効であると考えている。	アンケートの回答にはばらつきが見られた。授業の進行速度について「適切」と回答する学生がいる一方で、理解が追いついていない学生も見受けられた。確認テストを通じて理解度の把握を行っているが、学生間の理解度や習熟度には一定の差があると感じている。 そのため、理解が不十分な学生に対しては、補習クラスの実施や追加サポートなど、個別にフォローできる体制の必要性を感じた。今後は、確認テストの結果も参考にしながら、理解度に応じた支援方法について検討していきたい。	授業評価4.296 回答率 71.1% 科目GPA 2.257

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
L252017 情報処理のための基礎 数学 B	達成目標 ①線形代数の行列と行列式を理解することができる ②コンピュータを使って、行列計算を解くことができる	本科目は、本年度から新設された科目である。受講者数が事前には予測しにくかったが、若干想定より多かった。受講生の興味・関心や知識レベルにも幅が見られたため、日常的な話題との関連性を取り入れながら、親しみやすく理解しやすい授業となるよう工夫を行った。また、毎回確認テストを実施し、受講生の理解度や反応の把握に努めた。全体としては概ね理解が得られていたと考えられる。一方で、応用課題については難易度が高い傾向が見られたため、今後は例題を段階的に解きながら、より丁寧な解説を行うことが有効であると考えている。	他のクラスと比較して、本クラスのアンケート結果は高い傾向にあった。全クラスで同一の進行・教材を用いて授業を実施したが、本クラスの受講生は授業内容との親和性が比較的高かったものと考えられる。今後は、このクラスで特に反応の良かった話題や興味関心の高かった内容について、より深く掘えるよう工夫し、受講生の理解や学習意欲の向上につなげていきたい。	授業評価4.800 回答率 45.5% 科目GPA 1.868
L252036 キャリアデザインⅡ A	自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。 自分軸に基づくキャリアプランニングができる。 就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる。 □ 企業研究、応募書類作成と模擬面接をより実態に即したかたちで体験し実際の就職活動に応用すること。また卒業後の社会人としてのキャリア形成に必要な知識を身につけることを目的とします。具体的な学習内容として、①企業研究、②企業と自己のマッチング、③応募書類作成（履歴書とエントリーシート）、④模擬面接（個人面接）、⑤社会人基礎力育成⑥就職後の備え（労働条件、社会保険、公的年金など）を含みます。	本年度の学生は大学院進学、教員志望などの要因から、授業中に企業の方の前で寝ている学生が多く、注意をしても態度が変わらなく、とても残念だった。関係がないCADをパソコンで操作している学生も数名いたが、注意をしても「どんなお仕置きがあるのかな」とふざけていて、講師の先生にも同じような態度を示していた。企業様にも対応に個人の意見を述べたり、ご教示いただいている内容に対して反抗したりと、社会への対応力が難しい学生が多く、マナーの授業の不足を感じた。	キャリアデザインを学ぶ意味が理解いただけない学生が多く、態度も悪かった。大学院進学や教員志望に対する説明が不足していたことを反省し、ガイダンスでの授業目標の説明を徹底する必要があると感じた。学生の態度が悪く、授業に参加いただいた企業の方にも不快な思いを指せてしまった事も反省している。	授業評価4.265 回答率 59.7% 科目GPA 3.06
L252037 キャリアデザインⅡ	①自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。 ②自分軸に基づくキャリアプランニングができる。 ③就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる。	前期を振り返りつつ、学生が志望する職種・業界に応じた具体的な進路行動へと結びつけるため、ES作成と模擬面接指導の実施、さらに社会人として求められるマナーや基本的ルールについて復習した。また企業就職の他起業志向の学生、大学院進学や教職を目指す学生に対しても、それぞれの進路に応じた対策を個別に実施し、多様なキャリア選択を支援した。さらに業界研究の一環として、今年度はIT業界での実務経験豊富な外部講師1名による特別講義を実施した。キャリアアファシレーターとの連携も安定しており、前年度と比較してより効果的に指導を展開できたと考えている。	まずアンケート回答率を上げる工夫をする。以前ほどではないが、模擬面接の後半で欠席がやや増えてきた。出席を促すことにしたい。就職・進学対策講座の授業になっているので、そろそろ中身の見直しが必要。	授業評価4.62 回答率 24.3% 科目GPA 2.59
L252039 現代文化論	現代社会における文化の諸相に触れながら、文化と社会との関わりを考察するための基礎的な概念及び視点を獲得する。	毎回の授業では、まず、教授者が作成したワークシートに従って受講者が現代文化に関する様々な課題に関わる文章を読解したうえで、教授者が示した課題に対する意見や感想を、教授者がまとめる。次時の最初に、前時の内容の解説と受講者から出された意見や感想をまとめたものを受講者に示し、さらなる考察を深める形で展開した。受講者から出される意見や感想等から判断し、書物の活字に触れる機会が少ない学生に対して、相当量の文章を読む機会となり、現代文化を考える機会とすることが一定程度出来たと思われる。	受講者に提示する課題文の量と質については、難易度に少しばらつきがあり、改善のための不断の姿勢が必要である。授業形式は、課題文を授業前にあらかじめ読んだうえでワークシートを完成させるよう指示し、授業時間内を全て講義にする形が理想だが、受講生の現状と専門科目とのバランスを考慮する観点から、今後も現行の形を踏襲していく。	授業評価4.67 回答率 47.1% 科目GPA 1.19
Q252006 教職実践演習	①教員としての使命感や愛情をもって、生徒の指導に携わることができる ②適切な生徒理解のもとに、教育環境に配慮し学級経営の見通しを持つことができる ③教科の基礎から発展・活用までを意識して指導することができる	10名の受講者。教育の最新情報と特別支援学校の訪問を行っているが、特別支援学校訪問は一人電車の都合で遅れてしまったが、スクールバスの登校風景を見ることができ実態がよくわかったのではないかと感じた。教頭先生の説明も丁寧で学生も積極的に発問し、学生でなければ気づかぬ視点もあり、よく学習できていると感心させられた。教職の最新情報ではOECDで進められているラーニングコンパス2030が今後の、学習指導要領に強く反映されることを中心に考え、今出されている施策がここに基づくものであることを中心に話した。教職をめざす学生が減少していく中、これが社会人となっても無駄ではない知識として残ることを感じ取って欲しいと願っての内容としてきた。共感してくれた学生たちに感謝している。	今年度をもって退職となる。学生は年々質が向上してきていると感じる。ただ、1名は途中で辞退してしまったが、残った学生は意識も高く、かつ現実としての就職があり、葛藤があったと思われる。社会全体で「生きやすい」環境を整備できるように取組を後任の方に示していたらと願っている。	授業評価5.000 回答率 22.2% 科目GPA -

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
Q252007 特別支援教育	・通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身につけることができるよう支援していくための知識や組織として動くことの大切さを学ぶ。 ・特別支援教育の概要をつかみ、特別な支援の必要な幼児児童生徒に対して必要な障がい理解と指導に必要な「個別的教育支援計画」「自立活動」などについて学ぶ。 ・また、特別支援教育は「チーム学校」として対応するため、組織や連携についても学び、あわせてユニバーサルデザインの大切さも学んでいく。	11名の学生が受講。まだ、2年生であるせいか時間を守ること、提出期限を守ることができていない学生が数名いる。講義の終盤には時間を守って真面目に参加してくれるようになってきた。人生のサイクルを知り、「普通」とは何かを考える中で「特別な支援」とは何かを考えるようにしてきた。自分の当たり前が当たり前ではない子どもたちへの接し方、多様な障がいがあることは伝わったと思われる。毎回の振り返りを通して表現する力も少しは向上してきている。本年度からテキストを変えたが障害理解については少し弱いテキストだと感じた。今年度も目隠し歩行の体験しかできなかったが、当たり前にあるものが急になくなったときの喪失感を感じ取ってもらえたと思う。もう少し話し合いの時間を取っていければと反省している。	自己評価でもあげたが、もう少し、ディスカッションして、グループとしての意見をまとめる練習の時間を取っても良かったと感じている。特別支援教育は他人事ではなく、自分事として子どもの気持ちに寄り添うことがとても大切である。その中で教師のあるべき姿をそれぞれの学生が身につけていってくれる授業の工夫を指定職れば良かったと反省している。新しい担当の方にはこをうまく伝えていっていただければ幸いである。	授業評価5.000 回答率 45.5% 科目GPA-
Q253001 事前・事後指導	教育実習をスムーズに行いことができるように授業事例や指導案の書き方、実習中の姿勢などを事前に学ぶ。実習後の反省に基づき教師という職業の魅力や大変さを再確認する場とする。	後期は教育実習の該当者がいないため、レポート提出者での判断となった。教育実習は学生意識と社会人としての自覚の違いを実感するよい機会となった。教育実習の反省レポートを元に振り返り動画を教職実践演習の元になるように指導した。	お礼文の書き方やレポートの書き方に慣れない面も見られたがまとまった文が書ける学生が多くなった。	授業評価5.000 回答率 20.0% 科目GPA -
U252001 世界の美術 A, 過年度生	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度7年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個人々がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者63人、回答者42人であった。アンケート項目のうち、設問1は平均4.4、設問2は4.1、設問3は4.2、設問4,5は4.3であった。設問2は、シラバスの達成目標に対する達成度を測る内容であることから、達成度の向上に留意したい。授業資料の充実と毎回の課題によって、一定の評価につながるよう配慮したい。できる限り質疑応答や発表の時間を設け、自ら主体的に学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評価 4.262 回答率 66.7% 科目GPA 2.65
U252002 アート表現演習	①モチーフを画材を用いて描写することができる。 ②配色や平面や立体の構成によって感情を表現することができる。 ③計画性をもって作品の制作を遂行することができる。	デザイン教育の基本として、指示されたモチーフ（対象物）を各自が、鉛筆や絵具で画用紙に描写する実習を通し、色や形、材料や技法について段階的に学習できるように複数の課題を設定し、各課題の導入ではデモンストレーションや作例紹介を行い、制作途中では各自の能力に応じた助言を通して、観察力と表現力の向上を促した。	履修者119人、回答者67人であった。一昨年度の評価4.303、昨年度の評価4.406から連続して上昇した。一定の評価を得られたと考える。提出課題に対する効果的なフィードバックにより、教育効果を高められるよう、次年度以降も工夫を重ねたい。	授業評価4.484 回答率 56.3% 科目GPA 2.27
U252004 世界の美術 D, B	① 日本と世界の代表的な美術の様式について知っている。 ② 日本と海外の美術と社会のかかわりについて説明できる。 ③ 美術作品を鑑賞し、評価することができる。	今年度6年目の開講となる共通科目である。授業内容は、世界の美術に関して、絵画や彫刻作品についての識を得ることに加えて、人間の歴史や世界のなかで宗教や政治と密着して重要な機能を果たしてきた美術が各時代や地域に固有な社会的・文化的状況の中で、どのような意味と価値をもっていたのかを考え、美術を通して人間のあり方を学ぶことにある。授業方法は、パワーポイントで作成した高精細な画像と解説をまとめた資料をUNIPAで配信し、個人々がしっかりと主体的に作品を鑑賞し、解説を行い、授業の最後に簡単な課題提出により、集中力を高めるように配慮した。毎回の課題に取り組むことで理解度を深めるようにした。質問等をフィードバックすることで双方向型の学びとなるように配慮した。	履修者80人、回答者46人であった。同じ科目・クラスの評価は、2021年度4.331、2022年度4.271、2023年度4.521、2024年度4.593まで連続して上昇し、今年度も昨年度とほぼ同じ水準となった。継続的な授業改善が奏効したと考えられる。学部の科目では、毎年度受講生の多い科目であるが、学生主体に自ら学び、考える工夫をさらにしていきたい。	授業評価 4.552 回答率 57.5% 科目GPA 2.39

令和7年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D252003 人間中心デザインⅡ	① デザイン領域ごとのひと・もの・ことの捉え方と考え方を知っている；② デザイン領域ごとの人との関係性や問題を捉える手法と解決提案へと展開していくための方法とプロセスを知っている；③ デザイン領域ごとの問題発見、解決策、評価方法について利用者と設計者の両視点からデザインの在り方を述べることができる	オムニバス形式により複数の教員が担当することで、人間中心デザインに関する多様な視点やアプローチを提示し、受講者に各領域の考え方や手法を俯瞰的に理解させるという目的は概ね達成できた。特に、分野ごとの問題発見から解決提案に至るプロセスの違いを比較的意識させることができ、専門領域への導入として一定の教育効果があったと考えられる。一方で、教員ごとに専門分野や内容の難易度が大きく異なるため、受講者の関心や理解度にばらつきが生じやすい点が課題であった。また、欠席時における学習内容の把握や課題遂行が難しく、学修の連続性が損なわれるケースも見受けられた。	オムニバス形式の利点を維持しつつ、学修内容の一貫性を高めるために、各回の講義内容を共通の枠組み（問題発見・手法・提案・評価）に沿って整理し提示する。また、授業全体の見通しを示す導入および振り返りの時間を設け、各回の位置づけを明確化することで理解の連続性を強化する。さらに、講義資料や課題のオンライン共有を徹底し、欠席者でも学修内容を補完できる環境を整備する。受講者の関心の差を軽減するため、各分野を横断する共通テーマを設定し、自らの興味と結び付けて考察できる課題設計を行う。	授業評価 4.52 回答率 40.6% 科目GPA 1.9
D252004 データマイニングⅡ	コンピュータによるデータマイニング・データ分析を実践するため、統計分析や機械学習についての基礎知識を身に付ける。また、実際にプログラミングを行って様々なデータ処理が行えるようになる。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員が担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応、そして専門教員がスライド上に作成した問題をUNIPA>小テストに問題として設定、成績管理等のを主に担当した。以上のことは滞りなく遂行できた。 Python演習ではTAとともに、進め方がわからない者の対応に当たった。	カリキュラム改定でこの科目は閉講となるため、授業改善・対応方法として提示することはない。	授業評価4.27 回答率56.25% 科目GPA 2.06
D252006 AIデザイン基礎	①AIプロダクトを作り出せる。 ②①を用いたサービスを作り出せる。 ③①②の進化の過程をデザインできる。	IT分野の実務家が関与しない唯一の専門科目として、教養としてのAIを語るとどうなるのかを常に考え、文献から学ぶ視点を常に示すよう努めてきた。生成AIの進化は激しく、知識のアップデートをして、ある部分に関しては最新情報を紹介できた。 授業後半はグループによるリサーチとプレゼンテーションを課し、それによって、学生たちはそれぞれがもつAIに関する情報を拡大、思考を深化させられたと思う。生成AIを用いて日本のアニメーションの二次創作動画を作成し、著作権問題を提示したプレゼンテーションはユニークで、活発な議論を生んだ。プレゼンに対する感想・質問が、回を重ねる度に深まっていった点もよかった。	カリキュラム改定でこの科目は閉講となるため、授業改善・対応方法として提示することはない。	授業評価4.73 回答率43.33% 科目GPA 2.23
D252007 システムデザイン基礎	①システムの構成要素である基礎技術（プログラミング言語やデータベース、クラウドサービスの基礎的なしくみ）を理解する ②システムとユーザインタフェース間でやりとりされるデータの種類や構造と基礎的なしくみを理解する ③社会におけるインタラクティブシステムの事例とそのデザインの概要を理解する	基礎科目としての位置づけではあるが、基礎的すぎると内容をすでに理解している学生には物足りなく感じられることや、ほかの科目で既に取り扱っている話題と重複することもありえるため、授業内容の構成が難しい。とくに今年度はスマートデザイン学科以外の学科からの履修者が目立って多く、各学生のバックグラウンドの多様性が広いため、各回で様子を見ながら内容の調整をしていく状況が発生した。事前に用意した講義資料をもとに、実際の授業では個々の学生の状況を見て回り、学生間で演習の進捗に差が開かないように努めた。	基礎科目としての位置づけではあるが、授業内容のバランス調整が求められる。導入部分では幅広い学生が理解しやすい基礎知識を丁寧に解説するいっぽう、そのあとには専門的な応用例を紹介し、それらを踏まえたうえで学生が実際に手を動かして実践的な課題に取り組む時間を設けることなどにより、多様な学生の関心に対応できるような工夫をさらに充実させていくことが有効と考える。	授業評価4.421 回答率 54.3% 科目GPA 1.8
D252008 知能プロダクトプロトタイプⅡ	①情報技術を活用したデザインをプロトタイプングできる ②情報技術を活用したデザインについてプレゼンテーションできる ③プロトタイプの動作テストと改善に必要な情報技術を主体的に学ぶことができる ④情報技術を活用したデザインを評価するためプロトタイプを用いた実験を計画することができる プロトタイプを用いた実験の方法とプロセスを学び、各自のデザインについて概念実証する方法を理解します。 評価に用いるユーザーの視点や指標について検討し、評価、分析する方法を学びます。	次年度の卒業研究に向けたテーマ探求として、受講者が各自の関心に基づきプロトタイプの制作とプレ実験的な検証を行い、その結果を整理して発表することができた点において一定の成果が見られた。特に、動作テストや改善に向けた試行を通じて、情報技術を活用したデザインの具体化と評価プロセスへの理解が進んだ。一方で、課題設定の段階において、倫理的制約への配慮が不足していたり、独自性や差別化の観点が不十分なために方向性を見失う事例も見受けられた。また、評価方法の設計や検証の深さにばらつきがあり、研究としての妥当性に課題が残る結果となった。	課題設定段階での指導を強化し、倫理的妥当性や実現可能性、独自性の観点からテーマを早期に精査するプロセスを導入する。具体的には、初期段階でのレビュー機会を設け、方向性の修正を支援する。また、評価計画の立案を必須とし、プロトタイプ制作と並行して評価指標や検証方法を明確化させることで、実験の質向上を図る。さらに、中間発表や進捗確認を複数回実施し、段階的なフィードバックによって改善を促進する。加えて、優れた事例の共有や比較検討を通じて、独自性と論証力の向上を支援し、卒業研究へとつながる基礎的な研究能力の定着を目指す。	授業評価 5.0 回答率 28.6% 科目GPA 2.0
D252009 カルチャーメディアプロトタイプⅡ	①計画したプロダクトをプロトタイプングする。 ②プロトタイプングしたプロダクトやサービスを実行し設定したカスタマージャーニーを確認する。 ③②で確認した効果をもとに、リデュース (Reduce) ・リユース (Reuse) ・リサイクル (Recycle) に関する提案を行う。	受講生は19名 学生の課題に対する取り組み方は熱心であったが、3Rに関する最終提案物は十分ではなかった。	全体にプロトタイプング力が不足しているので強化する必要がある。	授業評価4.767 回答率 31.6% 科目GPA1.68

令和7年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D252010 人間機械コミュニケーションプロトタイプینگⅡ	人工知能や情報処理の応用技術について広く理解する。また、それらの技術を活用するためのプログラミングの応用能力を身につける。	この科目を履修したのは、情報科学についての基礎知識をある程度持つ学生であったので、予定していた講義・演習を概ね問題なく実施することができた。とは言え、高度な人工知能技術の応用を考えるにはまだまだ学生の知識・技能が不足している。旧カリキュラムではやむを得ない面もあるため、R7年度からの新カリキュラムを履修した学生に期待したい。	教員3名に対して受講者2名という状況であった。デザイン系の旧カリキュラムで入学した学生であり、そもそも情報科学系の演習に興味を持った学生が少なかったようである。今後情報系に興味を持つ学生が増えることを期待したい。	授業評価 - 回答率 - % 科目GPA 2.5
D252011 テラーモードサービスプロトタイプینگⅡ	達成目標 ① I で行った計画を実行し、プロトタイプینگができる。 ② ①でプロトタイプینگしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③ ②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	昨年度の結果を踏まえ、今年度は、課題の難易度を低いものから段階的に高めていくよう、グラデーションを意識した授業設計を行った。その結果、授業初期の段階でつまずく学生は比較的少なく、学習への導入を円滑に進めることができたと考えている。また、学生ごとの理解度に配慮しながら、丁寧な指導を心がけた。	アンケート結果は概ね良好であった。しかし、アンケートの回答率が低く、受講者全体の意見を十分に把握できたとは言えない面もあった。次年度は、授業内で回答時間を確保するなど、より多くの学生から回答を得られるよう働きかけを行い、授業改善に活かしていきたい。	授業評価5.000 回答率 28.6% 科目GPA 3.714
D252012 エンターテインメントプロトタイプینگⅡ	①前期Iで計画したプランの実装を行う。計画したプロダクトをプロトタイプینگする。 ②プロトタイプینگしたプロダクトやサービスを実行し設定したカスタマージャーニーを確認する。 ③ゲーム性を付加するエンハンスを行う。※オーサリングツールによるプロトタイプینگを行う	この授業は卒業研究への橋渡しの性格もあるが、ほとんどの学生に次年度の研究に対するビジョンを持たせ、ゼミ選択も含めた意思決定に至ることができたと思う。一方、本講義の達成目標である検証のプロセスについては十分に扱うことはできなかった。ただし重要性については認識できている学生が多いと思う。	徹底的なヒアリングを行い、各自の問題意識を相互確認し、それをプロトタイプする方法を模索した。学生の情報共有はUNIPAとOnedriveを使用した。授業時間はすべて使いきったと思う。	授業評価4.743 回答率 29.2% 科目GPA 2.75
D252013 マーケットプロトタイプینگⅡ	①前期Iで計画したプランの実装を行い、計画したプロダクトをプロトタイプینگとしてアウトプットできる。 ②プロトタイプینگしたプロダクトやサービスを実行し、設定したカスタマージャーニーを確認できる。 ③プロトタイプینگのユーザビリティや有用性などを分析ができる。	2名で担当する科目。Pythonを使ってITサービスの開発方法の基礎を理解する内容で、授業は情報系専門教員が実質的に担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応を主に担当した。昨年と同じで、教室内でTeamsを使い、教員がPythonのコードを入力する様子をPC画面で共有し、参照できるようにしている。学習内容は基礎的なもので、ゆとりをもって学べたと思う。	次年度は本科目を担当しないため、授業改善・対応方法として記述することはない。	授業評価4.8 回答率 12.5% 科目GPA 3.81
D252014 こころのデザイン学	視覚を通して知ること気づくこと考えること、そのきっかけにする授業。	前年の授業内容を更新してより良い授業に変化させています。	このまま授業内容を更新し続けます。	授業評価4.633 回答率 27.3% 科目GPA 3.09
D252015 デザインマネジメント論	①デザインによって付加価値が付与される事象を理解できる。 ②マーケティングやブランディングを適切に行う方法を知っている。 ③自己及び第三者のアイデアのプロダクト化のプロセスを理解している。	2名で担当する科目。授業計画とスライド作成は情報系専門教員が担当、私は課題提出状況の記録、出欠管理と学生からの質問への対応を主に担当した。昨年とはほぼ同じ内容と構成であり、前半はデジタルマネジメントの考え方（デジタル社会、DX、ツールの長所・短所等）について学び、後半はWebフロントエンド開発およびWebバックエンド開発を実際に体験させるものであった。	カリキュラム改定でこの科目は閉講となるため、授業改善・対応方法として提示することはない。	授業評価4.56 回答率18.51% 科目GPA 2.14
D252017 映像視覚表現論	①映像を成立させるメカニズムと映像作成のプロセスを知っている。 ②有効な映像コンテンツを設計する方法を知っている。 ③社会や文化の視点から映像コンテンツを評価することができる	映像についての専門的な授業であるが、学生の興味は個人差が大きかった。初心者対象としながらも、マニアックな部分、スマートデザイン的なテーマを盛り込んだ。映像生成の技術は年々進歩しているため、扱う題材はさらに検討する必要があると思う。生成AI作成の画像については進歩の速度も速く、急速に普及しているため、倫理面も含め今後の対応を検討したい。	スマートデザイン学科の嗜好に合った題材を集めるようにしたいと考えている。シナリオ解説の題材は「最強のふたり」を選んだが、フランス映画独特の演出は禁煙にはないもので、担当者にとっては刺激的な者であった。	授業評価4.600 回答率 21.7% 科目GPA 2.34
D252019 卒業研究Ⅱ	①「卒業研究Ⅰ」で行った計画を実行し、プロトタイプینگができる。 ②①でプロトタイプینگしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	すべての学生が予定のスケジュールで研究を進め、発表をすることができた。1名が最終発表で再提出となったが、何とか本人の粘りで再度提出することができた。留学生の中にはスケジュールを正しく理解できていないものがいたが、ほかの学生の協力を得て発表を行うことができた。	卒業研究Ⅰで積み重ねた成果をもとに、最終発表まですべての学生が遂行できるよう個別指導を行った。再提出の学生については連日遠隔指導をおこなった。	授業評価4.125 回答率 48.5% 科目GPA 2.9
D252020 卒業研究II	設定したテーマ、目標を完結できる計画性と能力を養うことが目的です。 ①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイプینگができる。 ②①でプロトタイプینگしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。	受講生は7名 学生に十分な発想力、表現技術力が発揮できていなかった。	発想力、表現技術力とも十分でないため、全体にレベルの向上が必要である。	授業評価 - 回答率 - % 科目GPA3.0

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D252021 卒業研究Ⅱ	① 卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイピングができる。 ② ①でプロトタイピングしたプロダクトおよびサービスをモニターを用いてモニタリングを行うことができる。 ③ ②によりモニタリングした結果を用いて計画をエンハンスすることができる。 卒業研究Ⅰで進めた成果をもとにより完成度の高いプロトタイプと、エビデンスの実効性を高めることを目的とします。	スマートデザイン学科の卒業研究指導は4年目となり、これまで最多の7人の論文指導を担当した。毎週全員が進捗状況を発表し、それに対してコメントする形で進めたが、学期半ば以降は7人の差が大きく表れた。就職先がなかなか決まらない者、不登校状態の者、文章読解力が目立って劣る者もあり、指導に苦慮した。とはいえ全員が互いの研究テーマを知っており、優秀な学生が遅れている者を助ける雰囲気醸成され、ゼミとしてのまとまりがあった点はよかった。	学生のペースを尊重し過ぎず、期限を決めて確実に作業を進めていく、しっかりしたタイムマネジメントが必要。就活状況や体調を見ながら進めていく。	授業評価4.2 回答率28.57% 科目GPA 2.71
D252022 卒業研究Ⅱ	達成目標 ①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、研究成果を発表することができる。 ②実験結果を分析し考察を行うことができる。 ③実験と考察結果から改善点を明らかにすることができる。	本授業では、受講生一人ひとりの研究進捗に応じた個別指導を徹底し、研究の質の向上を図った。また、対外発表や課外活動への参加を積極的に取り入れることで、研究成果の発信機会を確保し、研究の加速を促した。 その結果、受講生の自発的な取り組み姿勢が一層高まり、全体として円滑かつ良好な授業運営となった。	アンケートの回答率が低く、受講者の意見を十分に把握するには至らなかった。次年度は、授業内に回答時間を確保するなど、より多くの学生から回答を得られるよう工夫し、その結果を授業改善に活用していきたい。なお、日常の授業においては受講生の理解度も概ね良好であり、自発的に取り組む様子も見られたことから、授業内容および進捗は概ね適切であったと判断している。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 4.000
D252023 卒業研究Ⅱ	「卒業研究Ⅰ」で得られた成果をもとに、研究の質をさらに高めるための手法の提案、実装、評価までを行い、研究発表を実施する。また、一連の研究内容を卒業論文としてまとめる。	共同研究先の他大学学生や本学の大学院生も交えて合同のゼミを実施した。これらの学生が親身になって当該学生をサポートしてくれたこともあり、ある程度本格的な研究らしい研究が実施できたと考えている。ただ、就活の遅れで研究着手が遅くなり、結果として対外発表までは実施できなかったのが残念だった。	卒業までに対外発表ができるレベルの研究を実施できるよう、もう少し早い時期での研究着手を促したい。	授業評価5.0 回答率 100% 科目GPA 3.0
D252026 卒業研究Ⅱ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、プロトタイプの制作ができる。 ②作成したプロトタイプのプロダクトやサービスについて、モニターを用いたモニタリングを行うことができる。 ③モニタリングの結果を基に、計画の改善・強化を行うことができる。	受講者は7名。学生は毎回の授業で進捗状況を報告しながら課題に取り組んだ。制作が始まると、授業時間外での対応が必要となる場面も多く、SNSを活用して個別にサポートを行った。制作における進行状況や課題への向き合い方には個人差が大きく、一人で判断が難しい学生や、作業に時間がかかる学生など、それぞれに異なる課題が見られたため、個々の状況に応じた対応に苦慮する場面もあった。	改善策としては、各学生の状況に応じたきめ細やかな対応を行う。大学に来られない学生に対しては指導が難しいが、SNSを活用して状況を把握し、作業の遅れが生じないようにサポートを継続していく。	授業評価 - 回答率 -% 科目GPA2.86
D252027 卒業研究Ⅱ	①卒業研究Ⅰで行った計画を実行し、研究成果を発表することができる。 ②実験結果を分析し考察を行うことができる。 ③実験と考察結果から改善点を明らかにすることができる。 情報技術を活用したデザインの研究をまとめ、現在および未来の社会に対応できるデザイナーとしての素養を示すことを目的とします。	制作に留まらず成果の効果を評価し、分析・考察まで行うことを重視した結果、受講者は制作内容とその検証結果を一体的にまとめることができ、研究としての一定の到達度に達していた。一方で、提案手法の検討に遅れが生じた受講者も見られ、その影響により評価設計や検証プロセスが十分に精緻化されず、手法の妥当性を十分に検証しきれないケースがあった。また、評価指標の設定や比較対象の明確化が不十分な例もあり、論証の説得力にばらつきが見られた。	提案手法の検討遅れを防ぐため、研究計画段階で評価方法や検証方針まで明確化することを必須とし、早期に妥当性を確認する指導を徹底する。また、研究の進行を段階的に管理し、中間発表やレビュー機会を複数回設けることで、手法選定・評価設計・分析の各段階において継続的なフィードバックを行う。さらに、評価指標の設定方法や比較検証の考え方について具体例を示し、客観的根拠に基づく考察力の向上を図る。	授業評価 - 回答率 -% 科目GPA 2.0
D252028 卒業研究Ⅱ	①本人にとって4年間の集大成として満足ができる。 ②本学科の卒業研究としてふさわしい制作をする。 ③②を形にするための技法・材料を使いこなす。	この年の4人は、第3希望までに私の研究室を希望していなかった。他の研究室から人数制限のため回されてきたものばかりで、研究テーマはファッションアプリやアニメキャラクターの聖地巡礼など私に指導できないものだった。テーマを変更してもらったが、もとより美術やデザインの勉強をしたことのない彼らを卒業に導くのは大変だった。しかし「不合格にならない指導」を目標とし、無事卒業させることができた。教え方はなかったガセ金印は果たせたと思う。	学生の卒業研究テーマと研究室の指導内容の不一致は避けたほうがいいと思う。私の研究内容や過去の事例は紹介しているのだから、研究室の、学生の研究室希望は尊重すべきだと思う。どうしても仕方がなければ、「不合格にならない指導」をするしかないが。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 2.4
D252029 卒業研究Ⅱ	学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価4.267 回答率 42.9% 科目GPA 3.14
D252030 AI研究専門ゼミナールⅡ	①情報技術を活用したデザイン研究の方法とプロセスを理解し実践できるようにする。 ②実験と評価に基づいた課題発見と改善提案ができるようになる。 ③デザイン研究の記録や概要、成果発表ができるようになる。 機械学習、データ分析、センサー情報処理、ユーザーインターフェース等の技術を活用した研究開発を実施するため、担当教員の研究専門分野を中心に基本技術の学習を行います。また、各自が関連先行研究の文献調査を行うと共に、プログラミングによる実装といった研究基礎能力も身につけます。先行研究調査結果のプレゼンテーションと議論を通して各学生が自分の研究課題を見つけられるようにします。	卒業研究Ⅱと連動しながら、先行研究の調査・整理および発表を繰り返し実施し、各自の研究課題の明確化と研究の進展を支援した。回を重ねるごとに、調査対象の焦点化や発表内容の構造化が進み、研究としての体裁が整っていく様子が見られた点は成果である。一方で、提案手法の検討が遅れることで評価設計や検証の精緻化が不十分となり、手法の妥当性を十分に検討しきれないケースが見受けられた。また、先行研究と自身の研究との関係付けについても深さに差があり、論証力のばらつきが課題として残った。	卒業研究Ⅱとの連動をより強化し、研究初期段階から提案手法と評価方法を一体的に設計する指導を徹底する。特に、先行研究調査の段階で比較対象や評価指標を意識させ、手法の妥当性を早期に検討させる構成とする。また、研究進捗を段階的に管理し、中間発表やレビュー機会を複数回設けることで、手法選定・実装・評価の各段階において継続的なフィードバックを行う。さらに、良い研究例や評価設計の具体例を提示し、論証の質を高める指導を強化する。	授業評価 5.0 回答率 16.7% 科目GPA 2.2

令和7年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D252031 ICT研究専門ゼミナールⅡ	現行授業の目標： ①DXとICTの関係を現実的課題を考察することが出来る。 ②大容量高速ICTにより実現されるスマートライフに向けたソリューションを知っている。 教育効果： デジタル社会の実現に向け、「IT技術を使ってどのように人々の暮らしを豊かにしていくか」という活用方法を考え、実践します。	学生は、先行研究の調査、各自の研究・制作のテーマの設定、およびその研究・制作を担当者や受講者相互のディスカッションによって進行了しました。履修者は具体的な研究開発を行うことによって、デザインスキルを獲得することに役立ったと感じています。	学生の成長を感じられた。また、十分高い評価も得られており、現在のやり方を続けたい。	授業評価5.0 回答率 40.0% 科目GPA -
D252032 デザインビジネス研究 専門ゼミナールⅡ	社会課題の解決に向けたプロダクトデザインの研究および提案を行い、実社会でのデザインの価値創出を目指すことを目的とする。 Web3時代を具体的に推進するデザインビジネスパーソンや教育・研究機関の有識者など社会に影響を与える人（KOL：キョーオピニオンリーダー）へのインタビュー調査を実施し、社会実装に向けた要素を理解する。 世界で進むWeb3時代のデザインビジネスについて調査を行い、将来的に普及が見込まれるデザインビジネスの可能性を自身の言葉で説明し、情報発信やプレゼンテーションができることを目指す。	受講生は16名。学生に十分な発想力、表現技術力が発揮できていなかった。	発想力、表現技術力とも十分でない中で、他の演習と連携して全体のレベルの向上が必要である。	授業評価 - 回答率 0% 科目GPA3.0
D252033 メディア研究専門ゼミナールⅡ	①社会から支持されるメディアコンテンツを立案し、説明することができる。 ②立案したメディアコンテンツを作成することができる。 ③立案したメディアコンテンツを発信する方法を知っている	すべての学生を卒業研究遂行について、完遂することができた。Ⅱでは学生各自のプレゼン方法を早い段階で決定し、個別に指導することができたと思う。半面、受講生の中には卒業研究遂行にあたり、一時的に方向性を見失いそうになるものもいた。個々の学生への対応法補は改善の余地がある。担当教員の情報共有についても一部うまくいかないところもあった。	学生の情報共有はUNIPAを、教員の情報共有はサイボウズを使用した。ポスター発表者については、大型プリンターの使用法、会場設営の方法を実地に指導した。口頭発表者についてはリハーサルを行った。	授業評価4.325 回答率 28.6% 科目GPA 2.57
D252034 プログラミング基礎	プログラミング的思考について理解できる、問題に対する解法を発想できる。プログラミング言語を用いて、問題に対する解法の実装と出力の評価を行うことができる。 プログラミングを自らの発想で改変し、別の問題に発展させることができる。 プログラミングの基礎として必要な知識とスキルを習得することを目的とします。	Pythonを用いた基礎教材を整備し、プログラミング的思考から実装・評価までの流れを段階的に学べる環境を構築した時点で一定の教育効果が認められる。多くの受講者が基本的な文法理解や問題解決の手順を習得し、簡単な応用にも発展できるようになった。一方で、習得した知識や技能を定着させるためには授業外での反復が不可欠であるが、教材作成の制約により課題量が十分でなかった可能性がある。また、初期段階で苦手意識を持つ受講者に対する支援が十分とは言えず、理解の停滞や学習意欲の低下が見られた点が課題である。	学習内容の定着を図るため、授業外で取り組める演習課題を充実させ、段階的に難易度を上げる構成を整備する。また、自動採点やサンプル解答を活用し、自己学習を支援する環境を整える。さらに、苦手意識を持つ受講者への対応として、初期段階でのつまづきを把握する確認課題や補助教材を導入し、理解度に応じたフォローを行う。加えて、実践的な課題設定により学習内容と応用の結び付きを強化し、主体的な学習意欲を促進する。これらにより、基礎力の確実な定着と個々の習熟度に応じた学習支援の充実を図る。	授業評価 4.05 回答率 50% 科目GPA 2.2
D252035 情報処理基礎Ⅱ	① 情報処理機器では情報がどのように表現されているか理解することができる。 ② アナログ情報をデジタル情報に変換する方法を理解することができる。 情報処理機器の仕組みを理解するために必要な基礎知識を理解できるようになることを目的とします。	前期の情報処理基礎Ⅰの復習も行いながら、情報の基礎理論や表現方法、アナログ・デジタル変換といった基礎概念の理解を目的とし、講義と演習を通して一定の理解促進が見られた。一方で、受講者のバックグラウンドの違いにより理解度に大きな差が生じ、特に計算問題・概念理解・知識確認の各領域で得意不得意の偏りが見られた。継続的に復習を行った受講者は安定した成果を示したが、理解が難しい段階で学習を継続できず、結果として成績が低迷する受講者も見受けられた。また、基礎内容であるがゆえに学習意欲の維持にも課題があり、学習の定着度にばらつきが生じた点が課題である。	受講者間の理解度の差に対応するため、基礎的内容の段階的提示と反復学習を強化する。具体的には、講義内容を小さな単元に分割し、確認問題や演習をこまめに実施することで理解の定着を図る。また、計算問題・概念理解・知識確認の各領域に対応した多様な課題を設定し、バランスよく学習できるようにする。さらに、理解が不十分な受講者に対しては補助教材や解説資料を提供し、復習しやすい環境を整備する。	授業評価 4.2 回答率 50% 科目GPA 1.13
D252036 デザイン基礎Ⅱ	デザインを行うプロセスの基礎を情報、ビジュアルデザインの分野を中心に理解することができる。 情報、ビジュアルデザインにおける文字、デジタルデザインの基礎を理解することができます。 デザインを説得力を持って発表するプレゼンテーションについて理解することができます。	今年度から始まる科目であり、デザイン演習の授業でもあるので、担当者がそれまで実施していた初年度の授業をもとに、新たな授業構成を行った。その分不慣れな部分もいくつかあったと思う。各ステップの時間配分については再検討したいが、内容は管理切り詰めているのでこれ以上減らしたくはない。	デザインの基礎についてではそれぞれの担当者の講義内容に基づき講義を行った。制作の各ステップでプレゼンテーションを行い、学生がメモをとれるようにした。本年度からWindows10が使用できなくなるので可能な学生についてはBYODを推奨したが、難しい学生にはLinuxによるOSを使用した。これらのインストールや使用については特に問題は発生しなかった。	授業評価4.125 回答率 48.5% 科目GPA 2.24

令和7年度後期スマートデザイン学科・デザイン学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
D252037 デザインとアート	①「デザイン」と「アート」の定義は歴史の変遷のなかで変化する。その変化を理解し、定義のアップデートを行うとともに、両者の違いを説明できる。 ②産業革命から現代に至るモダンデザインの発展過程と社会的役割を理解し、基本的な流れを説明できる。 ③アートとデザインが果たしてきた社会的役割について理解し、デジタル情報技術が高度に進化した現在、アートとデザインが担う役割について自身の考えを語るができる。	今年度からスタートした新科目で、教員2名で担当した。前半はスライドを用いた教員による講義、後半はグループワーク（それぞれ選んだテーマについてリサーチし、考察したことをプレゼンする）とした。建築学科の学生も数名受講しており、まだ1年生とはいえプレゼン内容にそれぞれの専門性が出て、相互に刺激を与えあっていた点はよかった。デザイン全般に関する講義を担当したが、特に目標②のために十分な情報提供ができなかった点が反省点である。	授業全体の構成については概ね適切であるが、自身が担当するデザイン関連の講義内容を見直し、学生の理解の深化と主体的な学修を促進したい。またグループによるプレゼンテーションについてはレベルアップを求めたい。今回は発表すればとりあえず良しとし、質を問うことは敢えてしなかった。次年度は、求めるレベルを事前に具体的に示し、リサーチの質および深度の向上を意図した指導を行う。	授業評価4.28 回答率57.57% 科目GPA 1.90
D252038 デッサン演習	ある程度のデッサン力を身につけるには、真剣に取り組んで3年はかかると思います。しかし、従来の描写を通しての学習でなくとも様々な制作経験からデッサン力を身につけることは可能です。本授業ではデッサンの意義を理解し、その取り組み姿勢を学ことで、その後の観察や制作の体験からデッサン力を身につけるきっかけをつかむことが目標です。	実技の授業が初めての者たちだったのでその受講姿勢からの指導であった。他の授業に違い自主的な政策をしたことがない者たちに手を動かすかよう促すことは大変だったが、徐々に受講の仕方というか、学習のコツを掴んで行ったようだ。中に3人ほど取り組み姿勢のいい者がおり、全体へのいい影響は大きかった。授業目的に合わせて3課題を切り口の違うレパートリーとしたこともよかったと思う。成績上位二人はもちろんだが成績「B」の者たちが、「いい体験ができた」と言っていたのには体験レベルの低さを感じた。	最初の頃に取り組み姿勢の良かった者が途中でこなくなったのと、成績トップの者が最終公表を欠席したのは残念だ。第1課題での学習内容を徹底するために全4課題とし、底辺層のすくい上げをすべきだと考えている。	授業評価 4.3 回答率 66.7% 科目GPA 2.222

令和7年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
A252001 力学入門	基本的な静定構造物（片持ち梁、単純梁、静定ラーメン構造物、静定トラス構造物など）の反力と応力（軸力、せん断力、モーメント）を算定することができる。	教科書やプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習を複数回行った。演習問題の実施と解説を毎回の授業で実施しており、必要なレベルに達していない場合は再提出を求めた。結果として十分な学習到達度を達成させることができた学生もみられた。	授業課題や定期試験を見直した結果、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が緩和された。	授業評価4.329 回答率 75.0% 科目GPA2.18
A252002 住宅プランニング	住宅建築（主に戸建て住宅）の計画に関した専門用語を理解することができる。住宅建築のプランニングがどのようなか理解することができる。住宅建築のオーソドックスなプランを読み書きすることができる。	当該学年の担当科目は本講義が最初となるため、学生層や特徴を把握しつつ、授業内容を調整するのに、毎年試行錯誤することになる。教科書に完全準拠することで、予習・復習がしやすくなるよう配慮し、また、毎回これまでの内容の振り返りドリルを授業冒頭に行うように工夫した。これにより学習内容の定着度を再確認できるようになった。	講義内容からしても事例を通じた理解・学習は必須となるため、学生が意識を持続させられるようさらに授業資料、課題内容を再編していきたい。大半の学生が開けていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価4.343 回答率 75.4% 科目GPA1.93
A252003 基礎製図Ⅱ	建築の初学者が住宅や小店舗といった身近な事例の計画・設計を通して、建築を設計・製図することの楽しさを知り興味を深めることを目的としています。これにより2年次から本格化する建築設計や、さらには建築について学ぶこと自体へスムーズに移行できることを企図しています。	作図、模型制作を通して演習形式で、建築設計の基礎的知識・技術習得のための演習を行なった。一人一人に個別指導の時間を設け、丁寧に指導をした。	授業評価4.352と一定の評価を得ているため、授業内容・方法は維持しつつも、GPAが低いいため、授業への取り組みがうまくできていない学生のケアを行う。	授業評価4.352 回答率 66.7% 科目GPA 2.05
A252004 インテリアエレメント	インテリアを設計するために必要となる基本的な事項について学習するとともに、人の生活におけるインテリア空間の重要性や計画の方法について学びます。インテリアを設計するために必要となるエレメントについて基本的知識を得ることができ、且つそれらの特徴や効果も把握した上で、インテリア空間を評価することができようになることを目標とします。	インテリアを設計するために必要なインテリアエレメントを項目毎に比較しながら紹介・説明した。それらの知識を使って、インテリアメーカーやマテリアル、インテリアエレメントが使用された特徴的な空間のリサーチなどを通して、知識の実践と行った。	授業評価4.414と一定の評価を得ているため、授業内容・方法は維持しつつも、座学としての知識だけでなく、学生がインテリアエレメントを実際に体験できるように、より実践的に授業を進める。	授業評価4.414 回答率70% 科目GPA2.78
A252005 建築ものづくり広場	目標 建築や生活をものづくりの視点から見つめなおし、空間づくりに求められるアイテムを構想して製作を行います。自由な着想からこれを展開させる力を身に付け、機材を用いて制作を行うプロセスについて体験的に理解します。 教育効果 自らのものづくりを行うためにどのような、技術、道具があるのかについて理解できる。自由な発想で、ものづくりを行うことができる。ものづくりを行う上での安全配慮について理解できる。	2グループに分かれ、木工「組立式スツールの制作」と、左官「アートパネルの制作」の2課題を行った。木工の課題では、強度、機能、座りやすさ、美しさがそれぞれ成立するつくりや形態について考えることができた。また左官の課題では、自由な発想を様々な素材と道具で表現することができた。	スツール、アートパネルともに、こだわりの感じられる力作が多く、作品の質が向上した。その一方で、授業時間外での作業が増えてしまった。今後は、スケジュール管理への意識も高めていきたい。	授業評価 4.588 回答率 84.2% 科目GPA 2.05
A252006 三河のまちとモノづくり	三河地域を「モノづくり」「まちづくり」という切り口で学習・理解し、ものづくり産業・まちづくりに対する具体的な取り組みを試みることを目的とします。大学の地元である岡崎市を中心とした、三河の地域活性化に関するものづくり産業・まちづくりの具体的戦略について学びます。三河地域のまちの歴史と三河の地域活性化に対する、モノづくり産業の現況を理解し、三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できることを目指します。□	受講者数は57名であった。 授業では、第1回から第10回まで講義を実施し、第11回・第12回でグループごとにテーマを設定して発表資料を作成した。その後、第13回・第14回に発表会を実施した。なお、グループのメンバー構成は学生同士の話し合いにより決定した。 本授業は昨年度まで共通科目として開講されていたため、履修者には他学科の学生や過年度生も含まれていた。発表グループは全16グループで構成され、そのうち2グループは他学科の学生によるグループであった。 他学科学生や過年度生とともに学ぶ機会を通じて、建築学科1年生は多様な視点や考え方に触れることができたと考えられる。また、グループワークにおいて教員が適切な助言や指導を行ったことも、学習成果の向上に寄与したものと考えられる。多様な学生同士の交流を促進することで、学生の主体的な学びや視野の拡大につながったものと考えられる。	本授業は、昨年度まで開講されていた共通科目「三河のまちづくりと観光」の読替科目として、今年度初めて開講した科目である。昨年度の「三河のまちづくりと観光」は教員2名で対応し、受講者数は33名で、授業評価アンケートの回収率は54.2%、総合評価は4.278であった。受講者数および回収率を踏まえると、2025年度の授業に対する学生の満足度は概ね高く、授業目標もおおむね達成できたものと考えられる。 今後、達成目標に関する評価をさらに高めるためには、グループワークにおける教員の関わり方が重要であると考えられる。学生の興味・関心に応じた助言や支援を行うなど、より主体的な学びを促すための工夫を継続していきたい。	授業評価4.125 回答率 70.2% 科目GPA 2.23
A252007 建築構造のしくみ	建築物の構造システム・材料種別を理解できる。 各種構造物の構造計画の手順を理解し、構造設計ができる。	スライドやプリントを用いて考え方や問題の解き方を教授し、講義内容に関連する演習と併せて問題の解説を行った。学生との質疑応答を授業内で実施することに学生の疑問等を極力低減することができたと思われる。	学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題や定期試験を含めてこの点を見直す必要がある。	授業評価4.476 回答率 58.7% 科目GPA2.51
A252008 建築施工	1. 建築物の構築に関わる人について知る 2. 各種の工法の特徴を理解する 3. 建築物を構築するための計画を練る □ 建築物の構築方法について理解をします。各種工法の特徴を知り、適切な工法を選ぶための合理的な判断が出来るように考えます。	建築施工のOGの方にゲストスピーカーとして呼びして話をいただきましたが、内容の程度が低く、なっていました。 昨年度、施工の授業で他の教科の課題をしている学生が多かったため、対話式で行い、最後には30分の復習テストを行うようにした。 結果、例年より理解度は高く、定期試験の平均点が高かった。	授業後に小テストを行ったことで、学生から何故90分授業を行った後に小テストを行わないのか？や小テストの際、カンニングをしている学生がいるなどの不満のメールが届いた。 カンニングについては見回るなど配慮した。 120分の授業にして欲しいという要望は難しい旨を説明した。	授業評価4.47 回答率 55.6% 科目GPA 1.73

令和7年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A252009 建築設計演習Ⅱ	目標 「周辺環境」・「住まい」・「コミュニティー」の関係について考察し、建築設計に反映できることを目的とします。 また、構想した空間を相手に伝えるための図面表現力も養います。 教育効果 店舗空間をもつ集合住宅の設計を計画することができる。周辺環境や地域と建築との関わりについて考えることができる。設計した計画を図面で表現することができる。	旧藤川宿東海道沿いの敷地に店舗付き学生専用共同住宅を設計する課題である。教員4名により4グループに分かれ、学生一人ひとりの能力や、進捗状況に応じて指導を行った。周辺環境や地域、人と人との関係性について考えることができた。	エスキースにおいて、一方向的な指導にとどまらず、学生同士がディスカッションを行いながら、楽しんで作品のクオリティを高められる環境づくりを進めていきたい。	授業評価 4.468 回答率 69.1% 科目GPA 1.94
A252011 インテリアデザインⅡ	住宅における必要な機能やインテリア設計方法を理解することができる。 住空間を構成するエレメントの調整をすることができる。 住空間についてのインテリアデザインについて理解ができる。 □ 住空間デザインの領域から基本的構成要素・基本的条件まで、社会・生活の多様性と要求に対応するため、具体的な計画・設計に役立てる知識の習得を本講義の目的とします。	昨年度はインテリアプレゼンボードを作成を課題としていたが、理解度が低く、楽しんで受講できていないことが気になり、本年度は模型を含んだインテリア空間の提案の課題にして行った。プレゼンテーションが苦手な学生が多かった為、発表の機会も多く取り、全員発表を3回行った。	パース作成、手書き図面が全体的にできていなかった為、厳しく指導を行い、採点も厳しく行った為、もっと評価して欲しいという意見があった。しかし、どうしたら良くなるかの指導に徹し、採点は最後まで厳しく行った。授業評価は厳しい内容となったが、今後の課題作成に役立つと考えている。	授業評価4.31 回答率 51.7% 科目GPA 2.07
A252012 環境デザインⅡ	省エネに配慮した住宅の計画方法について理解できる。 地域の気候に配慮した建築計画の工夫について理解できる。 自然エネルギー利用の基礎について理解できる。 本講義は、日照と日影、音環境、換気など環境デザインに求められる基礎的事項の習得、環境問題の理解、サステナブルデザインに関する価値観の醸成を目的とします。	日影、音環境、換気など環境工学の基礎的な内容について取り組んだ。計算問題などをふくむ論理的な内容もあることから、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在するものと思われる。 後半では各自が地域を設定し、それぞれがエコ住宅を提案する課題に取り組んだ。様々な観点から積極的な提案があった。特に優れたものもあった。	計算問題、図を読み取って算定する課題などについては、積極的に取り組んでくれる学生がいる一方で、難しく感じている学生も一定数存在した。よりわかりやすい説明やフォローなどを心掛けたい。	授業評価4.1 回収率61.5% 科目GPA 1.70
A252013 福祉住環境学	高齢者、障害者の住環境整備を福祉、医療、建築の3つの側面から修得するとともに、個別の住環境整備の事例に対して実践的な提案ができるようになります。 現在、高齢者・障害者のみならず、すべての生活者が安心して暮らせる生活環境の整備が重要になっており、それらに係わる医療・福祉・建築についての体系的で幅広い知識と福祉用具や諸施策情報など、看護や保健など各種の専門職の内容についての知識も必要です。高齢者や障害者の住環境の整備に必要な医療・福祉・建築の知識について習得することが期待されます。	履修者数は42名であった。 授業は対面形式で全15回実施し、学習成果の評価として定期試験（筆記試験）を行った。課題はすべてUNIPAを通じて提出させ、授業資料についてもUNIPAで配布した。授業ではプレゼンテーション資料を用いて重要事項を説明するとともに、授業後の復習に活用できるよう資料を配布した。 また、授業内容の理解を深めるため、授業終了前に○×問題を実施し、学習内容の確認を行った。さらに、予習課題として次回授業で扱う内容を各自で調査させることで、学生が一定の知識を持って授業に臨めるよう工夫した。 これらの取り組みにより、学生の主体的な学習を促進し、授業内容の理解向上につながったものと考えられる。なお、資格取得を希望する学生に対しては、授業時間外に個別対応を行い、学習支援を実施した。	授業評価アンケートの回収率は7割を超え、総合評価は2024年度と比較して0.3ポイント向上した。また、科目GPAについても2024年度より0.7ポイント高い結果となっており、学習成果の向上が授業評価にも反映されたものと考えられる。 一方で、本授業では医療・福祉・建築に関する幅広い知識に加え、福祉用具や各種制度・施策など多岐にわたる内容を扱うため、一部の学生にとっては理解が十分に深まらない場面も見受けられた。そのため、授業中には質疑応答の時間を設け、理解の促進に努めた。 今後は、学生からの意見を踏まえながら継続的な授業改善を図るとともに、各分野の知識を相互に関連付けて理解できるよう、具体的な事例や演習を取り入れるなど、より効果的な授業運営に努めたい。	授業評価4.620 回答率 71.4% 科目GPA 2.26
A252014 建築法規	「建築法規の基礎」を習得の基本とし、建築士の資格取得のほか関連資格（宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等）にも対応できる知識の習得を目標とします。	教科書に完全準拠することで、予習・復習がしやすくなるよう配慮し、また、毎回これまでの内容の振り返りドリルを授業冒頭に行うように工夫した。これにより学習内容の定着度を再確認できるようになった。	講義内容からしても事例を通じた理解・学習は必須となるため、学生が意識を持続させられるようさらに授業資料、課題内容を再編していきたい。大半の学生が聞けていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価4.516 回答率66.2% 科目GPA1.85
A252015 建築実験	1) 実験により実構造物の挙動を体感し、崩壊性状を考えることにより、洞察力を涵養する。 2) レポートを作成することで論理的思考ができる。	本講義は1) 理論的講義、2) 実験、3) レポート作成で構成されます。1) および3) は対面式の講義で、2) は実験室で試験体または載荷・測定装置の準備、載荷実験を行います。従来の画一的な実験ではなく、学生自身がディスカッションを行いながら、実験方法から検討するPBL形式の授業としています。履修者人数の関係上2クラスで実施した。	学生の成績状況と授業評価から判断して、当該授業の学修到達度レベルに十分な授業ができたと言える。今後はさらに授業に工夫を加えて、より深いレベルまで理解できるようにする。	授業評価4.448 回答率 60.0% 科目GPA 2.40
A252016 建築設計演習Ⅳ	目標 複合施設の構想力と企画力をつけるとともに、外部環境から内部空間における総合的な計画とデザイン力を養います。多用途の構成される施設のコンセプトから建築への提案として、細部のデザインを表現できる力を養います。 教育効果 コンセプトワークから環境を読みとり建築に導く力と、総合的なデザインによるプレゼンテーション力を習得する。	岡崎の魅力を発信し、地域住民や子どもたちに伝え、後世に継承していくための複合施設を提案する課題である。地域の調査から岡崎の魅力を発見し、その魅力をどのように伝えていくのかを考え、建築の提案として表現することができた。	今年度は、学生間の能力差が大きく、課題に苦勞した学生も見られた。今後は、学生の能力に応じた課題の設定についても検討する必要がある。	授業評価 4.260 回答率 41.7% 科目GPA 1.58

令和7年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A252017 木造設計演習Ⅱ	木造住宅の設計技法の習得を目指します。 構法的な基礎知識を得るとともに、図面表現方法を習得し、模型制作を通して立体的な理解を深めます。 伝統木造住宅の意匠や地域素材の活用方法、左官など伝統的な技術についてもレクチャーや調べ学習を行います。□ 木造構法の基礎をふまえ、木造住宅の簡単な設計を行うことができる。	各種構造形式の木造軸組を対象とし、JWCADによる軸組図の作図と、木造軸組み模型の作成を行った。 学生の取り組みの意識は高く、積極的に取り組んでいる様子が伺えた。 60分授業で説明が行き届かない部分もあり、取り組みにくい部分もあった。	各種構造形式の木造軸組みを作図と模型で把握でき、教育的な効果は大きいと感じた。 遅れがちな学生へのフォローを丁寧にやってゆきたい。	授業評価5.0 回収率72.7% 科目GPA 2.73
A252018 現代建築論	達成目標 1. 建築における、デザイン、形態、装飾などに対する知識を広げること 2. 設計製図でのアイデアを考える手がかりやプロセスを見つけ出すこと 教育効果 建築家や建築作品などにおいてデザイン性や歴史性、地域性を把握し、これをふまえ建築意匠の理解をさらに深めます。	建築家の建築作品について、建築家のデザインの特長、建築作品の空間構成や細部のディテールを分かりやすくするために、映像や写真での解説を主体にしており、学生からの意見はおおむね好評なので、このままの授業スタイルをを継続していきながら、建築家の作品紹介でアレンジを加えていきたい。	建築家の建築作品について、建築家のデザインの特長、建築作品の空間構成や細部のディテールを分かりやすくするために、映像や写真での解説を主体にしており、学生からの意見はおおむね好評なので、このままの授業スタイルをを継続していきながら、建築家の作品紹介でアレンジを加えていきたい。	授業評価 4.582 回答率 70.2% 科目GPA 2.96
A252019 建築CG	建築設計の現場では、様々なCAD・CGソフトが使用され、デザインの発想・検討、イメージの伝達に役立っています。今後このような傾向は強まり、より高度な建築CG表現が求められるものと考えられます。本授業では、これまでに学習した建築CADおよびCGの基本的な操作技術を踏まえた上で、社会において求められる高度な建築グラフィック表現を修得することを目的とします。	数年前までは2コマ連続していた授業であったが近年1コマの授業に変更された。1コマ授業が連続して2回あり、それぞれの受講者は異なる別の授業として運用した。昨年度よりは学生を2つに分けて週ごとに交互に登校する規定が無くなったので授業の進みは良くなった。学生1人1人の質疑対応や個別指導を充実させる時間が取れた。	より満足度を確保する策が必要だと考えられる。 個別対応の時間を取るだけでなく、ビデオやムービーなどを増やし飽きない講義にしていきたい。 この授業ではPhotoshopをメインソフトとして運用しているが、今後はソフトの契約更新はしなくなっていくとのことだが、教員席にはadobeソフトはインストールされていないと授業が成り立たなくなってしまう懸念がある。	授業評価4.356 回答率 73.0% 科目GPA 2.65
A252020 建築と経済	建築の生産、経済、積算に關した専門用語を理解することができる。 建築積算の基本的な仕組みと手順について理解することができる。 これからの建築や建築業について経済的な観点から意見を述べるすることができる。	本科目でも教科書に完全準拠すること、で、予習・復習がしやすくなるよう配慮し、また、毎回これまでの内容の振り返りドリルを授業冒頭に行うように工夫した。これにより学習内容の定着度を再確認できるようになった。ただ、現行カリキュラムでは、3年後期になると受講する学生は、当該科目に興味関心がある、あるいは向学心が高いことで受講するのは2～3名となり、そのほかは卒業要件を満たすための受講となることから受講姿勢が完全に二極化する。この状況にどう対応するかが難しい。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、学生が意識を持続させられるようさらに授業資料、課題内容を再編していきたい。大半の学生が聞けていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価4.352 回答率67.7% 科目GPA1.90
A252021 居住文化論	居住文化に關した専門用語を理解することができる。 居住文化を異なる時代や地域、社会のなかで多面的に理解することができる。 これからの居住文化の可能性と問題点について意見を述べるすることができる。	本科目でも教科書に完全準拠すること、で、予習・復習がしやすくなるよう配慮し、また、毎回これまでの内容の振り返りドリルを授業冒頭に行うように工夫した。これにより学習内容の定着度を再確認できるようになった。ただ、現行カリキュラムでは、3年後期になると受講する学生は、当該科目に興味関心がある、あるいは向学心が高いことで受講するのは2～3名となり、そのほかは卒業要件を満たすための受講となることから受講姿勢が完全に二極化する。この状況にどう対応するかが難しい。また、カリキュラム上、担当科目が3年次開講に集中しており、この状況もまた学生にとって不利益になっているものと考ええる。	講義内容からしても事例を通した理解・学習は必須となるため、学生が意識を持続させられるようさらに授業資料、課題内容を再編していきたい。大半の学生が聞けていないとしても、質的な話題提供を享受できる層へ向けたアプローチも限定的ながらも組み込んでいく。	授業評価4.510 回答率68.9% 科目GPA1.98
A252022 インテリア設計演習Ⅱ	建築の複雑化・多様化・専門化にともない、これからの建築設計はインテリア設計の専門家を必要としています。そのような時代背景の中で、これからのインテリア設計ができる力をつけていきます。具体的には、実務としてのインテリア設計の内容を理解すること、自分の考えを“かたち”にして表現できる力を養うことを目的とします。	大学内施設のリノベーションの提案という課題に対して、現状のリサーチ、ワークショップ、インテリアマテリアル、照明計画など実用的な手続きを通して、学生自身が使用する空間の提案を行った。	設計提案の前にリサーチ・ワークショップの機会を設けたことで設計提案の妥当性は高かったが、その分プレゼンテーションにかけられる時間が不足した印象があるため、時間配分を再検討し進める。	授業評価 4.633 回答率 75.0% 科目GPA 2.50
A252023 卒業研究Ⅱ	達成目標 1. 生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的スキルを活かした解決や提案に結びつけることができる。 2. 研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にまとめることができる。 3. 設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	個々の論文テーマを決定し、個々における作業状況能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、考えながら、個々の学生に合うように工夫しながら進めた。 テーマは、前期の卒業研究Ⅰを深める内容をベースとし、さらに考察内容にし、可能な場合は、現地での調査対象にも同行した。	特に授業の進め方に問題はないようであった。 今後は、与えるだけの授業にならないように、適宜コミュニケーションも取りながら、適切な意見や質疑をしながら、学生自分自身で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価4.943 回答率 87.5% 科目GPA 3.13

令和7年度後期建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
A252024 卒業研究Ⅱ	建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して薦める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることを目的とします。 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	指導に従って手際よく研究をすすめられる学生の方で、テーマや方向性などをまとめることが困難であったり、作業進行が遅い学生も存在した。授業時間外も含め適宜指導を行いながら最終的などりとまとめが行えるようサポートしたい。	授業評価- 回収率-% 科目GPA 2.57
A252026 卒業研究Ⅱ	・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的技能を活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	ゼミに参加することが目標なほどに出席ができず、何度も呼び出した。また、一緒に研究や調査にも行くようにし、研究を進めるようにした。結果、全員卒論を書くことはできたが、もっと楽しんで自主的にできないものか、いつも方法を考え対応をしたが、なかなか難しかった。	授業の前に何かをやってくれることができず、研究室に呼び出し、一日中一緒に研究を進める必要があった。宿題を出しても他の授業課題も多くあり対応できないようだった。研究の内容について、できない学生に対しては容易にできるようなレポート式も今後は選択肢として準備する必要があるのではないかと感じた。	授業評価4.533 回答率 50% 科目GPA 3.0
A252027 卒業研究Ⅱ	目標 卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などの知見を総合的にまとめあげることを目的とします。 教育効果 授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	卒業設計・制作に取り組み、それぞれのテーマに至った背景とコンセプトを整理し、設計・制作を行い、その内容を説明することができた。ゼミでは、自身のテーマだけでなく、他学生のテーマについても発言する機会を設け、自分の意見が言えるように促した。	エスキースや作図に時間をかけすぎた結果、模型の作成やプレゼンボードの完成度が不十分な学生もいた。今後は、計画的に制作を進められるよう、スケジュール管理を徹底していきたい。	授業評価 4.900 回答率 28.6% 科目GPA 2.57
A252028 卒業研究Ⅱ	・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的技能を活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	授業の性格上、個別指導となる。全体的には、研究成果をレポート化するともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	研究の進行および達成度にばらつきが見られた。遠隔授業での研究指導方法を再考する必要がある。	授業評価 - 回答率- 科目GPA3.5
A252029 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになることや、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できることです。 建築学科の学修課程で習得してきた知識をもとに、学生自身が建築学科教員の指導を受けて、テーマを設定して進める授業です。卒業研究Ⅰで行ってきた、考察へのアプローチ、実験や分析の流れ、調査でのデータ、資料となる書物や報告書などの購読などから得られる知見を総合的にまとめあげることを目的とします。	本科目は各自が卒業研究のテーマを設定し、研究活動を進めることを目的としているため、指導体制を考慮すると適切な履修者数であった。また、履修生はいつでも研究活動に積極的に取り組んでいた。研究の進捗状況や課題は学生ごとに異なるため、毎回の授業において個別に打ち合わせを行い、その時点で取り組むべき内容を確認しながら研究を進められるよう支援した。また、同様の研究をしている学生同士で共有し、各自の研究内容や課題、今後の進め方について相互に理解できる環境づくりに努めた。これにより、履修生が自身の研究課題を主体的に進めるとともに、他の履修生の研究内容や進め方から学ぶ機会を得ることができたと考えられる。	今年度の授業評価は3.500、授業評価アンケートの回収率は33.3%、科目GPAは2.0であり、いずれも2024年度を下回る結果となった。 卒業研究を進める上で必要となる文献調査や研究計画の立案、論文作成に関する指導を行っているが、研究活動や論文執筆に対する習熟度には個人差が見られた。特に、資料収集、調査結果の整理・分析に課題を抱える学生も見受けられた。 今後は、学生一人ひとりの研究進度や理解度に応じた指導をさらに充実させるとともに、研究の進め方や論文作成の手順について具体的な助言を行うことで、主体的に研究を遂行する能力の向上を図りたい。また、資料収集や調査・分析の方法について段階的な指導を行い、研究成果を論理的にまとめる力の育成に努めたい。	授業評価3.500 回答率 33.3% 科目GPA 2.0
A252030 卒業研究Ⅱ	【卒業設計】卒業研究Ⅰに行ったリサーチをもとに、自身の設定したテーマの課題やポテンシャルを正しく理解し実直に設計提案をすることで、課題の発見から設計提案へと繋げる実用的な設計能力やプレゼンテーション能力の獲得を目的とする。 【卒業論文】	【卒業設計】学生それぞれが自身のテーマに向き合い、設計提案することができた。プレゼンテーションについてもパネル・スライドの完成度は高い水準にあった。 【卒業論文】それぞれのテーマは興味深いものとなった。リサーチの量的な部分は一定の水準にあったが、分析・考察の部分について、もう一歩深く行えると良い。	授業評価の結果は悪くないため、引き続き学生ごとのテーマに対し、適切に指導する。	授業評価5.000 回答率 16.7% 科目GPA 2.63

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
A252031 卒業研究Ⅱ	授業の中で、ディスカッションを行い、自分の意見を相手に伝えられるようになること。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や考察力を確立できること。	課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。図版などの視覚的な情報の提示が重要なので、今後はもっと視覚的な情報を増やしていきたい。 後期では全員が卒業設計を選択した。課題における構想やコンセプト等をディスカッションを中心に進めた。決定事項及びアイデアをまとめさせ、チェックバック方式で効率の良い授業となったと考えている。 しかしながら、図面と模型は提出はできたが質が伴っていない学生が多く、スケジュール配分に問題があったものと考えられるため、来年はスケジュール管理を強化していきたい。	達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業での会話は必要であると考えられる。 教員も学生側も、毎週対面で会話ができ、安心したと考えられる。 来年以降も通常授業に戻っていくことを期待したい。 4年生ということもあり、登校の日はこの授業しかない学生が多いため、欠席過多にならないように5回ぎりぎりまで休む学生もいて、他の学年の教科と違い欠席率が高かった。欠席が多いとその分進みが遅い傾向にあり、卒業研究の質の向上に繋がらないので、どうやって登校させたらよいかのが今後の課題である。	授業評価4.600 回答率 50% 科目GPA 3.63
A252032 卒業研究Ⅱ	・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的技能を活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	本年度も学生個々の関心や進路希望先に沿って課題設定をともにに行い、情報収集・整理から言語化、図表現などを実践する授業内容としてなんとか展開した。ただ、毎週、進捗報告からの打ち合わせ・指示のサイクルが極めて遅く、なかなか成果が積み上がっていかないのが現状である。さらなる具体的な指示、課題の細切れ化を行うことが肝要だと痛感した。	上記反省を活かしつつ、具体的な指示、課題の細切れ化、スケジュール管理の習得などを個々の学生に応じて対応していきたい。	授業評価5.000 回答率25.0% 科目GPA1.93
A252033 卒業研究Ⅱ	達成目標 ・生活・地域・産業などの諸問題について、建築及びデザインの実践的技能を活かした解決や提案に結びつけることができる。 ・研究課題に応じた調査、実験、もしくは設計や制作などを行い、適切にとりまとめることができる。 ・設計・設備・構造・施工・インテリアなどについての基礎的知識を踏まえ、自身の提案や研究内容を表現・説明することができる。	前期「卒業研究Ⅰ」で行った調査・研究を踏まえ、本授業では設計から制作までを一貫して行った。制作にあたっては、素材の特徴や性質を理解したうえで、それらを活かす形態や加工方法を選択できるよう指導を行った。さらに、完成した作品については、当初設定した目的や使用方法に基づいて効果を検証することを重視し、制作を通して達成感を得るとともに、課題や改善点を振り返ることができるよう指導を心掛けた。	作品制作の段階に入ると、学生ごとの進捗状況に差が生じるため、同一時間内での指導には工夫が求められる。加えて、一般的な実習授業とは異なり、制作内容や工程が学生ごとに異なるため、制作前段階から各自の工程管理を意識した指導が必要となる。完成後には十分な検証・振り返りの時間を確保できるよう、計画性を持って指導を行いたい。	授業評価4.6 回答率 20% 科目GPA 2.8
A252035 建築CADⅡ	建築C A D ・ C G ソフトの種類や用途、専門用語を理解することができる。 建築C A D ・ C G ソフトによる2次元および3次元作図ができる。 建築C A D ・ C G ソフトによって作図したデータを他のレイアウトソフトに活用できる。	BIMソフトである「ARCHICAD」を操作して設計する授業。平面図と3Dが連動しており、平面図上で作図すると3Dに反映され、3D上で窓やドアを付けると平面図に反映される。立面図は東西南北の4面が自動生成されており、断面図も平面上で断面戦を入れればその断面図を取り出してくれる。 感覚的に設計できるが、非常に高度な設計ソフトなため、操作がとても多様で手順も複雑な面もあり、毎日触っていないと確実に忘れてしまうため、授業用図面には手書きで操作手順をびっしりと書き込み、1年後に思い出せるようにしている。 学生は、このソフトが使えるようになれば図面表現も外観パース・内観パースもかなりの自由な操作とクオリティが担保できると考えられる。レンダリングもでき、世界中の都市の好きな時間の日照を再現してくれる。 なんとか全員が2課題「2階建て切妻屋根住宅」「4層箱型ビル」をそれぞれ平面図、立面図、断面図、外観パース、内観パース、を全てA3用紙数枚にレイアウトし、連ページPDFデータにできた。	来年は室内照明の設置をもっと違う室内照明器具で盛り込みたい。それができれば、夜に室内が光っている外観のレンダリング画像が作れ、ソフトの能力をこれまで以上に学生が体感できるはずだからである。 CADの授業は、どうしても数週間かかって1つの建築を表現するという連続的な講義になるが、だからこそ1回の欠席についていけなくなってしまう難しさがある。受講者数が多いため、個人指導に割く時間も通常は無いのだが、どうかして大勢に作業を進めさせつつ、後れを取っている学生に個人指導する時間を取る、ということをしなければならない。ソフトの操作が複雑なため、短時間で後れを取り戻すのは難しく、何か良い方法は無いものかと悩ましいところ。	授業評価4.688 回答率 69.4% 科目GPA 2.75

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L252018 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は40人で、最初から最後まで英語を使って対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をP Pの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を展開した。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、その週の課題に取り組みよう求めた。授業終了10分前には語彙を復習し、3分間の小テストを課した。学生が解答した小テストや宿題(授業外課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、基本的に生きた英語の授業をスムーズに進めることができた。	40人の履修者のうち28人が授業アンケートに回答してくれた。また、合格率(合格者÷履修者)は80.0%で、目標75%以上としている中で、かなり良い数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使って対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間があまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価4.622 回収率 70.0% 科目GPA 1.88
L252019 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は7人で、最初から最後まで英語を使って対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をP Pの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を展開した。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、その週の課題に取り組みよう求めた。授業終了10分前には語彙を復習し、3分間の小テストを課した。学生が解答した小テストや宿題(授業外課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、基本的に生きた英語の授業をスムーズに進めることができた。	7人の履修者のうち2人が授業アンケートに回答した。また、合格率(合格者÷履修者)は42.9%で、目標75%以上としている中で、かなり低い数値であった。欠席過多者が多かったことが大きな原因であると考えられる。英語を80%以上使って対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間があまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価4.720 回収率 28.6% 科目GPA 0.86
L252020 英語コミュニケーションB	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者は35人で、最初から最後まで英語を使って対面授業を行った。毎週、ユニットの教材や資料をP Pの画面に映し出したり、CDプレーヤーを活用したりして、授業を展開した。また、授業終了前に、ユニットの演習課題(授業内課題)を配布し、その週の課題に取り組みよう求めた。授業終了10分前には語彙を復習し、3分間の小テストを課した。学生が解答した小テストや宿題(授業外課題)を点検し、個々の学生に評価フィードバックを記入し、授業開始前、全学生に返却した。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、基本的に生きた英語の授業をスムーズに進めることができた。	35人の履修者のうち18人が授業アンケートに回答してくれた。また、合格率(合格者÷履修者)は71.4%で、目標75%以上としている中で、少し数値であった。欠席過多者が多かったことが原因であると考えられる。英語を80%以上使って対面授業をなんとか進めることができたが、英語の発音練習やペア練習などをする時間があまり取ることができなかった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語コミュニケーション力を伸ばすことを目指したい。	授業評価4.444 回収率 51.4% 科目GPA 1.74
L252023 スポーツB	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	技術指導、戦術指導は、的確に行えるが、学生の理解度によって、習得度が異なる。理解度を高めるためには、細やかなコミュニケーションが必要だと感じる。	履修生が30名と少なかつたため、前半バドミントン、後半卓球を履修してもらった。受講ノートをしっかりと書ける学生と、そうではない学生で、評価に差がついた。 S3, A4, B10, C7, D3, E3 ノートテイキングができない学生の指導が課題である。	授業評価4.696 回収率 90.0% 科目GPA 1.70
L252024 スポーツB	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	受講者は30名で授業を展開した。実技を行う上で適正な種目として、バドミントンと卓球を選択した。 授業前に、予習課題として、授業で行う技術や戦術について、各自で調べることで、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ちながら、調べただけでは理解不足な点を、授業の中で学ばせることができたのではと考える。学んだことをゲームで発揮してみることで、新たな課題や、課題解決を模索させられたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、時間的な配分も学生の状況に合わせて実施した。	実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回収率が90.0%と高く、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も低いと考えられる。 スポーツが得意な学生もいるため、技術練習において、より適切なアドバイスを与えながら、自身で成長を実感させられるよう工夫していきたい。	授業評価4.696 回収率 90.0% 科目GPA2.77
L252038 キャリアデザインⅡ	自己の将来についてのビジョンが描けるようになる。自分軸に基づくキャリアプランニングができる。就職活動に必要な能力や技術を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。就職活動が実践段階に入るため、企業研究、応募書類作成と模擬面接をより実態に即したかたちで体験し実際の就職活動に応用すること、また卒業後の社会人としてのキャリア形成に必要な知識を身につけることを教育効果としている。	キャリアデザインⅡの担当は二年目。前年と比べて落ち着いた気持ちで授業を運営することができた。企業の人事担当者を数多く外部講師として招いたので、学生たちにとっては非常に手ごたえがあったと思う。	回答率は半分程度だが、授業評価は決して悪くなかった。前年より約1%上昇している。新たな外部講師を発掘するための人脈づくりに今後も取り組んでいく予定である。	授業評価4.639 回収率 52.600% 科目GPA2.512
L252040 中国語B A SD	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。 中国語の文法的基本知識を応用できるようにすることを目的とします。 中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方にについてもさらに深く理解することができる。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくとしたペースを進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業で練習でできなかった分をカバーすることができた。	昨年と比較すると、アンケートの回答率は低下しましたが、授業への評価は高い結果となりました。 現在、中国語Aを未履修の学生が多く、授業を難しく感じる学生もいる状況です。そこで、具体例を交えた解説を増やすなどの対応を行い、今後の授業改善に努めていく予定です。 また、将来的に中国語Aの履修を授業参加の必須条件とするべきかについても、現在検討しています	授業評価4.6 回収率 61.5% 科目GPA2.54

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
L252041 中国語BB	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。 中国語の文法の基本知識を応用できるようにすることを目的とします。 中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができます。	ほとんど中国語Aの単位を取得した受講生で、より日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用したことで、授業中に練習でできなかった分をカバーすることができた。	昨年と比較すると、アンケートの回答率、授業への評価はいずれもやや低下し、科目のGPAも下がりました。 その背景として、欠席が多かった学生が最終的に途中から来なくなったこと、また、中国語Aを未履修の学生が多く、授業内容を難しく感じる学生が一定数いたことが挙げられます。こうした状況を踏まえ、具体例を交えた解説を増やすなど、理解を促進するための工夫を行い、今後の授業改善に努めていく予定です。 また、将来的には、中国語Aの履修を本授業への参加条件として必須化するべきかを考える必要があることを感じています	授業評価4.5 回答率 74% 科目GPA1.97
L252043 プレゼンテーションツール	ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。	学生は二人。一人は定期試験欠席、もう一人は一度も出席がなかった。前者については毎回課題を提出させてはいたが、残念な結果となった。	二人とも合格を果たせず、回答を得られなかった。留学生に特化した科目のため、難解な表現をわかりやすいものに言い換えるなどの工夫が必要だと実感している。	授業評価 - 回答率 0.000% 科目GPA -
S252001 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	今年度は6社の企業を取り上げ、それぞれの企業がどのように発展してきたのか、当時の社会情勢や人々のニーズを基に、競争戦略の基本形や企業の在り方、環境変化期のマーケティングの在り方、ビジネスの倫理など、現場で実際にあった事例をリアルに示した。学生たちの反応はそれなりによく、ディスカッションも比較的生活にできたように感じた。	経営の基礎という科目名に合った内容を進めることで、学生たちが興味をもつて授業に臨むことができたのは収穫であった。今後もその時現場で何があったのかという事例を積極的に取り入れて、よりリアルな授業を展開するとともに学生たちの率直な意見交換もできるような環境を整えていきたい。	授業評価4.57 回答率 72.7% 科目GPA 2.18
S252002 経営の基礎Ⅱ	達成目標 他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	実際の授業コンセプトを、達成目標に即したものに担当者の話し合いで改善した。後期経営の基礎Ⅱでは、ゼミ単位での少人数での授業を実施した。 少人数のゼミナール形式での授業が実施できたため、個別の指導はある程度できていて、評価も今年度はそこそこ良好であった。	経営の基礎という授業科目で、授業内容はゼミ任せという部分があり、他のゼミの内容がほとんどわからず、毎年、手探りの中で授業を進めている。 同じ科目の授業でありながら、授業内容、課題が担当者によって異なる（わからない）ことは、大きな改善点であると考えている。今年度も改善できなかった。	授業評価4.847 回答率 91.7% 科目GPA 2.00
S252003 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	2025年度の授業も、ある人物の伝記を読み、その人物が組織の中でのように生きたかについて受講生と話し合うという形式で進めた。ここ数年藤原銀次郎の伝記を扱っている。藤原銀次郎という人物について知っている受講生はいないが、藤原銀次郎の言動は劇的なので理解しやすいようである。履修登録した17名中、2名が欠席過多で不合格になった。	2025年度の授業では、松本清、藤原銀次郎、出光佐三の3人を扱った。次年度は、昭和生まれの経営者を扱いたいと思う。	授業評価4.91 回答率41.2% 科目GPA2.88
S252004 経営の基礎Ⅰ	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 ④高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につける。	履修者は4人で、全員日本人学生であった。毎週、対面授業を行った。毎回の演習課題（授業内課題）に学生は取り組み、きちんと提出してくれた。また、2年次のゼミ選択や大学生生活上の不安や悩みの相談役としてコミュニケーションを取ることができた。	履修者14人のうちで11人がアンケートに回答してくれた。この科目の合格率（合格者÷履修者）は100.0%で、目標90%以上を十分クリアすることができた。比較的授業アンケートの評価は高く、GPAが2.64と平均以上であったことは良かった。	授業評価4.800 回答率 78.6% 科目GPA 2.64
S252005 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	テーマ設定、資料収集、発表を行った。個人作業の間は、机間指導ができ、学生が質問しやすい雰囲気をつくることができた。また、学生同士のコミュニケーションの機会も得ることができた。経営学の基本的考え方、専門用語等について、自分で調べ考察し、発表する機会を得られたように思われる。	昨年度と比較し、科目GPAおよび授業評価ともに上昇した。 今後とも、授業を通して学生同士で相談する機会を増やしていきたい。 また、設定したテーマにそって、資料を収集し、考察し、その結果を発表するという機会をつくり、今後の学習の基礎が身につけられるよう心掛けたい。	授業評価4.69 回答率75.0% 科目GPA2.92
S252006 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	学生は全員留学生。国籍は中国・ベトナムだった。愛知県のある企業について基礎的な知識を授けてから、安藤百福を始めとする外国ルーツの創業者の経営理念をテーマに授業を進めた。留学生に特化した授業展開を心がけ、少しでも経営学に興味を持ってもらえるように情熱を持って指導した。一人一人の学生に目を配り、きめ細かい対応を心がけた。	授業評価では最高点を得た。だが、回答率も科目GPAも決して高くはなく慢心はできない。欠席のしがちな学生たちを引き付けるために、より取り組みやすいテーマで授業を進めていきたい。	授業評価 5.000 回答率 37.500% 科目GPA 1.375
S252007 経営と流行	過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。 時代に適応したビジネスモデルを理解することができる。	明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することができた。 またUNIPAにアップする授業資料の充実を図った。 ワークライフバランスやICT・DX、企業と社会の共通価値創造、SDGs、ESG経営など、現在の経営課題も織り込むことで、将来を考え、未来へとつながる経営の視点を持つことができたと思う。	UNIPAにアップする授業資料をより充実させ、復習や課題への取り組みに役立てられるようにする。 取り上げる事案について、経営に対する影響力や価値が可視化できるように現在の時流に合致した事例の充実を図る。 またキーワードの理解が促進できるように、受講者の反応を見ながら丁寧な解説を心掛ける。	授業評価4.74 回答率 81.9% 科目GPA 2.67
S252008 簿記Ⅰ	「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	総合問題を最後に行い、1冊の簿記全体の流れを理解してもらうために授業時間内に評価テストなどを行った。全体の意味が理解できたと考えている。	科目GPAは1.4と低かった。 授業時間も充分とれるようになったため、学生の理解度確認しながら、わかりやすい説明をしていきたいと思う。応用問題を解かせていたが、全体像を理解していない学生が多かったので、どの部分の問題なのかを説明して型実施していく。	授業評価4.575 回答率 51.9% 科目GPA 1.43

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S252009 簿記Ⅰ	「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	前期開講の「現代生活と会計」から継続して学習する科目である。 簿記の初学者がほとんどであり、また、留学生や前期に学習した内容を忘れている受講生も多いので、言葉のできる限りはっきりとし、丁寧な説明を心掛けた。簿記は理解するだけでなく、演習問題を繰り返し実施しないと身につかない科目であるが、多数教授の中で、十分な演習時間を取ることは難しい。達成目標にある「さまざまな取引を理解する」ことは、十分に達成できたと言え難い状況であった。	昨年度と比較し、科目GPAおよび授業評価が高かった。 用語の意味の説明等に時間がかかり演習問題を解く時間の確保が難しかったものの、問題集の使用を増やしたことが原因にあると推測される。 用語や処理方法の説明の時間をできる限り短くし、問題集を用いた演習時間を増やすよう努めていきたい。	授業評価4.54 回答率69.6% 科目GPA1.33
S252010 企業とCSR	企業が発展するにつれて、自らの社会的責任を果たす必然性が出てくることを理解することができる。企業の社会的責任(CSR)の内容について理解することができる。 企業が発展するにつれて、社会的責任を果たす必然性がどの様に生じていくかを理解する。企業の社会的責任の内容はどの様なものであるかを理解する。企業の社会的責任の源流について理解する。	昨年度と比べると、履修者数が減少した影響もあると考えられるが、受講者の食いつきが今ひとつな様に感じられた。内容的には昨年度と大きく変えた部分は無かったが、少しビジュアル的に食いつく要素を増やす等の工夫が必要なのかもしれない。	GPA値が昨年度の2.11よりも大幅ダウンした一方で、評価値は昨年度の4.464よりも上昇しており、単位取得出来たこと自体に満足したのか不明なところがある。実感としては昨年度よりも成績水準が下がっていると感じており、取り分け記述することへの忌避感が強まっている様な傾向があると思われる。ただいづれは卒業論文をまとめなければならない立場に学生は置かれるので、今のうちに記述することへの慣れを身につけてもらいたいのが本音ではある。あと例年以上に上級生の履修者が多かった影響はあるかもしれない。	授業評価4.753 回答率 48.4% 科目GPA1.77
S252011 日本の経営文化	日本企業の経営にはどのような文化的背景があるのかを理解できる。 日本の経営文化がビジネスにもたらす影響を理解できる。	留学生対象の科目である。 授業に用いるテキストをかえて、経営学の基礎用語や日本の企業経営について、受講生自身の今までの経験とつなげて考えられるよう工夫した。 経営用語などにも関心をもち、理解が深まったと思われる。	昨年度と比較し、授業GPAおよび授業評価ともに高かった。 授業に用いるテキストをかえたことで、経営学が身近なものと感じられたように思われる。 また、異文化で育った学生同士が、コミュニケーションを取れるような雰囲気ができ、より理解が深まったように感じた。 今後も、コミュニケーションが取りやすい環境づくりに努めたい。	授業評価5.00 回答率50.0% 科目GPA2.63
S252012 法学概論	法の解釈など、法学習の基本的取り組み方やリーガルマインドについて理解することができる。遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	1年生の選択科目であり、今後法律科目を抵抗なく安心して学習していく上で重要な科目に位置づけられる。授業は、基礎的内容を中心におおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。次年度以降で扱えない分野を中心に、資料やレジュメを活用して、来年度開講される科目に結び付く内容を扱った。いずれも企業にかかわる法律を学習していくにあたり、正しい法解釈ができることに主眼を置いた。企業法の基本を学ぶことを目的とし、身近な話題を取り上げたため学生の反応もよかった。法律用語が難しく、理解しにくいところは、繰り返し説明することを心掛けた。いくつかの法律を取り上げることで、法律の論点や争点を把握することができ、解釈方法を示すことで一定の法的思考力が身に付いたと思われる。	今後も民法(家族法)や商法、会社法を中心に扱い、学生が起こり得る法律問題をより身近に感じられるよう、最新の新聞記事や判例を講義により取り入れていきたい。理解を高めるため具体例は重要であり、できるだけ複数の事例を用いて説明するように心がけた。	授業評価4.781 回答率60.0% 科目GPA2.69
S252013 スポーツ経営管理論	達成目標 スポーツ経営・管理の基礎理論を身につけることができる。領域に応じたスポーツ経営・管理の実践スキルを身につけることができる。 スポーツにおける「戦略・マーケティング・組織、管理、ビジネスの仕組み」の基礎段階として、本講義では経営管理の基礎的な内容から、スポーツの特殊性を考慮した内容まで論理的に理解する。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、経営学の基礎的な内容をスポーツに照らし合わせ内容を構成した。1年次開講科目であることから、経営に関する基礎知識をまず取り上げ、それらの解説を多く取り入れた。他の科目と重複する内容を踏まえたものとなるが、履修者にとっては繰り返しとなり、復習となっていたようである。また、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。一般的な経営とスポーツの経営には共通する点も多数あるが、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるよう、授業内容を構成した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、ある程度深まったと感じている。	授業評価回答率が86.4%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であったと考えている。 今後も、一般的な経営に関する内容を織り交ぜ、スポーツに関する経営について、昨今の事情も踏まえつつ授業内容を構成していきたいと考えている。また、何らかの企画や運営に関する実践的な内容も取り入れていきたい。	授業評価4.337 回答率 86.4% 科目GPA2.91
S252014 体力とトレーニング	体力の概念・測定方法・評価方法を習得できる。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得できる。	対象が1年生ということで、スポーツ概論を前期で履修している学生はある程度理解しているものの、履修していない学生は基礎から進めていくことが必要となる。そこで、スポーツ概論履修者は復習ということも踏まえながら、基礎的内容から少しずつ知識を深めていくように授業を展開した。しかし、授業回数を進めていくに応じて積極性のある学生が増えてきたことと、逆に休みがちな学生も一定数出てきたことで、格差がみられるようになったことも事実である。	授業に対していかに真剣に取り組ませるかということ考えると、やはり現実的事例をもって説明するかにによる。しかも、身近な事例が必要である。興味を持つためにはやはり身近な事例が必須ということであるように思う。常に新しい情報を探し、それを授業資料として取り入れることを続けていく努力をしていきたい。	授業評価 4.44 回答率 90.2% 科目GPA 2.20
S252015 マーケティングと広告	①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近で、様々な領域と密接に関係している学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。 広告賞を受賞するなど評価の高い広告の事例を紹介し、関心を高めると同時に、理解を促すよう工夫をした。 1年生の専門科目という点を考慮し、課題内容を見直した。	現在の潮流に合わせ、デジタルマーケティングやインターネット広告の説明をより詳しく行う。また紹介する事例は鮮度を重視し、学生が関心を持てるようにタイムリーで最新のものに更新する。 価格戦略では、ダイナミックプライシングやサブスクリプションなど、新しい取り組みを紹介する。	授業評価4.74 回答率 74.6% 科目GPA 2.77
S252016 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようにする。	金融経済の基礎知識について、奥田・大蔵著「はじめての金融リテラシー」を読んで、各担当ごとに発表し、討論を行った。このことにより、問題理解と解決提案をプレゼンテーションする能力と、意見や批判を受け止め、考える能力がある程度養われたと考える。	学生がより主体的にリサーチ、プレゼンできるよう指導していきたい。	授業評価4.600 回答率 45.5% 科目GPA3.27

令和7年度後期総合経営学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S252018 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	学生の意見を参考にしてケースの選定を行った。 ケース分析の結果を、相互に意見交換をしながらプレゼンテーションすることで、プレゼン能力を向上すると共に、他者の意見を受け止め、思考力を身につけることができたと考ええる。 身近で具体的な企業の事例を扱うことで、現実の企業活動に関心を持てるよう意識づけを心掛けた。	ケーススタディの鮮度を意識し、データやトピックスを都度更新していく。 学生の関心の高い事例を発掘し、マーケティング、さらに経営学に対する知識と関心が持てるように工夫していきたい。	授業評価4.93 回収率 100.0% 科目GPA 4.00
S252019 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	MOS試験のWORD一般の指導を実施した。個々の学生対応になった為、自主性を尊重した。ある程度基本操作ができるようになった。	授業評価に関しては、十分に達成目標を達することができた状況を反映しているものと考ええる。さらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.933 回答率 60.0% 科目GPA 4
S252020 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。この関心や興味が履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	演習の前半では、企業法分野を取り上げ、とりわけ労働法の専門知識について、判例集を活用して争点を取り上げること、その論点を掘り下げることができた。ときには主要判例を検討することで、問題の本質に触れることができた。後半では、ニュース検定の問題集も活用して、公務員試験等の時事問題対策を行った。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、2級検定試験問題集を通じて興味をもって学ぶことができた。	公務員試験希望者も若干増え、補習も含めて指導した。今後は、判例研究や論文整理において、学生がより主体的に取り組むため、発表の機会を増やすなど指導方法をより工夫したい。就職のためのビジネス実務マナー検定対策について興味をもって取り組んでいたことから、継続して指導していきたい。	授業評価4.967 回答率54.5% 科目GPA3.82
S252021 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。	今年度の履修者は11名だったものの、途中で2人退学となり、更に1人は欠席過多失格となってしまった。それ以外のゼミ生は概ね真面目に受講しており、ゼミ生により両極端な結果となった。出席続けたゼミ生優先気味になってしまったのは否めないところ。	評価値は昨年度4.720よりも向上したが、3人も失格したため科目GPAは昨年度2.67よりもダウンしてしまった。また回答率もゼミとしては低めなので、どこまで正直な値であるかは微妙である。出席続けたゼミ生については、一定の指導が果たせたと感じている。正直なところゼミについては、メンバーに左右される所は否めない。	授業評価4.767 回答率 54.5% 科目GPA2.18
S252022 専門ゼミナールⅡ	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	全ての回において対面形式でのゼミナールを実施した。解説と課題作成、PCスキルについての理解を深めることができるように工夫した。少人数ではあるが、今回、課題の難易度については若干高いものを選択した。PCの所有やスキルに差があり、実際にPCを操作する機会は少ない学生にとっては難しい課題であった可能性もある。今後は、難易度の高い課題を取り入れる際には、履修者の思考力や読解力、PCスキルの状況を見極め、解説等の量を増やし、理解度の向上につなげていきたいと考えている。	授業評価4.691 回答率 100.0% 科目GPA3.18
S252023 専門ゼミナールⅡ	ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	12名のゼミ生のうち、4か国からの5名の留学生が在籍しており、普段は日本人学生との交流が十分に取れない状況にあります。そこで、より国際的な視点を理解できるよう、グループワークの時間をこれまでより多く確保しました。 ゼミ生一人ひとりが学習してきた経営学的観点を踏まえ、関心のあるテーマを選択させ、指導の際にはディスカッションを積極的に取り入れました。互いに興味を引くような問いを設定し、ペアワークで意見交換を行わせ、その内容を全体に向けて発表する機会を設けました。最終的には、これらの活動を個人発表のテーマへとつなげ、ゼミ生が主体的に学習を進められるよう工夫しました。	昨年度の評価結果と比較すると、アンケートの回答率および授業評価はほぼ変わりませんでしたが、科目のGPAについては、一名の再履修学生がほとんど欠席していたにもかかわらず、全体としては昨年度より高い結果となりました。 今年度は、12名のゼミ生のうち9名から回答があり、内容としては概ね良好な評価を得ることができました。 今後もこれまでと同様の方針を基本としつつ、授業アンケートの結果も参考にしながら、よりきめ細かな対応を進めてまいります。具体的には、SNS等のツールも活用し、受講生一人ひとりの状況に応じたフォローを行っていく予定です。 また、ゼミ全体で議論を深められるようなテーマ設定を工夫し、学生の学習意欲と理解をさらに促進していきたいと考えております。	授業評価4.899 回答率 75% 科目GPA2.75
S252024 経営戦略論	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身に付ける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶうえで、中核に位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。授業改善の課題である具体的な事例についても話題の企業事例をあげてわかりやすく説明することができた。	今後も学生が経営戦略を身近な問題として感じられるよう、最新の事例を取り入れてわかりやすく紹介していきたい。	授業評価4.535 回答率 70.1% 科目GPA2.71
S252025 経営組織論	人と組織のマネジメントの手法について理解することができる。 組織と戦略とのかわりについて理解することができる。 組織と人との関係を通して企業の経営活動について理解することができる。 組織と人との関係を考察することを通して組織マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。	昨年度よりも履修者が増加し101名となったが、例年再履修者が多い科目でもあり、全学部においても履修者の多い科目である。結果的にS評価が28名にも上ったので少々評価を甘くし過ぎたきらいがなきにしもあらずであるが、不合格者が例年よりも少なくなったのは一定の収穫といえるかもしれない。内容面では元々1回分の詰め込み気味だった授業を2回に分けたことで、少しゆとりをもたらすことが出来た。	昨年度の評価値4.540より向上しており、科目GPAも昨年の2.18より大幅向上した。結果的にやや甘めの採点になってしまったとも感じているが、少し授業構成を変えた影響はあるかもしれない。来年度も内容構成のマイナーチェンジを予定している。	授業評価4.649 回答率 40.6% 科目GPA2.41
S252027 コンピュータ会計	証憑などの領収証や納品書などで仕訳をして、会計ソフトに表示される財務諸表のデータを読み取り、問題点を解決できる。企業の現状分析や、短期利益計画、資金繰り表の作成まで理解し、会計ソフトを活用できる。	パソコン操作の授業は、個々の理解度が異なるため、欠席者が多く、課題もパソコンで復習する良いようにしたのか評価が下がったと思われるさらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	科目GPA2.46あった。パソコンを使用しているため、欠席者が多く、課題もパソコンで復習する良いようにしたのか評価が下がったと思われるさらに達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の個別指導の時間は必要であり、工夫したい。	授業評価4.52 回答率 53.8% 科目GPA 2.28

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目G P A
S252028 ショップ経営論	商店の設立や運営に関する知識を理解することができる。 商店の多様な形態を理解することができる。 簡単なモデルの商店の設立や運営をすることができる。	店舗を開店、運営するという視点から、実践的な内容を充実することで関心を持てるようにした。 事例紹介を充実させることで理解促進を図った。開店準備や集客方法、雇用、経理など、実際に店舗を開店、運営する上での知識を学ぶことで、店舗経営に関する課題発見力や実践的な力を身につけることができたと考ええる。	UNIPAにアップする授業資料をより充実させ、復習や課題への取り組みに役立てられるようにする。 身近な店舗の事例を取り上げ、学生が関心を持てるように工夫したい。	授業評価4.62 回答率 49.4% 科目GPA 3.06
S252029 財務会計論	財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解することができる。 近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解することができる。	昨年度は、スライドを用いて授業を行ったが、受講者のなかには、スライドの写真を撮ることで満足してしまう者がいたので、今年度はできる限り、板書しながら授業を進めた。 受講者のなかには、会計に関心をもつ者が多く、また質問を投げかける機会を多くつくることで、コミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。受講者の理解も進んだように思われる。	昨年度と比較し、授業評価が高かった。 できるだけ板書を用いて、問いかけを多くいれながら授業を進めることができたことが原因であるように思われる。 次年度も、できるだけ受講生の集中力を維持できるよう工夫をしていきたい。	授業評価4.54 回答率73.5% 科目GPA2.57
S252030 国際社会論	国際社会を取り巻く主要な問題について理解し、それぞれの問題について自分なりの意見を持ち、他者に伝えることができることを目標としている。国際社会を巡るさまざまな問題について自分なりの考えを養い、それを他者に伝えられるようにすることを教育効果としている。	学生の出身地は中国・ベトナム・ネパール・ミャンマー・インドネシア。日本人学生不在の多国籍空間は独特の緊張感を持っていた。このような緊張感の中、さまざまな国を祖上にあげて授業を展開した。クラスメートたちの出身国と自国の関係について調べてくることが課題に設定して、確かな手ごたえを得た。概ね満足のいく授業だったと思う。	回答率は60%にとどまったものの、授業評価としては高い数字が得られた。これに慢心することなく、知識と情報のアップデートに努め、授業に活かしていきたい。	授業評価4.933 回答率 60.000% 科目GPA 2.928
S252031 労働法	労働法の知識を活用して、遭遇するであろうさまざまな職場のトラブルに際して、リーガルマインドをもって、冷静に法的対応をすることができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	労働法は、企業経営を学ぶ者あるいはこれから就職する者にとって学んでおくべき科目である。授業は、シラバスに従い、おおよそ計画通り進めることができた。基礎事項は資料やレジュメを活用して把握し、概ね予定通り進めることができた。講義は労働問題の本質を考察することを目的とするが、学説や判例の検討は難しいようであり、小テストの結果をみるに専門的知識の理解があまりできていなかった学生が多かった。今後は、アルバイトや新聞記事を通じて身近な話題を多く取り上げ、労働の実情を踏まえて問題点や争点を認識し、法的な解釈力を得られるように指導していく。	昨年度より授業評価が若干上がったが全体の成績は下がった。今後も学生が労働問題をより身近に感じられるよう、アルバイトの事案や法改正の動向を講義に取り入れていきたい。より深い学習につなげるため、労働関係の最新データを活用し、労働法による分析を加えながら今後の労働法の在り方を考察していく。	授業評価4.718 回答率41.1% 科目GPA2.28
S252032 個人スポーツ演習	個人スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 個人スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 個人スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、各自の技術を駆使して試合のレベル向上のための方法を考える事ができる。	スポーツ種目の中の主に個人種目について学ぶ演習形式の科目である。個人スポーツとして、バドミントンと卓球を展開した。個人やグループでの練習活動における基本的な技術を身に付け、戦略や戦術を工夫してその成果をゲームの中で確認しながら個人技術、戦略・戦術の理解、向上を目指した。実際に活動する回数は多くはないが、基本的な技術を身につけることを中心に、それらを活かした戦術や戦略を駆使することで、より高いレベルのゲームを追求することに繋がったと考えている。実際に受講者は技術的にも向上した印象があり、より個人スポーツの特性にふれた楽しさを味わい、理解することができたのではないかと考えている。	授業評価回答率が69.2%であり、おおよそ全体の評価を反映したものと考えられる。回答した者については、概ねよい評価であった。比較的容易に実施することができる個人スポーツのうち、バドミントンと卓球を展開した。受講者の中には経験の浅い者が多く、基本的な技術を身につけることでゲームの中で楽しさを実感できていたと思われる。今後は、基本的な技術や戦術をより理解しやすい内容にし、加えて応用技術や戦術についても多く取り入れた内容を構成していきたいと考えている。	授業評価4.756 回答率 69.2% 科目GPA1.90
S252033 球技スポーツ演習	球技スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 球技スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 球技スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、試合のレベル向上のための方法を考えることができる。	専門科目としてのスポーツ演習であるが、教養のスポーツ科目を履修するイメージで受講する学生が多く、取り組みの甘さが目立つ。実際にシラバスの達成目標も、教養のスポーツの達成目標と大差なく、位置づけが難しい授業である。 今年度、履修者が19名、取り組みの悪い学生、Dが2名、Eが0名であった。真面目に取り組んだ学生の評価は、悪くなかった。	演習科目であるため、より専門的な内容とすること、グループワーク等で学生自身が考えることなどを考える必要がある。 今年度は欠席が少なく、単純に授業課題、試験レポートの内容評価を表している。	授業評価4.756 回答率 94.7% 科目GPA 2.16
S252034 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業で実際にマネジメントできる。	ゼミ生の希望に基づき、モーガンハウエル著「サイコロジーオブマネー」の輪読を通じて、証券投資の奥深さを学び、経営的思考能力・総合的経営判断能力を養うことができた。	今後は、学生が興味を持つテーマを自ら設定して、報告できるように指導していきたい。	授業評価5.000 回答率 42.9% 科目GPA4.00
S252035 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	専門ゼミナールⅢで取り組んだ内容、考え方を土台とし、取り上げたマーケティング理論やビジネスモデルから、それに適合するケースを自分で探すことで考察力の強化を図った。 またマーケティングで対象となるテーマへの気付きとして、学生の推薦する図書の主題からマーケティング領域に導く新たな試みを導入した。 それに加え、関心のあるテーマを選択の上、調査や分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、さらに他者の意見や助言を基にステップアップすることができたと考ええる。	事例研究（ケーススタディ）と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞り、卒業論文のテーマ選定につながるようにしたい。 最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたって質量ともに充実した情報提供を心掛けた。 自ら選択した図書の内容とマーケティングを関連づける思考力の育成は今後も継続していく。	授業評価4.6 回答率 71.4% 科目GPA 4.00
S252036 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度は1名のみの受講者で、問題なくS評価であった。 元々がそこそこ優秀な学生であったため、専門ゼミナールⅣで課題をこなすのは十分な状況であった。	欠席少なく、それなりに授業課題を提出すれば、過程評価7割～8割は難しいない設定であり、いかに授業課題に取り組ませるかが大きな課題である。 今後とも継続して指導していきたい（正直、学生の取り組み次第という部分はある）	授業評価5.00 回答率 100% 科目GPA 0.6

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S252037 専門ゼミナールⅣ	ITを活用した経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	本科目には8名が受講した。力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステム、仮想書道システム、メタバースによる歩行支援システムの3つのシステムを題材として取り上げ、それぞれについて研究の背景、問題点、解決手法、効果、ならびに未解決の課題などを学習した。その結果、受講生全員が3つのシステムについて内容を説明しながらデモンストレーションを行えるようになった。さらに、仮想書道システムおよびメタバースによる歩行支援システムについては、大学外でのデモンストレーションを想定し、機器の分解・梱包・運搬を行った後、再度組み立てて動作確認まで実施できるようにした。	遅刻や無断欠席をする学生が多く、学生全員の進度を一律に揃えようとすると、学習の進行が進度の遅い学生に引きずられる状況が生じていた。今後は、ゼミ全体の技術力向上を図るため、学生ごとの進度を柔軟に考慮し、進捗の遅い学生の状況に過度に影響されない体制を構築する予定である。	授業評価 4.8 回収率 37.5% 科目GPA 1.75
S252038 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	今年度も、卒業論文を作成するために必要な統計学の用語・定理等を理解することを目標にした授業を行った。具体的には、偶数週の授業では、統計学の用語を指定し、受講生にその用語について調べさせた。奇数週の授業では、前週の授業で調べた内容を発表させた。統計学の用語を一通り調べ終わるとそれ以上深いあるいは難しいことを理解する努力をしない学生にどのように対応すればよいのか検討している。	次年度は、受講生と相談して決定したテキストを輪読しながら卒業論文作成に必要な用語・定理等を学ぶという方法で授業を進めていきたい。	授業評価5.00 回収率50.0% 科目GPA2.50
S252039 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	ユーチューブの動画配信方法やPPTの自己紹介動画作成を行った。はじめに取組んだ学生は、早く就職内定をもらい両親からお礼の連絡をもらった。	まじめの取組む学生が多く、今年度のやり方を次年度も実施していく予定である。	授業評価 - 回答率 -% 科目GPA 4
S252040 専門ゼミナールⅣ	①経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	本ゼミナールでは、ビジネスにおいて不可欠である異文化コミュニケーション力とは何かについて調査・研究を行い、グループで口頭発表することをメインの学習内容としている。履修者6人のゼミ生は、全員日本人学生であった。その結果、学生たちそれぞれの国のビジネス上の文化的特徴を見つけ出し、それが他の国の文化的比較をすることで、どんなことに注意するとコミュニケーション力が身につけられるかについて発表できたように思われる。	6人の履修者のうちで2人が授業アンケートに回答した。ゼミ生は毎週の授業にほぼ出席して、演習課題(授業内課題)や宿題(授業外課題)を提出し、プレゼンテーションも比較的満足できるレベルであった。授業アンケートに関しては、回答率が30%台と低かった。また、合格率(合格者÷履修者)は100%で、目標90%以上をクリアすることができた。今後も引き続いて高い評価を得られるよう努めたい。	授業評価4.100 回答率 33.3% 科目GPA 2.17
S252041 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ゼミの前半では、民法、商法、会社法を中心とした企業法の論点を題材にして、資料を活用することで具体的な論点を掘り下げ深く学んだ。後半では、学生の選んだテーマにつき、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成を実施することで、その作成の基礎を学ぶことができた。とりわけ労働法分野の様々な論点に触れることで、本質に触れる学習につながったと思われる。来年度の卒論のテーマ策定に向けて有意義な学習と考える。また、就職のためのビジネス実務マナーについて2級検定試験問題集を通じて学び、学生から継続の要望も出てきており、興味をもって取り組んでいたといえる。	3年生として法学の専門的分野の学習に加え、就職のためのビジネス実務マナー検定対策や面接対策も実施した。興味をもって取り組んでいたようなので、今後も続けていきたい。徐々に卒論の意識付けもおこなっていく。公務員希望者には、政治・経済の分野の過去の問題をより提示していきたい。	授業評価4.920 回答率54.5% 科目GPA3.88
S252042 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	昨年度の履修者が余りに酷すぎた分、今年度は少しマシになったのは確かであるが、それでも1名病気による特別配慮制度適用者が出てしまった(更に課題も出さなくなり結局失格となってしまった)。ゼミ生の取組み具合においては個別差が目立った感がある。	回答率は昨年度50%でGPAも昨年度2.29だったことから向上しているが、昨年度のゼミ生が酷すぎた反動であろう。評価値は昨年度と変わらずなので微妙な結果である。今年度は履修者により取組み具合にムラがあるので、来年度の卒論指導の際注意したいところ。	授業評価4.600 回答率 71.4% 科目GPA2.29
S252043 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	輪読により財務諸表分析の手法を学び、学生が選択した企業の財務分析を行った。受講者が、会計に関心をもっており、また少人数であったこともあり、お互いにコミュニケーションを取りながら授業を進めることができた。	昨年度と比較し、科目GPAおよび授業評価がともに上昇した。受講生が自ら選んだテキストを用いて学習し、学生自ら選んだ企業の分析を行ったことで、学習意欲を維持できたように思われる。また、輪読の際にも、質問を投げかけたりして、学生の理解を確認しながら授業を進められたこと、学生同士でコミュニケーションをとりながら学習に取り組めたことで、学習理解が進んだように思われる。	授業評価4.50 回答率100.0% 科目GPA4.00
S252044 専門ゼミナールⅣ	経営的思考力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを教育効果としている。	学生は中国出身の留学生と日本人男子学生で構成されていた。そのうち一人は再履修者。経営・国際・文化の三本軸を中心に演習を展開した。概ね満足のいく授業だったと思う。	授業評価では最高点を得た。回答率も悪くはない。経営・国際・文化の三本軸と言ってもカバー領域は非常に広く、知識と情報のアップデートが欠かせない。	授業評価 5.000 回答率 75.000% 科目GPA 2.250
S252045 専門ゼミナールⅣ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、次年度の卒業論文の執筆につなげていくことができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くするように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.900 回答率 75.0% 科目GPA2.88

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S252046 専門ゼミナールⅣ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	9人のゼミ生はほぼ全員100%の出席率で、3年生から卒業論文のテーマを決めるための準備という位置づけだった。それぞれが関心のある事柄について情報収集し、まとめ、発表を行った。それぞれの関心事について調べ、まとめ、パワーポイントを使用して発表させるという方式で進めた。発表内容について、質問し話し合い、レクチャーしていった。学生自身の良く知っている分野を扱うように取り組んだので、積極的に取り組んでいたと思う。	昨年度の評価結果を振り返ると、アンケートの回答率は100%と非常に高く、全員が積極的に参加していました。一方で、評価そのものは前年と比較してやや下がる結果となりました。この点については、学生の状況を丁寧に把握しながら、引き続き改善に努めていきたいと考えております。授業は一人ひとりの進捗やスケジュールに合わせて柔軟に進める個別指導中心の形となりました。この方法は、学生の理解度や課題に応じて丁寧に対応できるという利点があり、今後も継続していきたいと考えています。	授業評価4.6 回収率 100% 科目GPA2.71
S252047 現代マネジメント講義Ⅱ	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学ぶ取組ができるようになる。講義の内容を理解し、講義内容の要点を授業時間内課題に的確にまとめられることができるようになる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とする。	今回はS評価が4人と極端に少なく、BとCが20人台で山を形成している感じとなった。今年度も課題を期日内に提出しない履修者が目立ち、その分課程評価点を下げている要因になっている。毎回の授業開始・終了時に提出を呼びかけているものの、即効性に欠けるので悩ましいところである。	昨年度の評価値4.608、回答率46.9%、GPA1.81と比べて若干上昇した程度である。昨年度の履修者よりは受講態度に問題のある者は少なくなったが、課題提出面では大差ない状況であり、課題提出の向上が課題である。なおスマートフォン使用の禁止は更に強化を図っている。	授業評価4.649 回収率 50.0% 科目GPA1.89
S252048 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	昨年度同様に日本スポーツ協会の指導者資格獲得のための基礎知識を戦略的な思考の観点から捉え、授業を実施した。専門用語に関しては理解しづらい部分もあったようで、授業についてこれられない学生も見受けられたため、一つ一つかみ砕いて説明し、理解が深められるように努めた。また、理論と事例を組み合わせて説明することで、実際に指導者として現場に立った時、イメージができるように授業を進めたところ、論議を立ち上げるにあたり、比較的スムーズにできるようになったと思われる。	昨年の反省から抽象的な内容をなるべく廃して具体的に授業を進めた結果、学生たちが積極的とはいかないまでも前向きに取り組んでいる様子はうかがえるようになってきた。後期もこの手法でより意欲的に取り組めるよう授業を進めていきたい。	授業評価4.69 回答率 63.4% 科目GPA 1.95
S252049 戦略思考Ⅱ	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。	ユーチューブの動画配信や自己紹介動画の作成、編集を行った。興味のある内容は真剣に取り組んでくれることが分かった。	科目GPA4であった。個々の学生が自由に個性のある自己紹介動画を作成していたので今後も本人の自主性に任せたい。ユーチューブの動画配信限定で実施したので取り込みやすかった。	授業評価4.90 回答率 20.0% 科目GPA 4
S252050 戦略思考Ⅱ	①与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。 ②他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。 ③現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	履修者は8人で、毎週、対面式授業を行った。毎回、学生は単元の授業内容を理解しながら、各単元にある役に立つ英語表現をCDについて発音練習をした。ただ、ペア練習やグループ練習は、コロナ禍の状況では行うことができなかった。授業最後に配布した演習課題（授業内課題）や宿題（授業外課題）を、期限の次週までに提出してくれた。また、毎週の対面授業には、ほとんどの学生が出席して、受講した3年生は真剣に取り組んでいた。	8人の履修者のうちで5人が授業アンケートに回答してくれた。科目GPAが2.00を越えていたことで、充実した授業を展開することができた。また、合格率（合格者÷履修者）は100.0%で、目標90%以上をクリアすることができた。さらに、日本人学生と留学生とのコミュニケーション活動が行うことができると学習効果が高められると思われる。	授業評価4.400 回答率 62.5% 科目GPA 2.50
S252051 戦略思考Ⅱ	与えられたテーマについて、論理的・戦略的に思考し、自分なりの意見を提示することができる。他者とコミュニケーションを取りながら集団の意見を集約し、課題解決することができる。現代組織の運営に必要なコラボレーションに関わる知識・スキルを身に付けることができる。	種々の企業の決算書を簡単な比例縮尺図にして、企業の戦略やビジネスモデルを探る授業を行った。できる限り、受講生がよく利用する店（企業）や聞いたことのある店（企業）を選び、関心をもてるよう心掛けた。	昨年度と比較し、授業評価が高まった。企業の戦略を探るにあたり、認知度の高い企業を対象とすることで、学生の関心と理解を得ることができたように思われる。また、学生とのコミュニケーションおよび学生同士のコミュニケーションが取れたことで、学習理解が進んだように感じた。次年度においても、意見をいえる雰囲気づくりに努めたい。	授業評価4.53 回答率80.0% 科目GPA3.00
S252052 企業データ分析と活用	経営比率分析の手法と意味・意義を理解し、企業の財務状況の判断ができる。企業経営の診断の基礎を学習し、マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけることができる。	企業評価の分析手法を説明した。学生は最後に自分が興味を持った企業の財務諸表を調べ、どのような状態なのかを知ることができたと考えている。	科目GPA2.45であった。昨年よりは改善が見られたが、学生の自己評価による学修到達度レベルと成績評価による学修到達度レベルに乖離が見られる。授業課題の未提出者を減らす必要がある。	授業評価4.538 回答率 55.3% 科目GPA 2.45
S252054 ヒット商品企画論	世の中のヒット商品を基に、その成功要因を論理的に理解できる。商品が生み出されるプロセスを理解することを通じて、企業で実際に商品企画やその過程のマネジメントを行うことができる。現代企業のビジネスモデルについて、その全体像を把握することができる。	事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけた。また、事例として取り上げた商品の写真や企業のHPなどの紹介を通して、学生の関心を得られるよう心がけた。現代企業によるヒット商品が生み出されるプロセスについて、概ね理解されたように思われる。	昨年度と比較し、授業評価が高くなった。学生がよく利用するであろう企業（店）、商品、およびサービスを事例として取り上げることで、学生の関心が得られたように思われる。また、問いかけを多く行い、考える時間を設けることで、学生の理解が深まったように思われる。今後も、事例と理論を組み合わせ、問いかけをしながら、双方向的な講義を行うよう心がけたい。	授業評価4.68 回答率68.4% 科目GPA2.79
S252056 国際関係法	主に条約について理解し、専門用語を把握することができる。遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	国連の役割や現状、条約を中心とした国際法の分野を扱い、これまでの法学学習に国際法的観点を組み込んで思考する重要な科目である。国際慣習法を含めて、国と国または国際社会の合意について、ときには新聞記事に見られる時事問題に触れながら、国際情勢を踏まえて国際法や国際組織について理解を深めていくことができた。とりわけ、国連の役割を重視したため、興味をもって取り組んでいた学生もみられ、一定の成果が得られたようである。	本年度も国際情勢のなかで戦争をめぐる話題が多かったので、ニュース記事など多くの話題が提供できた。国際関係をめぐって、学生がより身近に感じられるよう、国連あるいはその国際機関の在り方を探るべく、最新の論説や判例をより取り入れていきたい。国連のサイトなどの資料の活用はより増やしていきたい。	授業評価4.663 回答率46.4% 科目GPA2.55

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目GPA
S252058 スポーツチーム経営論	スポーツチーム経営の基礎理論を身につけることができる。 領域に応じたスポーツチーム経営の実践スキルを身につけることができる。	スポーツチーム経営論という授業では、達成目標からは、チーム（メンバー）のマネジメントなのか、アマチュアチームのチーム経営なのか、プロチームの収支まで含めたビジネスマネジメントなのか、明確でないため、授業内容の構成に苦労している。 学生自体の興味も、前者、後者、それぞれに分かれているようで、興味を継続させるという点に苦労した。 履修生の3分の1が4回以上の欠席数で、授業内容が飛んでしまうため、十分な理解をするのが難しくなっていると感じる。	履修者38名中、D, Eが4名、Cが11名と欠席が多いのに比例して、成績も低調であった。授業内容の構成には苦労しているが、年々、内容的に、こなれていっているため、学生にはわかりやすくなっているものと考ええる。 チーム（メンバー）のマネジメントでは、具体的な事例やスライドの工夫を、プロチームのビジネスマネジメントでは、経営学の視点から整理することで、よりわかりやすい内容に再編していく。 成果評価を試験レポートで行っているが、昨今、AIを使ったごまかしレポートが目立つ。過程評価は、今年度からスマホをしまわせて授業課題を課しているが、成果評価についても、中間・本試験と2回、筆記試験（持ち込み可）の形式で実施することとする	授業評価4.526 回答率 71.1% 科目GPA 1.87
S252059 スポーツ社会学	達成目標 社会におけるスポーツの役割や価値・意義について理解できる。 私たちが生きる社会とスポーツとの関わりを学ぶ。スポーツの肯定的な部分だけでなく、否定的な部分についても言及し、社会におけるスポーツの役割や価値・意義について社会学的な視点で考察していく。	3年次開講科目であることから、スポーツと社会との関わり、社会におけるスポーツの在り方、それらに関する歴史や制度等について取り扱う内容とした。これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を随所に織り交ぜた内容を構成した。 内容としては、社会学であるため、多少難解な部分もあるが、受講生にわかりやすく理解できるように構成や資料の作成を心がけた。 履修者自身が置かれている状況やこれまでの経験などと照らし合わせることで、現在までのスポーツと社会との関わりについて理解が深まったのではないかと考えている。	授業方法として、全ての回を対面授業とし、希望者には遠隔対応にて実施した。授業資料や課題の内容等について、難解な内容が含まれることから、図や表といった視覚的にわかりやすいものを取り入れることを意識した。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の難易度は必要だと考える。今回は履修者が60名であり、対話を実施する回数はそれほど取ることではできなかった。今後は履修者数が増えた際の授業内容や方法について再考し、より理解が深まるようにしていきたいと考えている。	授業評価4.682 回答率 56.7% 科目GPA1.53
S252060 卒業研究Ⅱ	ICT（情報通信技術）を活用した経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身に付けることができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考力や教養、職業的倫理観を身に付け、課題解決にICTを高効率に活用する能力と、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	本科目の受講者は9名であった。受講者全員の希望を調査した上で、力覚フィードバックを用いた歩行支援システム、仮想書道システム、メタパースによる歩行支援システムの3つを主たる研究分野として設定し、各分野に3名ずつ配置した。ただし、各学生の卒業研究テーマは、それぞれの関心や問題設定に基づき個別に設定している。その結果、全員が卒業研究を完成させ、卒業研究審査会において発表を行い、全員が合格となった。	全員が実験を実施する計画であったが、実験開始までに過度の時間を要したため、十分な実験時間を確保することができなかった。さらに、12月に力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステムが故障したことにより、実験を未着手であった学生については、次年度に実施予定であったシミュレーション実験へ切り替えるなどの対応を行い、当面の問題に対処した。今後は、実験を早期に開始し、実験と並行して研究を進めるよう指導する予定である。また、取得した実験データについては、体系的に整理・蓄積し、再利用可能な形で管理する。	授業評価4.5 回答率 22.2% 科目GPA 2.22
S252061 卒業研究Ⅱ	学習から得られた問題意識に基づいて、その内容を卒業論文にまとめる。グラフ、図、フローチャートを用いて、自分の主張をより効果的に示すことができる。	これまでの学習の集大成として、各学生が興味をもつテーマを設定し、適切な参考文献による先行研究のリサーチと、リサーチクエスションに対する時分ちのアプローチの結果を卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文の出来栄えには、ややばらつきがあるものの、いずれも合格点には到達することができた。	締め切り間際に、切迫した状況で卒業論文を仕上げる学生が散見されたため、今後は全員が計画的に進められるよう、スケジュール管理を厳格化していきたい。	授業評価5.000 回答率 36.4% 科目GPA4.00
S252063 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	卒業論文の作成を個別指導し、文献収集や調査手法の基本を指導した。その結果、個人差はあるものの課題発見力や論理的思考力が身についた。 また論文執筆や報告会でのプレゼンテーションを通じ、文章表現力や口頭表現力を養うように心掛けた。その成果としてゼミ生全員が一定レベルの卒論を完成することができたと考ええる。	卒業論文執筆の指導において、各自のテーマに応じて個別に調査方法の指導や参考文献の紹介を積極的に行いたい。 また各人の能力に応じ、よりきめ細かく個別対応を図っていく。特に調査設計のサポートに力を入れたい。	授業評価4.93 回答率 30.0% 科目GPA 3.60
S252064 卒業研究Ⅱ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	今年度は1名のみの受講者で、A評価であった。 取り組みに関して、心配していた学生であったが、卒業の可能性がみえ、しっかり取り組んでくれた。 1、2年次のこの学生を知っている教員からみれば、びっくりするようないくつかりとした卒業研究となった。	欠席少なく、それなりに授業課題を提出すれば、過程評価7割～8割は難しくない設定であり、いかに授業課題に取り組ませるかが大きな課題である。 今年度の履修生は、初回の専門ゼミナールⅢⅣで、全くやる気を見せず不可となった学生であったが、2回目の専門ゼミナールⅢⅣでは、十分に課題をこなし、卒業研究に繋がった。取り組みのみの問題でした。今後とも継続して指導していきたい（正直、学生の取り組み次第という部分はある） 卒業研究として、一定レベルを求めるのであれば、インゼミ等、他のゼミの学生の進捗状況などを、お互いに把握できる機会を設けたい。	授業評価5.00 回答率 100% 科目GPA 4.00
S252065 卒業研究Ⅱ	経営学に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営学に関する専門知識が身につけられることを到達目標としている。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身に付け、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を養うことを教育効果としている。	ネパール人留学生、運動系の日本人学生といった学生構成。専門ゼミナールⅢ・Ⅳでの学びは経営・国際・文化の三本軸で展開したので、その成果を卒業論文に活かすように情熱を持って指導した。	授業評価では最高点を得た。だが、回答率も科目GPAも決して満足のいくものではない。 提出された数々の卒業論文を改めて見直すなど、指導不足を感じるののは否めない。指導力向上のために、関連分野の知識と情報のアップデートに努めたい。	授業評価 5.000 回答率 50.000% 科目GPA 2.500
S252066 卒業研究Ⅱ	論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。	2025年度も、12月末に卒業論文の完成原稿を提出させたが、2月上旬の卒論提出日までに卒論を完成させられない受講生がいた。	次年度は、卒業論文の進捗状況を確認することを目的としたゼミ内の発表会を複数回実施したい。	授業評価5.00 回答率10.0% 科目GPA2.70
S252067 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身に着けることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けたい。前で発表できない学生の対応に追われ、今後は、授業以外の時間に個別対応する。	授業評価 5.0 回答率 60.0% 科目GPA 4

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回収率 科目G P A
S252068 卒業研究Ⅱ	①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は9人、その内訳は、日本人学生5人と中国人学生4人であった。毎週書き足した論文を受講者全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それを持ち帰って、次週、修正した論文を添付ファイルで送信して、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているのかを確認するという一連の作業を繰り返し行った。ただ、中間発表会はゼミ内で行い、また、コロナ禍の影響で審査審査発表会もゼミ内で行った。中間発表会に際しては、事前に何度もリハーサルを行い、パワーポイントのスライドの修正を行い、時間内に発表できるようになるまで、繰り返し練習をさせた。また、卒論審査発表会では、全員が十二分に準備し、予定時間内で発表することができた。	6人の履修者のうちで1人だけが授業アンケートに回答した。ゼミ生は毎週の授業にほとんど出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションもある程度満足できるレベルであった。また、科目GPAが3.16と比較的高かったことが良かった。ただ、1人の学生が後期の履修科目をすべて欠席過多とし、卒業不可になったことが残念であった。そのため、合格率（合格者÷履修者）は83.3%で、目標90%以上をクリアすることができなかった。	授業評価4.600 回答率 16.7% 科目GPA 3.16
S252069 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	昨年度からのゼミナールの学習の集大成として、前期からの各学生が選択した労働法のテーマについて、それぞれのベースに合わせて研究を進めていった。前期は1、2章で先行研究を中心にを行い、本演習ではメインとなるオリジナルの章を作成した。主要な参考文献と最新判例の選定をもとに、効果的な論文構成を目指して適宜指導を重ねた。卒論は、最終的に全員が合格点には到達することができたが、本年度も完成予定日より時間がかかった学生も複数いたので準備を早めたい。書式面を重視したが、内容としては卒業論文にふさわしい論文に到達したものと考える。	演習の進め方のついては、おおむね満足していたようである。各回それぞれにしっかり指導できたので、全員の完成に際し目途を立てることができた。卒業論文審査会は、他のゼミの参加があるので、わかりやすく内容を効果的にプレゼンテーションできるように、予行練習を増やすなど、より指導方法をより工夫したい。	授業評価4.760 回答率45.5% 科目GPA4.00
S252070 卒業研究Ⅱ	経営学関連の学習の成果として、経営絡みの分野の範囲内で各自卒論テーマを制定し、そのテーマを解明すべく卒業論文を作成することを目的とする。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらう。 経営学関連の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを卒業論文という形式で調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	個人的にここ数年で一番問題児揃いのゼミ生だらけで大変苦労させられたのが実感である。結局1名は全く卒論の執筆が捗らずに留年が確定してしまった。最終的な成績も、S4名C4名（他A1名）と極端な結果となり、真面目なゼミ生と問題児ゼミ生の差が鮮明となった。改めて指導の難しさを実感させられた。	科目GPAは流石に昨年度の3.33より大幅ダウンしたが、昨年度の評価値4.767及び回答率66.7%と差ほど変わらなかったのは意外であった。卒業させてもらい有難うという意味が込められていたのだろうか。ともあれ早期に効果的な指導をする必要性を実感させられたという意味では貴重な経験であった。	授業評価4.857 回答率 70.0% 科目GPA2.30
S252071 卒業研究Ⅱ	経営学関連の問題に関連したテーマを自ら設定し、そのテーマを調査・研究し解明していくことによって、経営能力を身につけることができる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。	授業評価5.00 回答率20.0% 科目GPA2.20
S252072 卒業研究Ⅱ	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。	ゼミナール形式で、前期の専門ゼミナールⅣから引き続き、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と卒業論文の執筆を行った。そして、収集した資料および卒業論文についてまとめ、発表することを繰り返し行った。後半は、執筆している卒業論文の完成に向けて、添削と修正を繰り返し行った。資料収集に苦労する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上したと感じている。 今後は、資料の読解と、卒業論文の執筆方法について、早い時期から取り組むことができるよう、前期から構成を検討していきたいと考えている。	対面でのゼミナールと言うことで、解説と課題作成、卒業論文の執筆を効率良く進めることができるように工夫した。個別に指導する機会を多くし、卒論に関する内容説明を時間をかけて解説することを心がけた。今後も個別指導の機会をできるだけ多くとるように心がけ、卒業論文の執筆につなげていきたいと考えている。	授業評価4.950 回答率 36.4% 科目GPA2.45
S252073 卒業研究Ⅱ	いままでゼミで習得してきたことをもとに、各自研究や課題となるテーマを見出し、研究テーマを選定し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながら、文章をまとめる力を身につける。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を身につける。	授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、個人指導が多かった。ゼミ生それぞれの卒論研究の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めた。学生の就職活動の時間を調整して授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進度に合わせた指導を心掛けた。	昨年度の回答率（80%）と比較すると、本年度は回答率が大幅に低下いたしました。また、科目GPAも下がり、2名が今年度卒業できなかったことも、その一因であると考えられます。 未回答者が一定数存在したことを踏まえ、今後は回答率向上に向けて、周知方法や実施形態の改善を検討してまいります。今年度は、ゼミ生10名全員が就職活動を行っており、全員が同時に出席することが難しい状況が続きました。 そのため、授業運営は個別指導を中心とし、卒業論文の進捗および就職活動の状況に応じて柔軟に対応いたしました。今後も授業外の時間も活用し、学生一人一人抱えている課題に応じた指導を行っております。	授業評価5 回答率 20% 科目GPA2.80
S252074 比較思想論	歴史上有名な様々な思想の概略を理解している。 近年の経営や情報（IT）に関する様々な思想の概略を理解している。 それらを比較して考える事が出来る。	比較思想論を受け持った2年目になるが、哲学の分野は抽象的な表現が多く、相変わらず苦慮した。学生たちは4年生ということで、後期授業でもあることから卒業の可否がこの授業にかかっている。そこで、できる限り分かりやすい授業を心掛けた。具体的には、西洋哲学と東洋哲学の資料をできるだけ現代の言葉や日常生活でのあり方と対比させることで、理解を深めるようにつとめた。その結果、やや積極的な取り組みに変化してきたように感じている。	学生ができるだけ興味をもって取り組めるようにするため、古代・中世と現代のつながりをイメージできるようにかみ砕いて説明することで、取り組みに多少も変化が見られたことはよかったと思う。今後もより理解が深められるよう一層資料を研究し、授業に対する取り組みを工夫していきたい。	授業評価4.52 回答率 72.7% 科目GPA 1.82

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目G P A
G252001造形理論B	日本の現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。	大学院1年生の選択科目である本授業の内容および方法は、人と人との関係に係る社会造形として成立してきた日本の伝統的なコトを対象に、それら社会造形の作法、礼儀、しきたり、行事、担い手等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、社会造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーションやディスカッションによって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。14回の授業のうち10回、授業内容に関する課題を設定することで、知識の定着に加えて、受講生自身の専門領域との関わりの中で考察する姿勢を身に着けるように工夫した。目標に対する一定の教育効果があったと考えられる。	履修者33人、回答者24人であった。2021年度秋学期に授業評価アンケートの高評価により表彰をいただいた科目の継続科目であり、今年度も設問1,2の平均は4.8、設問3,4,5の平均が4.9となり、今期は受講生が33人と大学院授業の中で最多である中、高い水準を維持している。今後も、今年度の授業方法を踏襲し、さらに、討論等、考察力を高める工夫を図りたい。	授業評価 4.850 回答率 72.7% 科目GPA 3.70
G252003 造形特論	造形行為の本質と可能性、および造形をとりまく現代の状況について理解し、受講生自身が自然や文化の感性的な側面について自立的に考察できるようになることを目標とする。	大学院2年を対象とした本授業は、人間の感性、ならびに造形を巡って、これまでどのような問いと考察が重ねられてきたのかを学び、西洋と東洋の表象世界におけるさまざまな事例を通して、古今東西で描かれた世界がいかなるものか、また、それらを造形の担い手である芸術家や職人たちが、どのように捉えて造形行為にいたったのかを考えるものである。オンデマンド授業を主とした形式を採用し、受講生の興味関心を引く資料作成を心掛けた。10回の課題を通して、理解を深化させ、自省的に考察する力を身に着けられるよう工夫した。	履修者全員が回答し、満点の評価を得たことは、受講態度や提出課題状況は良好であったことから裏付けされ、十分な教育効果があったと考えられる。カリキュラム改訂により、この科目は今期で終了となる予定である。	授業評価 5.00 回答率 100% 科目GPA 4.00
G252004 デザイン学特別講義	さまざまな領域のデザイン事例（トピック）をもとに、デザインに関する総合的な知識と技術を学び、現代社会に存在する問題を解決するための企画・調査・設計・監理のための方策を立案、計画することができるようになる。	昨年ほどではないが、今回も33名受講した。教員間の連絡は取るようにしたが、基本的にはそれぞれの専門分野のオムニバスで評価には差がある。総括的な定期試験のだんだん無意味になってきているので、次年度はそれぞれの分野の過程評価で消化することを、担当教員間で協議し決定した。	基本的に例年の方法を踏襲した。毎回授業レスポンスを求めている。オンデマンド配信では動画とPDFを使っている。昨年のコンテンツをもとに新たなトピックも盛り込むようにした。4名の教員で対応したが、連絡はサイボウズで行った。	授業評価4.725 回答率 72.7% 科目GPA2.49
GA25201 設計演習B	地域が抱える社会課題の抽出とその分析を行うことができる。 地域課題にもとづいた設計提案を行うことができる。 実践的な設計提案として展開、プレゼンテーションすることができる。 オンデマンド授業と対面授業を織り交ぜながら進行します。	全履修学生が留学生であった。今年度の大学院の留学生たちは愛知産業大学の学部の設計の授業を履修していないため、建築模型を作る対面授業を1回行ったが、最終提出には模型も必要なので今後も行った方が良いと考えている。日本の木造のモジュールは昔から今に至るまで畳を基準とした910mmグリッドで考える（建材がその寸法で生産されている）ことになるため、まずそのモジュールを説明し、その寸法体系で設計させた。しかし最終提出では半数以上の学生が910mmモジュールを守れておらず、来年からは、学部1年生がやっているように、日本の木造建築のトレースをオンデマンドで組み込むことで改善することを考えている。	最終提出図面の寸法が「2434」など一の位まで指定する設計になっていたり、そもそも通り芯の概念が無く壁の厚みは表記せずに内寸を表記する学生も何割かいた。3D・CGができるので内観・外観がレンダリングで提示され一見すると成立しているかのように見えることが、逆にかなり危険だと感じたので、日本の木造建築のトレースをオンデマンドで組み込むことで改善することを考えている。	授業評価－ 回答率 －% 科目GPA 3.17
GA25203 環境デザイン論	環境に配慮した建築を設計する上で求められる知識を習得し、環境・エネルギーに配慮した建築の提案ができることを目標とした。省エネや環境負荷低減に配慮した建築の在り方が求められていることから、これを具体化するため、地域環境の特性をふまえた省エネやパッシブデザインについて総合化し、どのような建築が望まれるのかを各自が考え、提案を通して実践力を高めます。	世界のいずれかの地域を具体的に取り上げ、その地域の気候や文化、風土を調べ、発表をするという課題を重ねながら、積み上げたものを最終提案に結びつけた。学生それぞれが、地域風土を反映した建築的解決手法について提案を行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価4.8 回収率90.0% 科目GPA3.10
GA25205 材料設計論	1.建築物の材料設計を理解する 2.建築材料の設計の評価法について理解する 3.建築材料の設計の今後の展開について理解する □ 建築材料設計に求められる内容を理解する。具体的には無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、質のいい建築を設計するために、建築材料の評価をし、特性を理解しそれぞれの材料を組み合わせるいくかを学び今後の展開となる研究に結び付ける。	受講生は皆さん前向きで、発表準備も充分に行い発表を行われていた。とても有意義な授業だったと感じている。	授業の際の資料の日本語が難しいが、皆さん理解する事への努力をされていたこと、感心している。 来年度も同じように授業を進め、学生の発表時に活発な意見もできるようにしていきたい。	授業評価5.00 回答率 66.7% 科目GPA 4.0

GA25209 建築学ゼミナールB	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価- 回収率-% 科目GPA 3.5
GA25212 建築学ゼミナールB	自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院2年時に行う修士設計へと繋がるリサーチとテーマの設定、課題の整理を行った。	日本語が得意でない留学生もいるため、成果のプレゼンテーションの方法の重要度を高められるように指導を行う。	授業評価5.000 回答率 66.7% 科目GPA 3.333
GA25213 建築学ゼミナールB	目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。 教育効果 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から、研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	修士設計に繋がる研究と位置づけ、対話を重ねながらテーマの設定、問題提起、コンセプトを整理し、研究計画の作成を行った。情報収集と分析を行い、テーマを設定することができた。	日本語が得意でない留学生もいるため、日常的なコミュニケーションを通じて日本語能力の向上を促し、積極的にディスカッションに参加できる環境を整えていきたい。	授業評価 5.000 回答率 100% 科目GPA 3.25
GA25215 建築学ゼミナールB（集中）	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 4.000
GA25220 建築学ゼミナールE （集中）	達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 5.00 回答率 100% 科目GPA 4.00
GA25222 建築学ゼミナールE	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価- 回収率-% 科目GPA3.5
GA25225 建築学ゼミナールE	建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	個別指導をするなかで、資料収集、調査、分析、設計、プレゼンテーションをしっかりと習得していただいたと考ええる。	授業評価は、高い評価を得たため、次年度も同様に個別指導を丁寧に行う形で進める。	授業評価5.000 回答率 50.0% 科目GPA 4.00

GA25226 建築学ゼミナールE	目標 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 教育効果□ 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の設計提案をすることができます。	修士設計に至った経緯や根拠を整理し、その成果が社会造形に及ぼす影響や効果についての展望を含めて総括を行い、設計の完成段階の成果を最終研究報告書にまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。	スケジュールを前倒して設計を進めたため、模型制作、プレゼンボードともにクオリティを高めることができた。今後も、エスキースや作図を早い段階でまとめ、計画的に設計を進めていきたい。	授業評価 5.000 回答率 25.0% 科目GPA 4.00
GA25228 建築学ゼミナールE (集中)	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 4.000
GA25233 建築学ゼミナールF (集中)	達成目標 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価 5.00 回答率 100% 科目GPA 4.00
GA25235 建築学ゼミナールF	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価- 回収率-% 科目GPA3.5
GA25238 建築学ゼミナールF	建築設計、都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計、建築材料、マネジメントの各研究分野において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。	個別指導をするなかで、資料収集、調査、分析、設計、プレゼンテーションをしっかりと習得していただいたと考ええる。	授業評価は、高い評価を得たため、次年度も同様に個別指導を丁寧に行う形で進める。	授業評価5.000 回答率 50.0% 科目GPA 4.00
GA25239 建築学ゼミナールF	目標 自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士設計をとりまとめ、発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 教育効果□ 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の設計提案をすることができる。	修士設計に至った経緯や根拠を整理し、その成果が社会造形に及ぼす影響や効果についての展望を含めて総括を行い、設計の完成段階の成果を最終研究報告書にまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。	スケジュールを前倒して設計を進めたため、模型制作、プレゼンボードともにクオリティを高めることができた。今後も、エスキースや作図を早い段階でまとめ、計画的に設計を進めていきたい。	授業評価 5.000 回答率 25.0% 科目GPA 4.00
GA25241 建築学ゼミナールF (集中)	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	大学院生なので個人の能力を判断しながら、テーマを深めるためにどのような手段や方法を与えるのが良いか、あと1年半のスケジュールを見ながら、工夫しながら進めた。	修士研究の内容に相応しいように、設定したテーマに即した内容の課題をこなすように工夫をした。 論文の書き方指導や、内容について、細かく指導した。 遠地での建築調査にも同行し、建築の見方・調べ方を指導し、調査成果をどのようにまとめてくか、自分でも考えさせるように工夫しながら、指導した。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 4.000
GD25201 デザイン演習B ブレンド授業	領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標である。研究コンセプトを具現化するための検討手法の修得において、デザイン分野全体を視野に入れた実践的なデザイン能力の向上を図ることを目的としている。	受講生は17名 学部で習得した内容と重複せずにさらに学ぶべき内容の授業であり、その目的は達成された。	留学生は、専門知識・技術の前に日本語の能力向上が不可欠である。課題違反を防ぐために板書やUNIPA等を工夫する。	授業評価4.96 回答率 4.96% 科目GPA3.5

GD25203 情報デザイン論	情報デザインの手法を理解し、現存する情報の評価や問題点の抽出を行います。また、メディアの特性を活用したコンテンツの構成方法を立案できるようにします。	「情報デザイン」の概念を留学生に理解してもらうのは大変だった。各自の研究内容を情報デザインの観点から説明できるようにしたかったが、達成度に関きがなかったと思う。コンテンツ系の人たちは情報デザインに対して知見を増やすことができたと思う。プロダクト系にはプレゼンの文脈で情報デザインの考え方を説明するようにした。	今回、受講生20名とこれまでにない大人数であった。所属ゼミもコンテンツとプロダクトに分かれ、それぞれの「情報デザイン」理解に向け、柔軟に対応するようにした。	授業評価4.634 回答率 70.0% 科目GPA2.4
GD25204 空間デザイン論	人が認知する空間を分析的に把握することで、より美的な空間を演習できる能力の向上を目指します。	多様な領域の学生15名が対面で参加した。双方向の意見交換を重視しながら講義を進め、日本の住まい方と学生の母国の住まい方を比較する課題に変更し、学生の興味・関心を引き出す工夫を行った。プロセスごとに課題を設定し、プレゼンテーションを実施することで、授業内容の理解を深め、能動的な学びにつなげることを目指した。	改善点として、専門的すぎる内容は他分野の学生の興味を損ねる一方、基礎的すぎると製品空間領域の学生には物足りなく感じられるため、授業内容のバランス調整が求められる。そこで、導入部分で幅広い学生が理解しやすい基礎知識を丁寧に解説し、その後に専門的な応用例や実践課題を取り入れることで、多様な学生の関心に対応する工夫を進めていく。また、グループワークやディスカッションを通じて異分野の視点を共有し、互いの理解を深める機会を設けることも有効と考える。	授業評価4.667 回答率 80% 科目GPA 2.2
GD25205 先進システムデザイン論	最新の技術と知識を統合したシステム設計において、以下の能力を身につけることを目指します。 採用する技術の選定理由を説明し、それがどのようにシステムの目的達成に貢献するかを具体的に述べるができる。 システムの設計内容における新規性や独創性を理論的に考察し、具体的な事例やデータを用いて論証できる。 人工知能、機械学習、生成AI (LLM、LDM)、ビッグデータ、IoT、ロボット、データサイエンスなどの最新技術と知識を効果的に統合し、システム設計において新規性や独創性を主張できる能力を養成します。	受講者は各自の研究テーマに基づき、先進事例の調査および分析を主体的に進めることができており、授業目標に沿って自身の提案の位置づけを一定程度明確にすることができていたと考えられる。特に、最新技術の動向を踏まえた分析や、自身の研究との関連付けについては一定の成果が見られた。 一方で、受講者数の増加により、個々の提案内容に対する議論やフィードバックの深度に限界があり、技術選定理由の妥当性や新規性・独創性の論証について、個別に十分な指導が行き届かない場面があった。結果として、一部の受講者においては理論的裏付けや具体的根拠の提示が不十分なケースも見受けられた。	受講者数の増加により個別指導の深度に課題が見られたため、少人数グループによるディスカッションと相互レビューを導入し、議論機会の確保を図る。また、評価基準を明確化し、技術選定理由や新規性の論証を促進する。さらに、段階的な中間提出とフィードバックを実施し、学習過程全体で質の向上を図ることで、設計力と論証力の強化を目指す。	授業評価 4.47 回答率 72.2% 科目GPA 2.33
GD25206 デザイン学ゼミナールB (集中)	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自恃の獲得を目標とする。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。	受講生は5名 Iに続いて行った科目で、学生は進め方が理解して順調に研究が行われた。	留学生は、専門知識・技術の前に日本語の能力向上が不可欠である。	授業評価5.0 回答率 60% 科目GPA3.4
GD25207 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自恃の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	ゼミ生の指向性と能力に差があり、まとめるのに苦慮した。意識の高いものももっと深まりがあってもよかったと思う。デザインの意識が低いものには、創造的表現の意味を理解するところまで至ることができなかった。	個人指導を徹底して行った。連絡にはUNIPA, Onedriveを利用した。	授業評価5.0 回答率 50.0% 科目GPA 3.0
GD25208 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自恃の獲得を目標とする。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめる。	ゼミ内でのボジション、役割などが見えてきてそれぞれのペースで研究が進んでいるようだ。だが、研究制作過程の可視化について、各個人的にはいいのだがゼミとして、学年としては問題がある。もっとレベルを上げるためには可視化することでの相乗効果を期待したい。その一つとして上位学年の最終審査や展示を見せたかったのだが日程を伝えた後に変更となり、帰国チケットを取った後だったので見せることができなかった。奢侈や動画を撮って示したが、実物を見ることは及ばない。残念だった。	研究制作過程の可視化とゼミ内及び研究科としての相乗効果を促し策を練りたい。	授業評価5.000 回答率 50% 科目GPA 3.625
GD25211 デザイン学ゼミナールB	学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価- 回答率 -% 科目GPA 4.00
GD25212 デザイン学ゼミナールB	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自恃の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて充分に理解することを目的とします。	受講生3名(全員留学生)を対象に対面で実施した。毎回の授業で進捗状況の報告を行い、実制作段階では迅速な対応が必要となるため、授業時間外にはSNSを活用してきめ細かくサポートした。	少人数であるため、留学生それぞれの能力や個性に応じた対応を心がける。学生が主体的に学習を進められるよう適切にサポートするとともに、授業アンケートへの回答も積極的に促す。	授業評価4.9 回答率 66.7% 科目GPA 3
GD25222 デザイン学ゼミナールE (集中)	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とする。研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とする。ここではモデルの制作を行う。	受講生は8名 全員順調にモデルの作成が行われた。	特に問題はない。	授業評価5.0 回答率 25% 科目GPA3.875
GD25223 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	受講生は3名でそれぞれの研究内容も異なっていたが、良好なコミュニケーションをとることができた。うち1名はやや大規模なインスタレーションを計画しており、ほかの学生のサポートを必要としたが、ほかの学生は良く協力していた。良好な成果を得ることができたと思う。	インスタレーションを行う学生に対しては、展示空間を授業当初から確保して十分な試行錯誤ができるようにした。1名は発表の形式を変更し、それについて十分な検討を行うようにした(やや強引であったかもしれない)。	授業評価5.0 回答率 33.3% 科目GPA 3.33
GD25224 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。 ここでは研究作品の指導に重点を置いている。	各自のペースで研究制作は進んでいたが、ベースメーカーだった学生がインターンシップで不在の時間が長く、全体の進度は良くなかった。また彼らの制作の完成度が低く、国民性の違いではあるがせっかく日本で勉強するのだからなんとか指導したいのだからうまく伝わらない。	ベースメーカー、リーダーを複数設定することで今回のようなリスクを避けた。	授業評価5.000 回答率 42.9% 科目GPA 3.143

GD25227 デザイン学ゼミナールE	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価5.000 回答率 2.86% 科目GPA 4.00
GD25228 デザイン学ゼミナールE	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とします。	受講生6名（留学生）を対象に対面で実施した。学生は毎回の授業で必ず進捗状況を報告し、締め切りが近づくと迅速な対応が必要となるため、授業時間外はSNSを活用してこまめにサポートした。	少人数であるため、留学生の能力や個性に合わせて対応する。学生が主体的に進められるよう、サポートしていく。	授業評価4.867 回答率 50% 科目GPA 3.5
GD25240 デザイン学ゼミナールF	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い修士研究として相応しい内容と体裁を完成させることを目標とします。ここでは研究資料等の指導に重点を置いている。	資料集の必要性を説明するのが大変だ。サンプルがあるといいのだが、修了者には持ち帰らせたい。	定期的にチェックすることで、提出間際の過剰な仕事をコントロールしたい。	授業評価5.000 回答率 57.1% 科目GPA 3.143
GD25243 デザイン学ゼミナールF	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価5.000 回答率 2.86% 科目GPA 4.00
GD25244 デザイン学ゼミナールF	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い修士研究として相応しい内容と体裁を完成させることを目標とします。研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とします。	受講生1名（留学生）を対象に対面で実施した。学生は毎回の授業で必ず進捗状況を報告し、締め切りが近づくと迅速な対応が必要となるため、授業時間外はSNSを活用してこまめにサポートした。	少人数であるため、留学生の能力や個性に合わせて対応する。学生が主体的に進められるよう、サポートしていく。	授業評価 5 回答率 100% 科目GPA 4
GD25602 デザイン演習D	領域の実践的デザイン能力の向上を図りつつ、①基本的テーマを迅速・確実に提案する、②このために基本的知識・技法を再学習する、③より高度な提案に結びつけることができることを達成目標とします。	履修者間で良好な信頼感を形成し、協力してそれぞれのテーマに対する有効な方策を立案し、予定時間内で過不足なく実施することができた。	この授業の目的を有効な提案を行うためのプラン立案と実施に設定した。具体的には各自の終了研究発表を有効に行うための方策を講じ、実行した。プランについては履修相互で評価を行い、実際の終了制作展示において実践した。	授業評価5.0 回答率 33.3% 科目GPA 3.33

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03108 造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。造形に対する考察は抽象度が高く何がともすると正解が不明瞭になりがちな分野である。これを補うため評点のための評価シートを作成し評価項目ごとに丁寧にコメントを記すことで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。	本科目では学習内容をより効果的に理解し、学習成果を高めるために考察対象の作例を選択することがポイントとなります。ポイントをまとめた授業資料作成の必要を感じています。
03151 デッサン基礎	作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業ではなく、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考察した授業です。対象再現的な表現ではなく、造形物を構想するためのデッサンと建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。また透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としており、その有効性については受講生からの満足度が得られていると考えます。 対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03152 立体造形基礎	- 素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 - 発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようにする。 - テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 - 今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 - 自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についての指導方法について検討してきました。学習内容は立体構成における造形発想の手法が中心となります。多くの学生はこれまで考えたことも学んだこともない発想法を体験しその活用の仕方を知得することで造形活動に対し前向きに取り組んでいます。	昨年度より毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにしています。学生からはレポートの制作が学習の上でとても有意義である、という意見を聞くことができました。これを受けレポート項目をよりきめ細かく設定することで、学生からはレポート作成を通じ日々の学びを整理し理解し、気づきを得られるようにしました。学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。
03153 デザイン基礎	- 素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 - 発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようにする。 - テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 - 今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 - 自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。多くの学生ははじめて学ぶ発想法の有効性を実感していると考えます。毎日の授業の最後に振り返りレポートを書かせることにした。学生からも、文章化することによってその日1日の学びを整理し、身につけることができるので良い、という意見を聞くことができました。 対面授業に加えオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしています。オンデマンド学習にあたっては昨年度の改善課題であったteamsを活用した学習指導を取り入れました。	学生に提出させたレポートは使い方を考えることで以後の学生の学習教材としても有効活用できます。その点を中心に改善、工夫をしていきたいと考えています。

03281 環境造形基礎A	デッサンを学習する目的を理解する。 デッサンで使用する用具を理解する。 線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。 平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。 形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。	デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初学者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い。 学生の大部分はデッサンの未経験者。自宅で行いながら自身の到達度や欠点、不十分な点など理解するのが難しいです。まず基礎課題を提出し学習の理解度や修正ポイントなどを指導する。基礎課題に合格した後応用課題に取り組むというように課題提出を二段階に設定して丁寧に指導している。	添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行なっていきたいと考えます。造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え方、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。
03282 環境造形基礎B	美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことができる。	デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のままで担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具のつか方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じていることについて昨年度述べたが、本年度まだ改訂ができていない状態です。	造形の学習はひとつの答えに辿り着くようなものではなく、多くの事例にあたり多様な考え方、感じ方を身につけさせる必要があります。そのため学生の作例とそれに対する教員のコメントなど紹介することがフレキシブルにできる学習プラットフォームが求められます。
03283 環境色彩学	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	実際に様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのと同時に作品を鑑賞したり参考にしたりにする場面にも資する有効な学習体験を与えていると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。 評価についても評価項目を細かく設定し評価点と同時に教員からの具体的なフィードバックコメントを記載、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考えます。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えていますが、現状の通教オンライン（UNIPA）の使用ルールではそれが自由に行えないため、別の方策を考えざるをえない状況です。ひとつの答えがある学習ではないため多くの事例に触れさせ多様な考え方を身につけさせたいと考えています。
03284 サイン・グラフィックデザイン概論	空間や建築デザインの中でサイン・グラフィックデザインが果たす役割について認識し、グラフィックデザインの基礎知識を習得することを目標とする。中でもフォントやロゴデザインについて理解を深め、ピクトグラムやサインとして、視覚的な情報を効果的に伝える方法について学習する。	レポートの題材として取り上げられるサインデザインやロゴタイプに多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通してサイン・グラフィックデザインへの興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	デザインを論理的に分析することができない提出物が多いので、取り上げているサインデザインや学生の制作物について、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03286 ワークショップ概論	本授業は、ワークショップやファシリテーションの理論と実践を学び、多様な主体が参加する場において対話を促進し、合意形成を支援できる基礎的能力を養うことを目的としている。授業では、講義による理論的理解に加え、アイスブレイク、グループワーク、ワークショップの企画・運営・発表などの体験的学習を重視している。受講者は他者との対話や協働を通じて、コミュニケーション能力、主体性、協働性、課題発見・解決能力を高めることができる。また、学んだ知識や技法を実践の中で活用することで、ファシリテーターとしての基礎的な資質・能力の形成につながっている。	本授業では、講義と演習を組み合わせることで、受講者が理論を理解するだけでなく、実際に体験しながら学べる授業設計を行っている。とくに、ワークショップの企画・運営・発表のプロセスを段階的に経験させることで、ファシリテーションに必要な実践的能力の育成に一定の成果が得られていると考える。 一方で、受講者の経験やコミュニケーション能力には個人差があり、グループ活動への参加度や学習成果に差が生じる場合がある。また、限られた授業時間の中では、十分な振り返りや個別フィードバックを行うことが難しい場面もある。そのため、学習成果の可視化や学習過程の支援については、さらなる改善の余地があると認識している。	今後は、ワークショップ実践後の振り返り活動をより充実させ、受講者自身が学習成果や課題を客観的に把握できる機会を増やしたい。さらに、グループ活動においては、役割分担やピアレビューを取り入れ、全員が主体的に参加できる環境づくりを進める。くわえて、授業後のコメントシートやレポートの内容を分析し、受講者の理解度やニーズを把握しながら授業内容や進行方法を改善していく。これらの取組を通して、理論と実践を往還しながら学ぶ学習環境をさらに充実させ、ファシリテーション能力の向上につなげていきたい。
03287 リサーチ演習	世界遺産や重要文化財に指定されている建築や町を題材に、インターネットでの検索だけでなく、地図や図面などの資料や、地域の図書館などでの文献史料を活用しながら、実際にその建築を訪れ、よく全体の姿から各部位にいたるまで観察し、建物のスケッチや撮影をして、その形態的な特徴や歴史的な変遷を明らかにすることを目標とします。また、その建築に携わる人々からの聞き取りや、簡単な実測が可能であれば、よりリサーチの内容や精度を高めることとなります。課題の対象とする建物や、その建物に関連する周囲の環境やディテールについて、調査や観察することで建物を見る目が養われ、さらには建築やデザインへの興味や関心が高まってくることを期待します。	比較的秀逸なレポートが多かった。出題意図を深く読み解き、丁寧なレポートになっており、第2課題のスケッチも観察眼を養うに十分な描き込みのあるものが多かった。質問対応も十分に行ったためと考えている。	シラバスをしっかりと読まない学生に対しての指導が難しい面もあった。追加の教材の検討を行なっている。

03289 リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。 量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けることができる。 目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	比較的良好なレポートが多かった。難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指南することができた。	専門性の高い内容となっている為によくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。補助教材が必要としていたので動画教材を作成し公開した。
03344 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中の学びを活かして、その集大成として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	全国で繋いで同時開催する方式にするために発表を動画であらかじめ作成して貰い、当日はその動画を流す方式に変更しているが、受講生との質疑応答がなくなってしまっているため検討の必要性を感じている
03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。
03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	授業評価： 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。
03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわられるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。図面の表現の仕方、プレゼンの仕方、質疑応答など、最後までこだわられるように指導しました。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。オープン教室などの機会を活用してゼミを行っていますが、遠方の学生もいるため、遠隔ビデオシステム（zoom）などを活用するなどして、学習の機会を提供しました。
03344 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	論文の学生が増えてきており、審査や発表などの方法について今後再検討が必要になってきていると感じる
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛けています。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い傾向があります。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えるよう工夫しています。

03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	授業評価： 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らか関連するように努める。
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	テーマ設定から学生一人一人に寄り添い、それぞれの経験や課題設定を尊重しながら、最終的なアウトプット（建築の卒業設計）に結びつくよう指導しています。最後の最後までこだわれるように、紙面レイアウトも含めたプレゼンの指導も行なっています。図面の表現の仕方、プレゼンの仕方、質疑応答など、最後までこだわるように指導しました。	卒業設計は、学生自身がテーマを設定し、設計し、プレゼン（表現）する約半年間にわたる科目です。学生にとっては、スケジュール管理がとても難しい科目なので、タイミングを見て、次のステップに移行し、出戻りしないように、できる限り検討してきたことを積み上げて進むように指導しています。オープン教室などの機会を活用してゼミを行なっていますが、遠方の学生もいるため、遠隔ビデオシステム（zoom）などを活用するなどして、学習の機会を提供しました。
03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてもZoomなどの活用があった。
03351 建築造形A	「住まうための空間」をプログラムし、それに基づいて設計を行い、プレゼンテーションでできることの習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。対面授業の学生が減ってきている。	少人数になると指導は行き届くが、他の学生の作品を見ることができなくなることがデメリットとしてある。過去の作品をあまり見せすぎるとそれに影響を受けてしまうため、あまり好ましくないが受講生の数が少ないことを考えると過去の参考作品は見たほうが良いと感じている
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	丁寧にヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めております。	学生が造形のアイデアの勘所を理解できるよう、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みます。
03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	一人一人に丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらえるように努めている。受講生に不合格者が居ない。	授業評価： 製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの揭示、アイデアを導くでいしゅカッションの増加に努める

03351 建築造形A	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入すると、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能を果たす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	設計系科目やCAD系科目に入る前の導入として位置付けられているため、建築のデザインや設計に興味を持つように、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。「かたち」がどのようにしてつくられているか、鳥の目線や人の目線など様々な角度から建築を見て感じる楽しさを伝えられるように努めています。2次元のスケッチから入る学生が多く、模型をつくりながら立体で考えるように指導しました。	美しい「かたち」をつくることに難しさを感じる学生も多く、ラフな模型のつくり方を教えるように指導しています。その上で、スケール（縮尺）感も大切な要素であるため、人や動物などの基準になる模型も制作させて、模型を通して実感できるように心掛けています。初期の段階では、たくさんアイデアを出すように促しています。
03354 建築設計Ⅰ-a	課題を読み解き、空間や造形を模型で表現し、デザインの趣旨をまとめ発表する能力の習得。	3つの課題に取り組んでもらい、それぞれ異なるスケールで作成することにより縮尺について理解してもらうという狙いがある。固定概念にとらわれず発想したものを形にする訓練として設計の前段階の科目として取り組んで貰っている。	小人数の授業だったために1人1人じっくり時間を割いて指導ができた。発表や講評もじっくり行うことができた。学生同士もコミュニケーションをとれており、良い授業ができていた
03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導します。
03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に向向いて指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。	授業評価: 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する
03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	設計系科目の1つ目であることもあり、設計のプロセスを実感してもらうよう心掛けています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。設計系の初期段階の科目であるので、図面の表現についてとくに指導しています。	イメージした建築物を具体化するための図面を描く力を身につけてほしいので、設計図の基礎的な作図・表現方法など、伝わる図面の描き方、模型のつくり方を指導しています。図面タイトル、方位や縮尺、室名などの記入を忘れる学生が多く、図面の表現についてはとくに細かく何度も指導しました。

03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設定計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	建築を3次元的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CADを用いた検討方法を指導します。
03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設定計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	最終成果物には、着色すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。	授業評価： 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。
03356 建築設計Ⅱーa	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設定計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	設計系の2つ目の科目であるため、施設の複合化も含めた機能面、構造や設備といった技術面についても理解できるように、身近な施設に置き換えより具体的にイメージできるように指導しています。エスキスの場面では、まずは視野を広げるために（他の学生のアイデアにも触れられるように）、グループでのエスキスを取り入れています。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。複合施設の設計であるため、複合の仕方についての指導をとくに心掛けました。	街中の環境に立地することもあり、周辺景觀に調和した建築を考えられるように、エスキス段階からスケッチ、模型、CADなど、多様なツールを活用して検討できるように指導しています。別々の機能をどう複合させるかに悩む学生が多く、複合の仕方や共有空間の作り方にとくに細かく指導しました。
03358 建築設計Ⅲーa	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けております。	敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導します。
03358 建築設計Ⅲ-a	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。	授業評価： 施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。
03363 建築マネジメント概論B	地域の中で建築が果たす役割を理解し、地域の環境を維持形成していくマネジメントを習得することを目標としています。建築物は環境の中に立地し、地域の生活の場や仕事の拠点となります。地域と建築との関係を考え、建築が地域社会の形成や運営に果たす役割に着目し、住環境マネジメント、エリアマネジメントを中心に学習します。	住環境マネジメントやニュータウン（団地）再生をテーマにしたレポート課題では、取り上げる事例が多岐にわたり、建築マネジメントに対する興味関心を喚起できていると感じています。身近な住環境へ目を向けて、地域活動などのソフトも意識できるように、また、「ものづくり」だけでなく、「ことづくり」の視点へも広げることができていると評価しています。くわえて、レポートの書き方、図やイラストなどビジュアルな資料の補完の方法についても指導しています。	文章だけでなくまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。ニュータウン（団地）再生は様々なところで実践されており、その情報を蓄積するように心掛けました。
03364 卒業研究Ⅰ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめ、建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。Zoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数会場を同時にこなすことができるようになり、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後とも学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。

03365 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールなどネット環境をうまく利用できている。Zoomを活用したオンラインゼミや卒研審査会は抵抗感なく活用することができるようになった。卒研審査においては名古屋や東京また福岡など複数の会場を同時につなげて行うことができ、オンラインの良さを活かすことができるようになってきた。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られる。併修生においては卒研ゼミ担当と定期的に連絡をとり、学生の状況を確認するようにしている。今後も学生が途中であきらめないように教員や併修校担当者とも連携し学生サポートを行う。
03367 構造力学Ⅰ 演習	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 「構造力学Ⅰ」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。	構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。対面授業後には復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定を行っている。対面授業と復習用のオンデマンドコンテンツの両方で学生が理解しやすい授業を今後も工夫していきたい。	授業がとてとても分かりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるよう復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定している。オンデマンドコンテンツを今後も活かしながら、コンテンツの改善や新規コンテンツ作成も行っていきたい。また質問等は通信科目と同様に通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで丁寧に対応していく。
03371 建築計画Ⅱ	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみを反映し、地域の生活や文化との関りの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価しています。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03376 構造力学Ⅰ	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類理解から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。	面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧にに対応している。	レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03377 構造力学Ⅱ	実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。 不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。	構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧にに対応している。	テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03379 設備計画学	到達目標 給排水衛生・防災設備、空調調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる	レポートの評価以外に、建築士試験の出題問題を力試しに解けるようにコメントのほうに記載した。	全体的には良くできているので大きな問題はみられないが、まとめず長いレポートを提出している学生が数名見られた。書籍を読む必要性についてどこかで説明することを検討したい。

03384 建築法規	建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。 わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。	学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03386 建築デザイン論	近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。	授業評価: レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03388 C A D I	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	近代巨匠の1人の代表的な作品を題材とし、学生が興味を持って取り組めるよう工夫をした。 事前学習として、ペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	市販のテキストは使用せず独自のものを作成している。Eラーニングにて基本操作等が学べるようにしている。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進進を目指せればと思います。オンデマンドの際の模型の提出方法を今後3Dスキャンデータにすることで教員のチェックがやりやすくなるので今後提案していきたい。
03388 C A D I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができる。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03388 C A D I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題に取り組みながら、ル・コルビュジェ設計のユニテ・ダビタシオン(マルセイユ)と、CAD (AutoCAD) の操作を学ぶ科目で、効率的に学習に取り組むことができます。CAD系科目の1つ目であることもあり、学生それぞれのスキルや理解度を考慮しながら、それぞれの設計提案に対し、わかりやすく丁寧に指導することを心掛けています。CADのスキルアップだけでなく、建築空間に対する考え方についても模型を使いながら教えました。設計提案の密度が高くなるにつれ、個別指導を行うようにしています。改修の設計であるため、そこでの活動が理解できるように、家具や人の配置についての指導をとくに心掛けました。	学生は教員の操作解説をスクリーンや大モニターで見た上で、自分のパソコンで操作をしますが、パソコン操作に慣れている学生もいれば、不慣れな学生もいるため、全ての学生が理解できるように、少しずつ操作解説や実演をするように心掛けています。スクーリングは教員2名以上で行うことが多く、チームティーチングで教員の役割分担をして進めています。
03388 C A D I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。 事前学習として、お越し絵図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	テキストを独自のものを作成しeラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進進を目指せればと思います。受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望めます。

03389 C A D II	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で他の学生が提出したレポートを紹介し、情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	オンデマンド授業において、2回のエスキスチェックと最終提出の動画のプレゼンでは指導教員の割り振りをこれまでとは変えて学生も指導をうけやすく、非常勤講師も指導しやすいよう変更した。
03389 C A D II	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03389 C A D II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 C A D III	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、BIMの操作を学ぶスタイルにより、効率的にBIMの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でBIM操作を習得でき、授業後もBIMを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 C A D III	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けております。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みます。
03390 C A D III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。 与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。 事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。 またCAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD II を受講できずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りも触れていきながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03395 防災と建築	建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。	レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。	授業評価：レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。 基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。

03399 都市計画学	おもに20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解することを目標としています。日本および欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習します。	レポート課題では、自分が居住している都市あるいは取り上げたい都市（市、町、区レベル）を選び、都市計画マスタープランなどを参照して、その都市の抱える課題や将来都市像、都市計画制度などについて学習しています。身近な都市を扱うことで、建築を規定する大きな枠組み（都市計画制度）への興味関心が喚起でき、都市計画制度についての理解も深まっていると評価しています。くわえて、レポートの書き方、図やイラストなどビジュアルな資料の補完の方法についても指導しています。	文章だけでまとめているレポートが多く、図や写真、表やグラフなどのビジュアルに補完する資料を引用して、読み手の理解を促進するように指導しています。学生の興味関心をより広げられるように、レポートの返却時に様々な情報をコメントするよう意識しています。学生にとっての身近な都市を扱っているため、昨年度はこちらの情報量が不足しているところもありましたが、1年間を通して蓄積したことで、より詳細なコメントをできるようになりました。
----------------	--	--	--